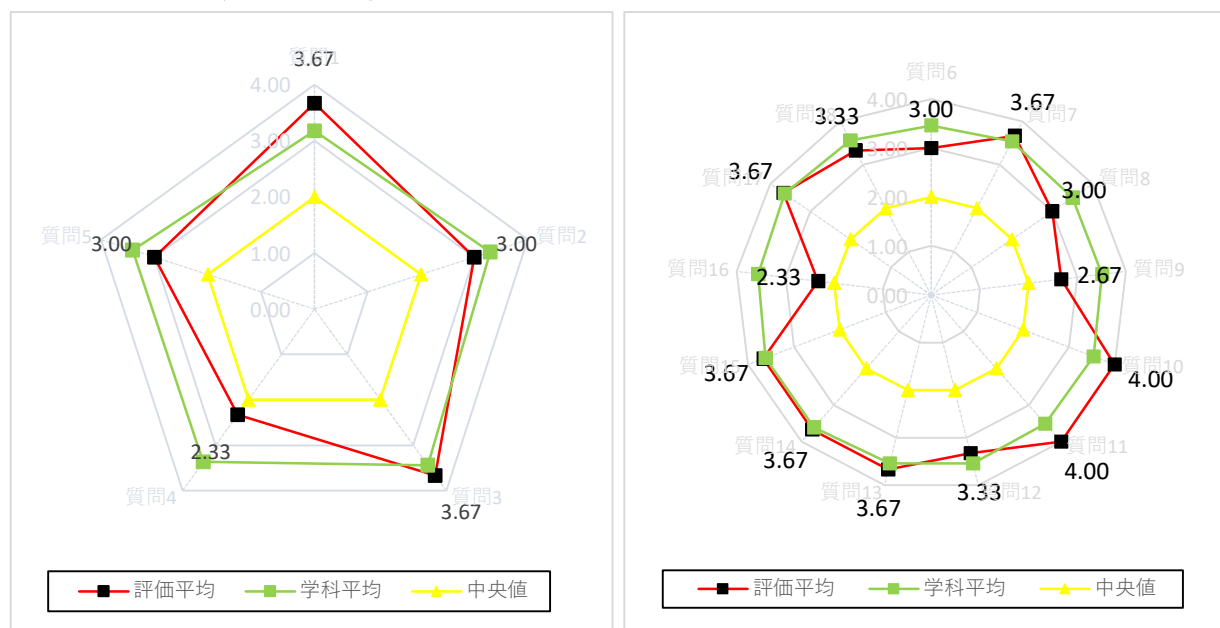


学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		あすなろう	3名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

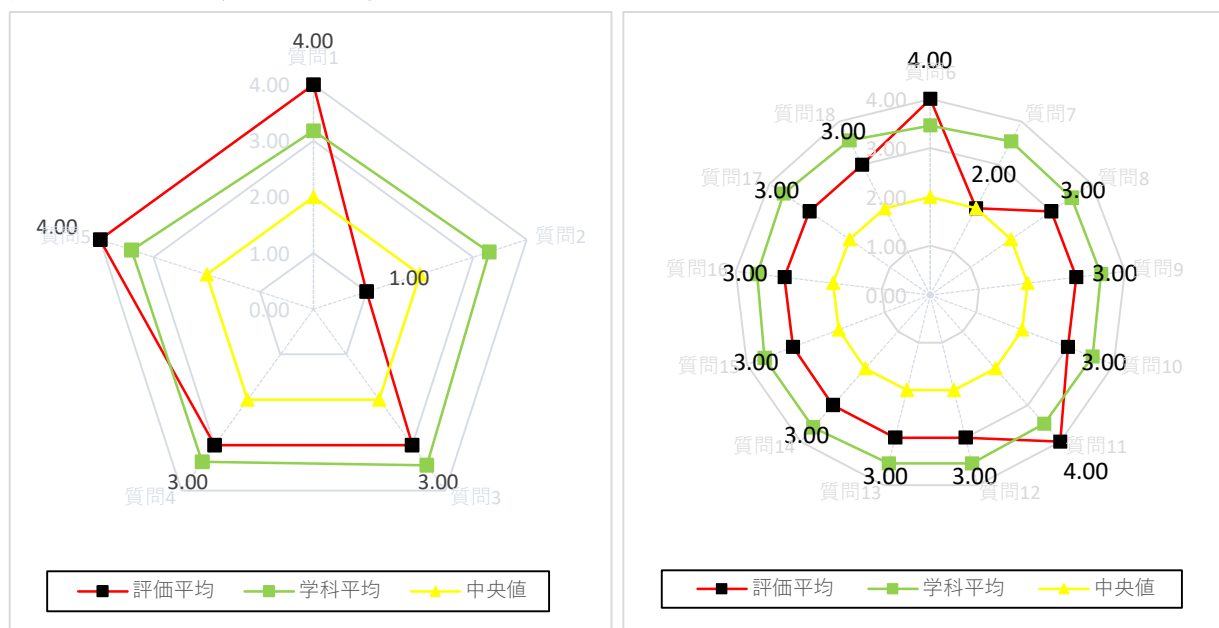
あすなろうは、社会人基礎力および学生としての学習に取り組む姿勢を育成することを目的とした科目であり、本学教育課程において重要な位置づけにある。今年度は1年生3名を担当し、グループワークおよびボランティア活動に関する支援を行った。活動への参加意欲や実施後の振り返りの内容には、学生間で一定の個人差が認められた。グループワークにおいては、主体的に活動の流れを構築し、他の学生と協働しながら活動紹介用スライドを作成する学生がいる一方で、促しを行っても発言が少なく、メール等による連絡にも応答が乏しいなど、継続的な支援や個別指導を要する学生も見受けられた。本年度の取り組みから、学生間における主体性やコミュニケーション能力の差が、グループワークや課外活動への参加状況に影響していることが明らかとなった。特に、活動への参加意欲が低調な学生に対しては、早期からの様々な角度からの関わりや個別的支援の必要性があると考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度に向けては、初期段階において学生の特性や学習状況を丁寧に把握し、役割の明確化や小さな成功体験を積み重ねる支援を行うことで、主体的な参加を促す工夫を行いたい。また、定期的な面談や振り返りの機会を設け、学生自身が学びや成長を実感できる支援体制の強化を図るとともに、グループワークにおける発言や関与を促進する指導方法についても引き続き検討していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		あすなろう	3名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

評価項目の評価得点にばらつきがあった。学生本人が積極的にシラバスを活用することはなかったが、全体的な評価は高かった。

これは、ボランティア活動など学内での学びの場以外での評価が高かったと推察する。

特に、後期は、学科での取り組みが多かったこと、学科単位で、講話の内容が異なっていたことが、質問11の評価につながったと考える。

質問8～18（11除く）の評価は、全体の平均より低めであったため、

教員からの到達目標や学生対応などの視点が弱い結果であった。これは、各講演者の紹介、単元の目的などの理解が不足し、

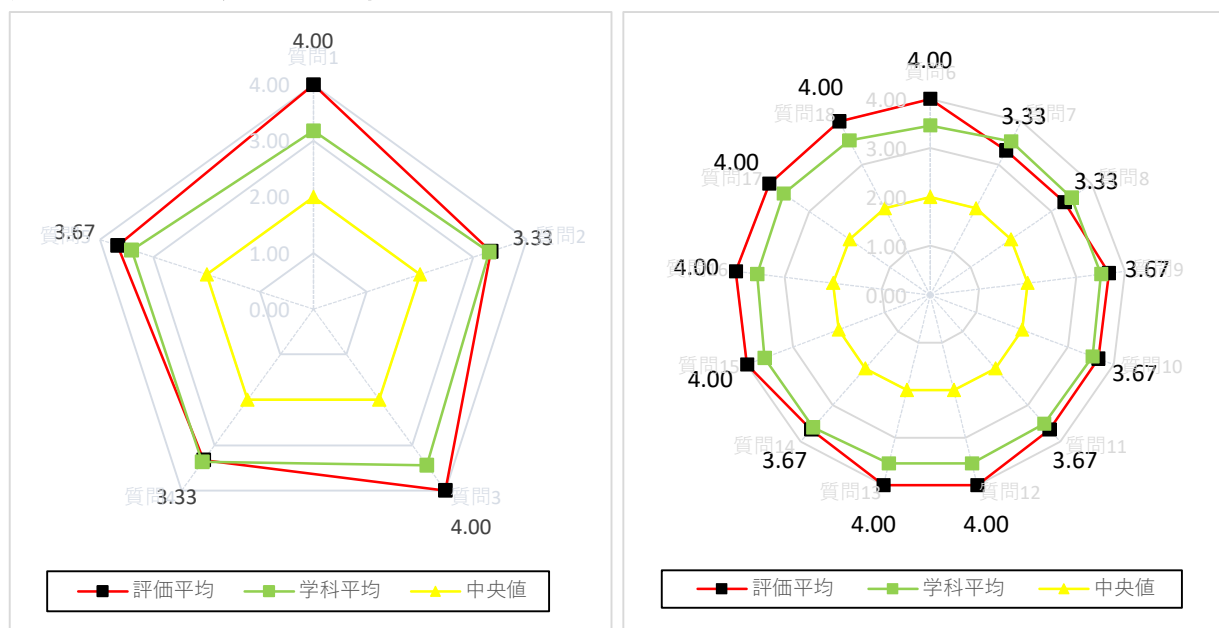
学生の達成感も下がることにつながるため、しっかりと理解できるように補足説明が必要であったのではないかと推察する。

(3) 次年度に向けての取り組み

チューター教員が対応する単元は、主に、ボランティア活動発表会に向けてのグループワークではあるが、その他にも、レポート課題や、キャリア支援などつなげて、指導を検討したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		あすなろう	3名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

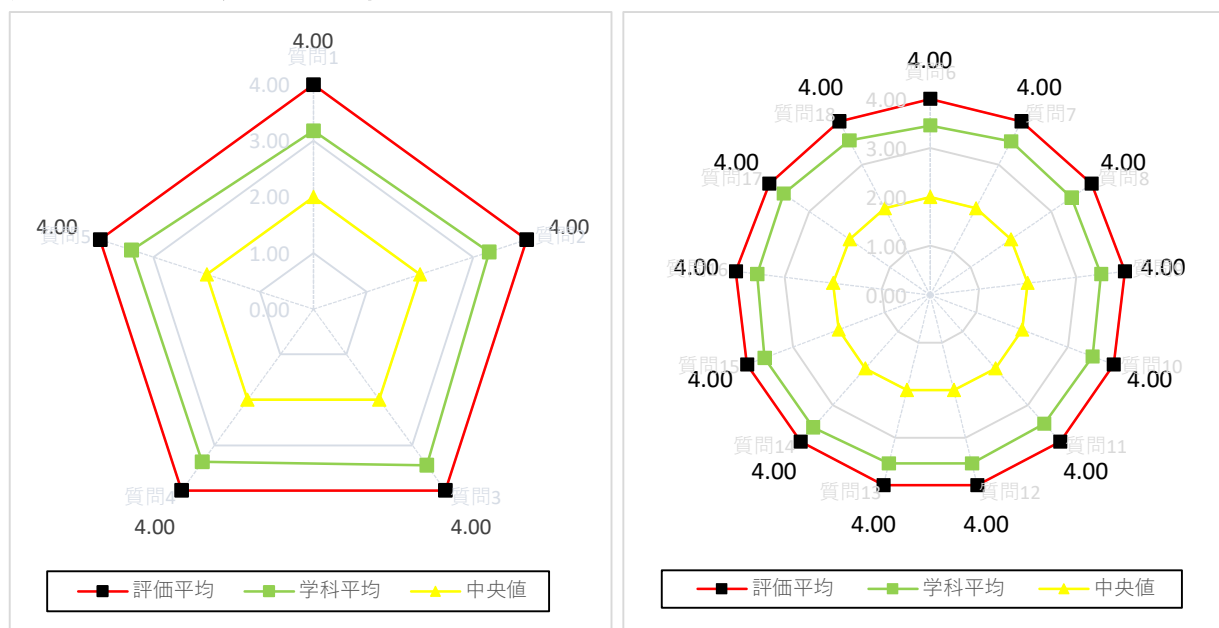
回答率100%であった。学生評価は3.33の項目もあった。後期はグループワーク・発表がメインであり、それぞれの学生の取り組み具合が反映されたと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

臨地実習指導と同時刻に開講している科目であることから、グループワークの指導に当たる機会に限りがあるが、学生とよくコミュニケーションをとりながら進めたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		あすなろう	2名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

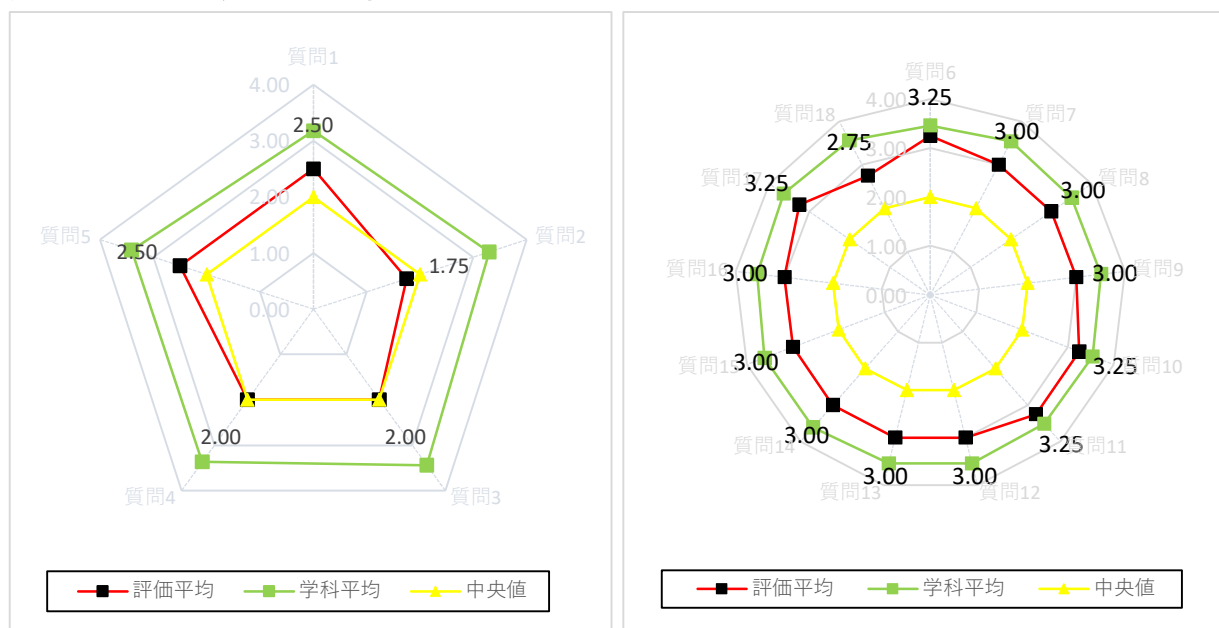
あすなろうでは、ボランティア活動の体験活動報告に向けて、学生の活動と振り返りを具体的に共有し、今後看護師を目指すなかで必要となる視点を教示することを意識した。学生はボランティア活動の振り返りの時間を十分持つことで、社会貢献への意識が高まった発言が伺えた。

(3) 次年度に向けての取り組み

あすなろうにおけるアカデミックスキル講座やボランティア活動が、将来看護職として働くうえでどのように役立つのか、将来につながる視点を考えることができるよう振り返りと学修を大切にしたい関わりを行う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		あすなろう	4名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

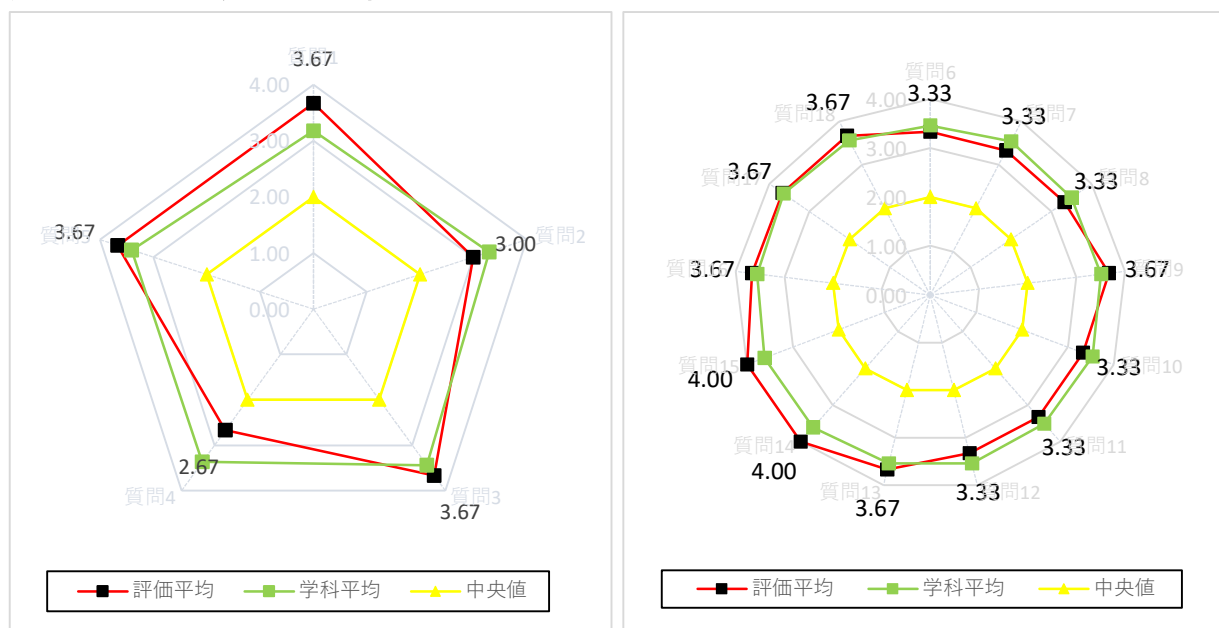
授業評価アンケートの回答率は100%であった。大半の質問項目において、共通教育科目全体平均を下回っていた。特に質問18が低い。全学的な科目かつ全教員が関わる科目であるため要因の分析は困難であるが、初年次教育を含む科目であることの意義を十分に伝えられていない可能性が推察される。

(3) 次年度に向けての取り組み

全学的な取り組みが必要であり、1個人で改善することは困難である。必要に応じて上伸していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		あすなろう	3名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

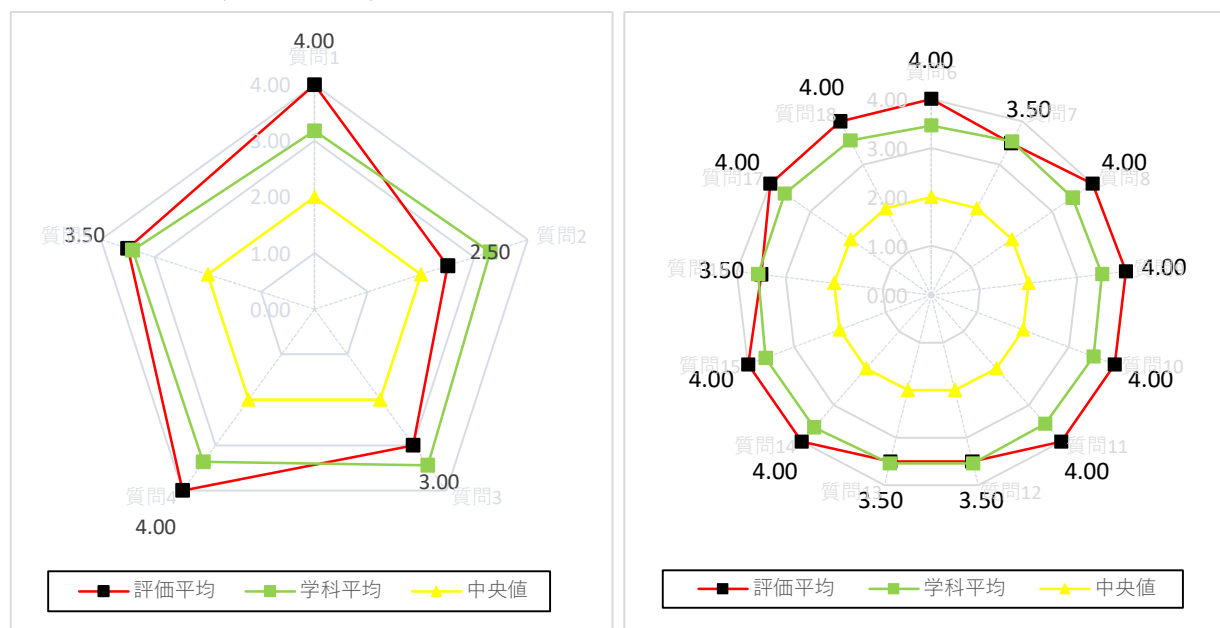
評価平均は3.50であった。学科平均を下回っていたものは問2と問4である。特に問4の評価が2.67と低い傾向にあった。後期は各学部に分かれてキャリア形成の講義や発表会に向けての準備が主であるが、担当学生は受け身の姿勢であったと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度のあすなろうでは、レポート課題提出後早々にフィードバックを行い、発表に向けたグループ学習においては自らのアイデアをグループ内に出していけるよう助言しながら指導を行っていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		あすなろう	2名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

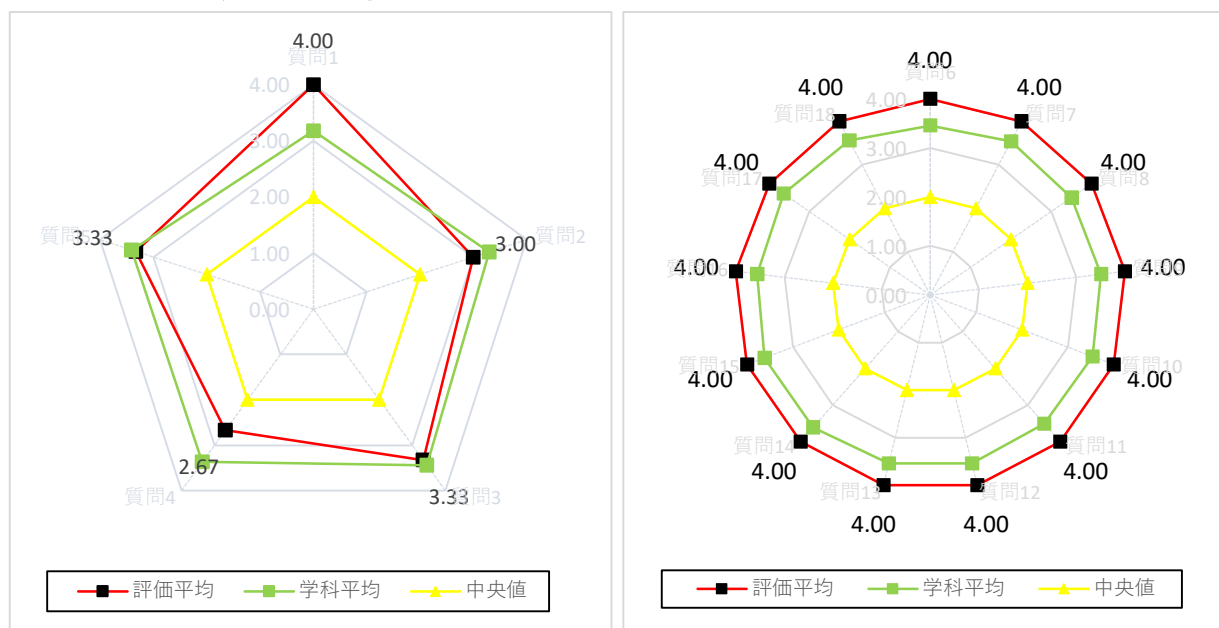
学生は積極的に参加して、ボランティアもよく頑張ってくれました。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生の成長をともに喜ぶたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		あすなろう	3名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

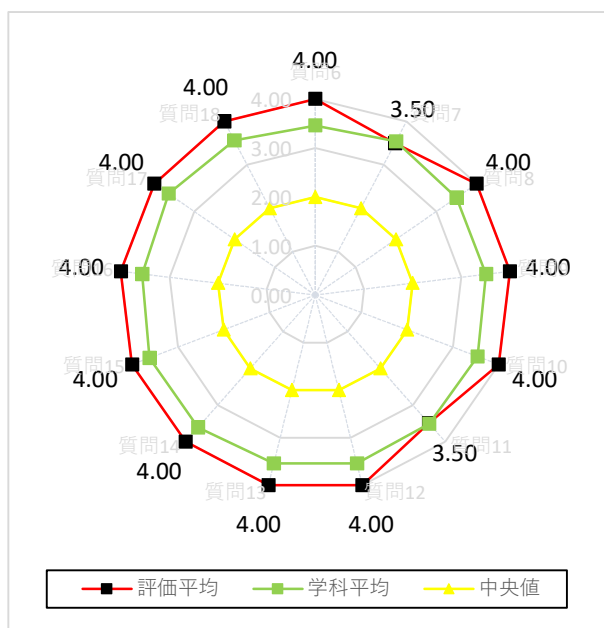
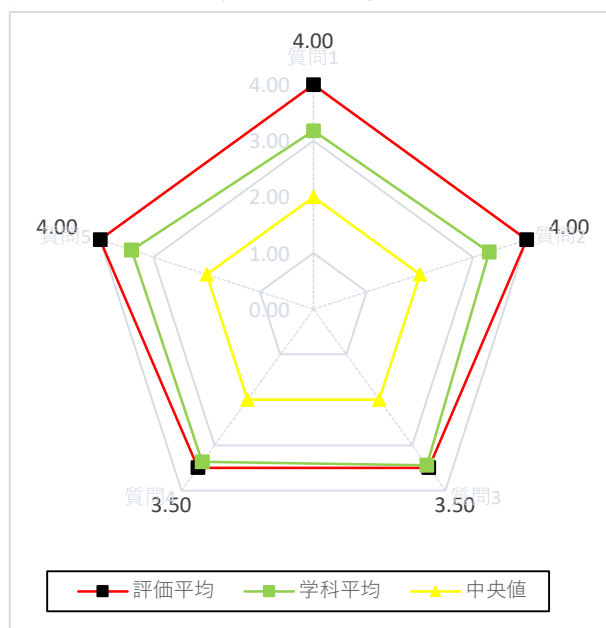
グループワークを取り入れるなど能動的な講義展開となるように工夫しましたが、説明が多く飽きてしまう学生さんもいたようです。質問4「なたはこの授業を理解するために自分で何か工夫をしましたか」の項目の評定が低かったため、自己学習で取り組める課題等を取り入れるよう授業展開を考えていきたいと思ひます。

(3) 次年度に向けての取り組み

アンケートに回答して下さった学生の皆さんに御礼を申し上げます。今年度はアンケート回答者が少なく、次年度は受講生へ講義時に呼びかけるなど回答率を上げるように呼び掛けていきたいと思ひます。講義回数が1回と少ない中で学修内容が多義にわたるため、学生が学びやすいように講義の要点を提示しながら進めていくように工夫をしたいと考えています。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		あすなろう	3名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

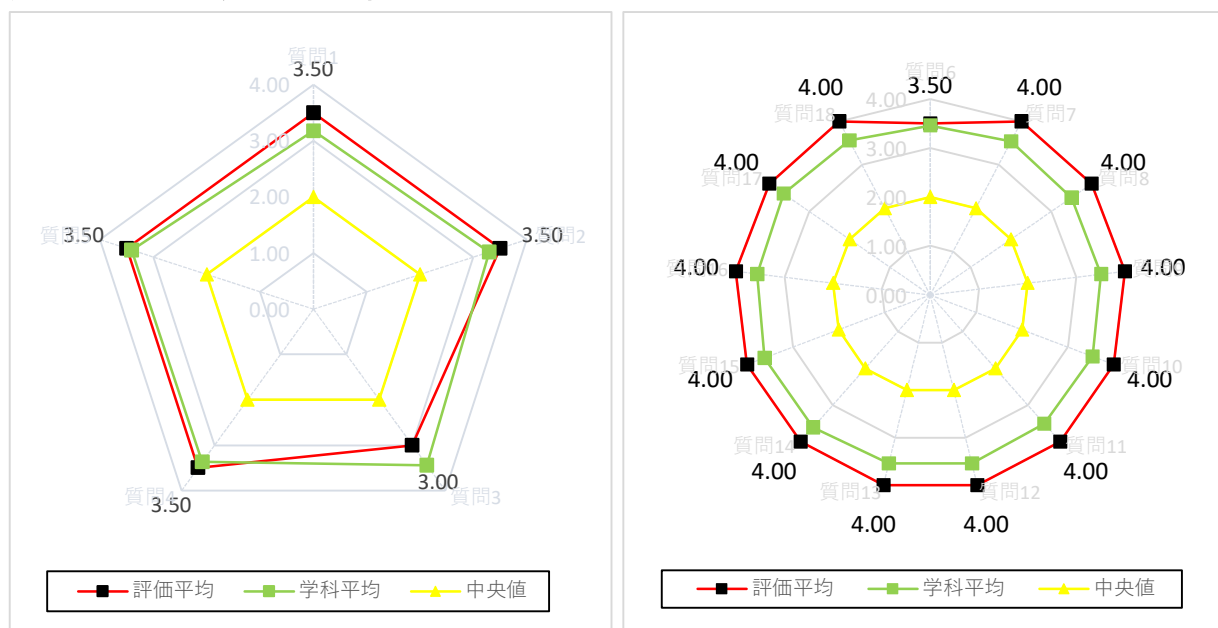
学生の評価は大変高い。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も、一人一人のチューター学生と誠実にかかわり、学生が不安なくまた成長できるように関わっていききたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		あすなろう	2名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

シラバスについては、全体での説明に基づき展開されていたが、通年で行われる最初の授業でもあり、十分に理解できていない可能性が考えられた。

授業態度についても質問3の評価が低く、真剣に取り組める工夫や声かけが必要だったと考える。

質問6～質問18については、いずれも学科平均が下回っており、全学での実施と学科単位での実施や関連についての検討が必要であると思われた。

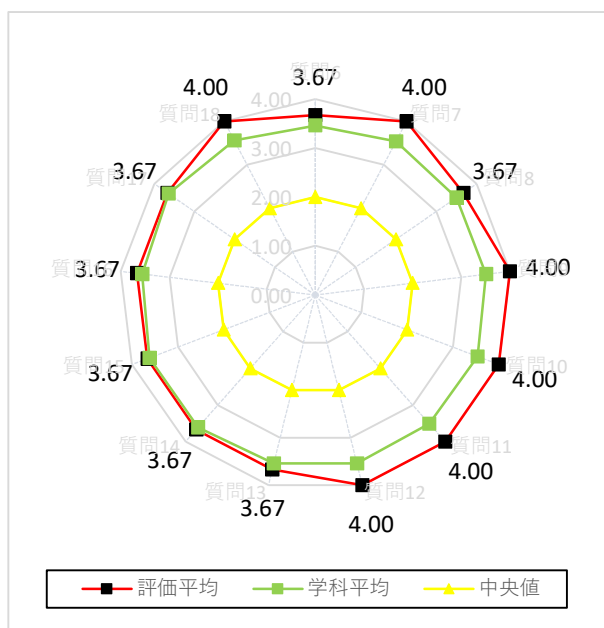
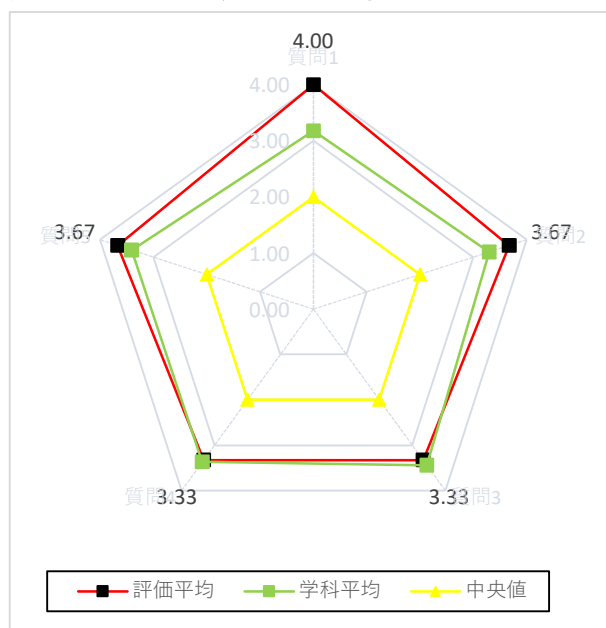
(3) 次年度に向けての取り組み

当該科目は通年科目であり、後期授業のみを各学科が担当する。

学生の中には、当該科目の内容が理解できていない学生も存在すること、初年次教育でもあることから、都度丁寧な説明を繰り返し行う必要があると考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		あすなろう	3名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

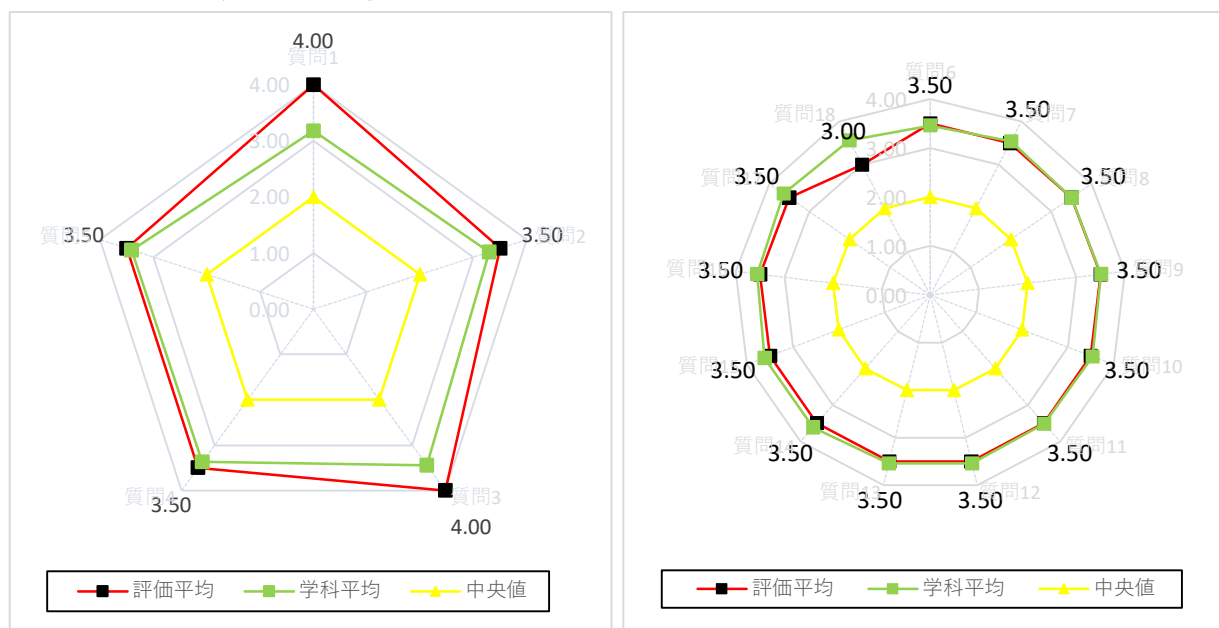
グループワークを中心に指導したが、他グループと積極的に関わりながら進行できた。

(3) 次年度に向けての取り組み

引き続き、チューター学生を中心に指導を行なう。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		あすなろう	2名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

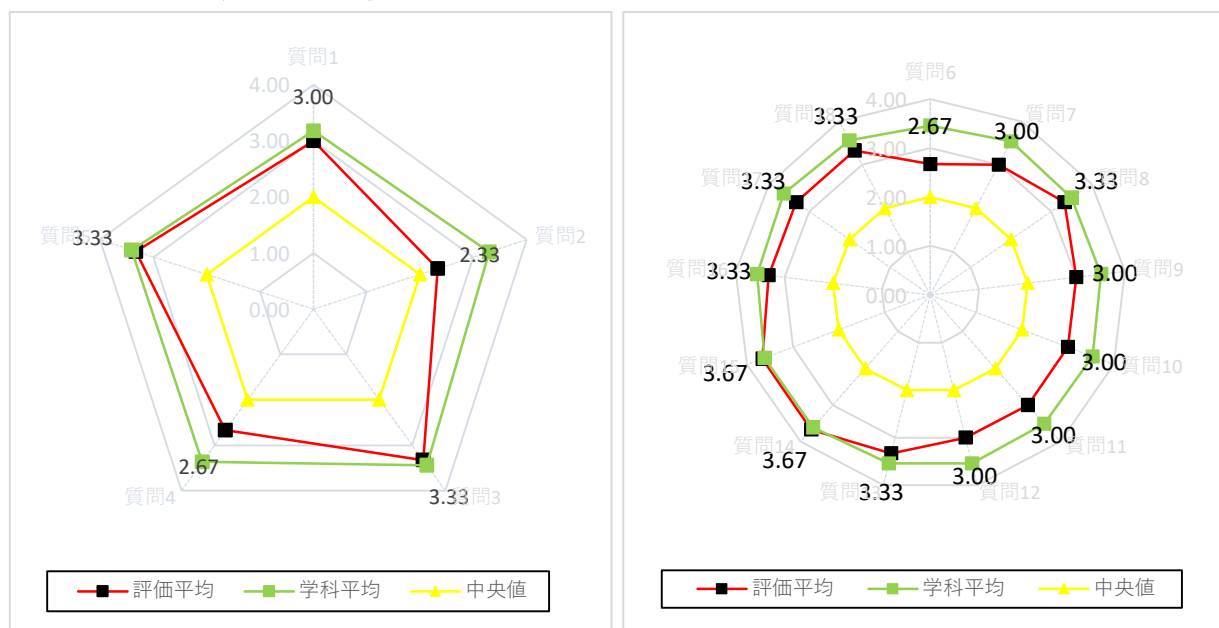
自身が参加したボランティア活動報告書では、学びや気づきを記載することが出来ていた。

(3) 次年度に向けての取り組み

来年度も、ボランティア活動に積極的に参加できるように面談などを活用し意識づけしていく。
ポイントのために参加ではなく、自身の人間性の向上を目標に参加してもらえるように促していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		あすなろう	3名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

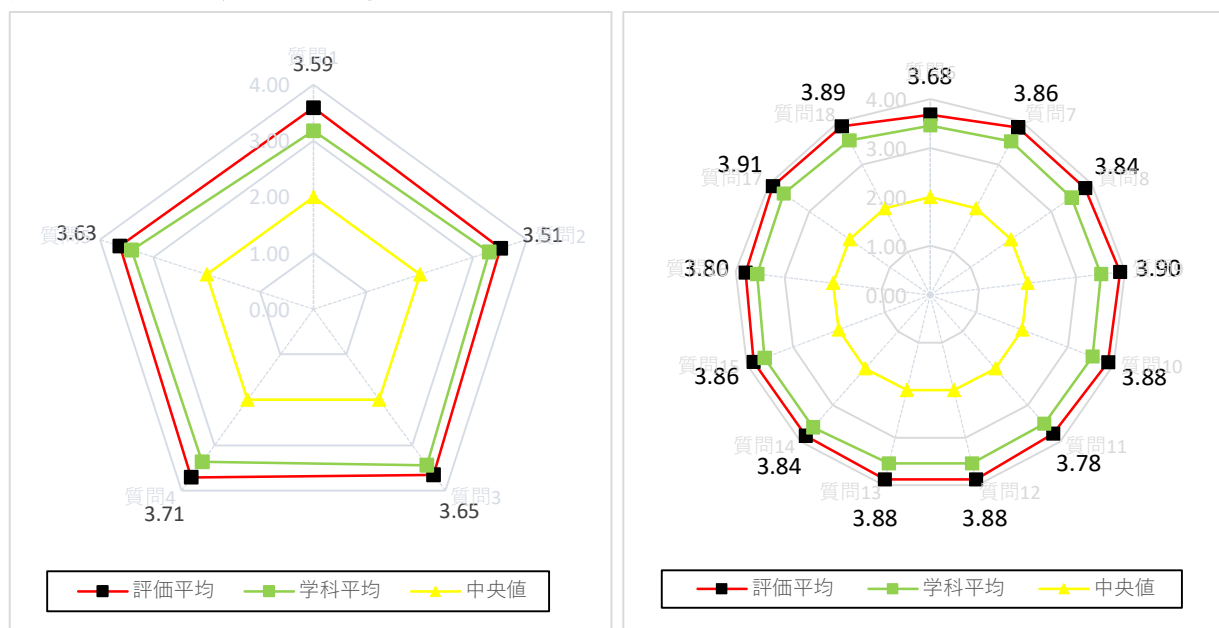
問2・問6が低い評価になっているのは、この講義の目的が理解できていない事を示していると考えられる。この講義での学びが看護師になる上でなぜ必要であるのかを理解してもらう事が必要であると考えた。

(3) 次年度に向けての取り組み

あすなろうという科目が持つ役割について学生自身が理解して取り組むことがまず大切であり、その事をきちんと理解できるように教授する事が必要であると考えられる。
ボランティア活動で何を身に付け、今後子の学びが看護師になる上で祖どのように役に立っていくのかという事を前もって教授しておくことが重要であると考えられる。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部 デジタル社会共創学環	看護 デジタル社会共創学環		心理学入門	123名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

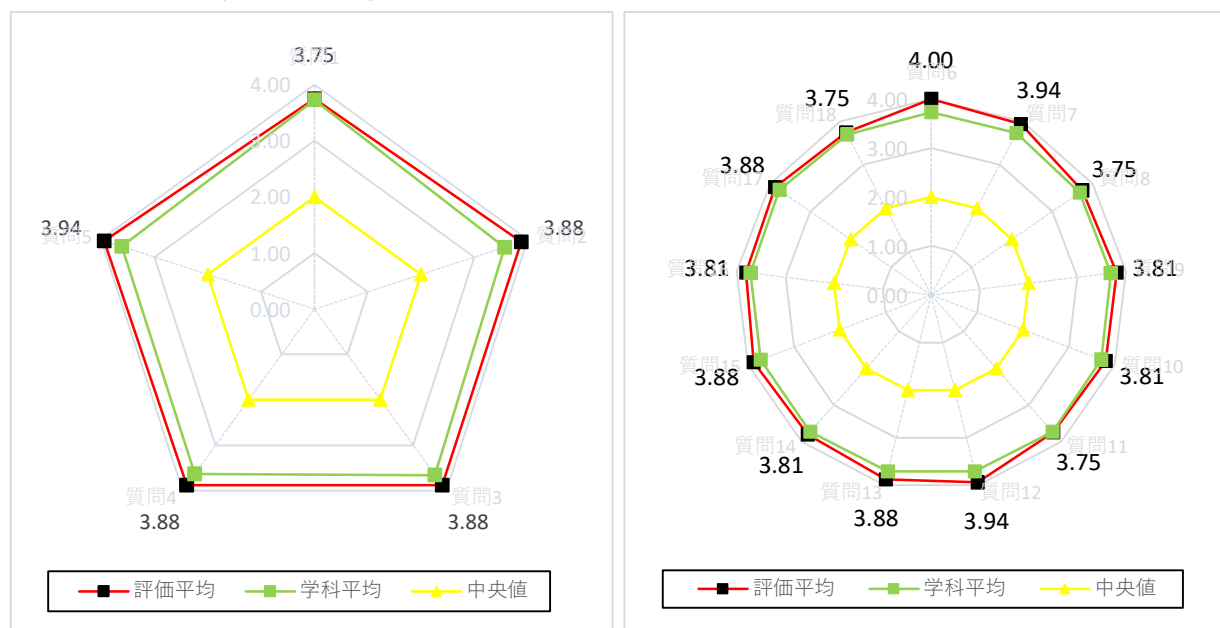
本授業「心理学入門」の授業評価平均得点は、全18項目において学環平均をすべて上回っており、特に「理解度」「興味・関心」「授業内容への満足度」「学習意欲の喚起」「総合評価」に該当する項目で高い評価を得た。これは、専門用語をできるだけ平易な言葉で説明し、身近な具体例や図解を用いて心理学を日常生活と結びつけて説明した点が、初年次学生にとって理解しやすく、学修への動機づけにつながった結果と考えられる。また、学生との双方向的なやり取りや確認を重視した授業運営が、安心して学べる学習環境の形成に寄与したと評価できる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は、現行の授業構成の強みを維持しつつ、学生の主体的学修をさらに促進するための工夫を行う。具体的には、小テストやミニワークを活用し、学修内容をその場で振り返る機会を増やすとともに、学生が自分の理解度を把握できる仕組みを強化する。また、心理学の知識が他分野や社会課題とどのように関連するかを示す事例を拡充し、学修の意義をより実感できる授業を目指す。加えて、学生からの自由記述意見を授業改善に反映させ、初年次教育としての質保証を一層高めていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		看護理論学	76名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

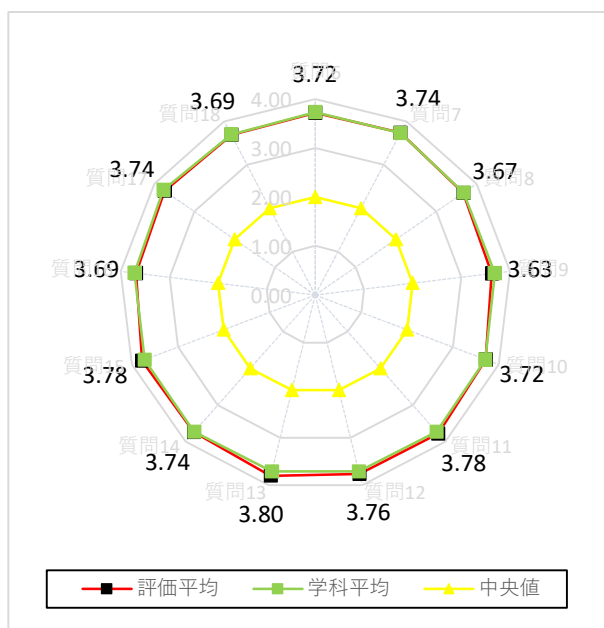
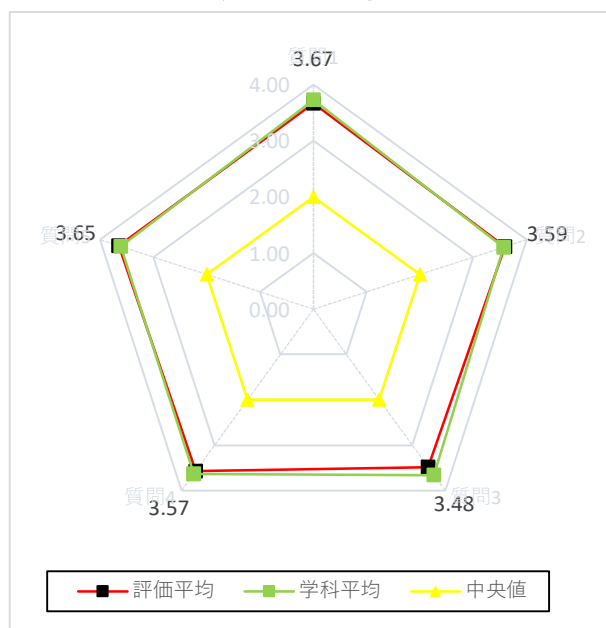
履修学生は76名であり、評価者が16名と少なかったのは5月上旬に講義が終了したため授業評価人数が少なくなりました。看護理論の学習はなじみが少ないため取り組みにくい点があったが、4年次でもあり3年生までの臨地実習の経験があるため、理解しやすくなっていた。評価も 3.85 ± 0.43 と高かった。はじめの時期は教員の講義で何人かの看護理論家の紹介・説明により理解を深められてきていた。講義とグループワーク・発表の演習という組み立てであったので、講義のコマのあとのグループ学修の課題にはグループ学修と発表に向けて熱心な取り組みであった。グループ学修では多くのグループが臨地実習での受け持ち患者の事例を振り返りながら、理論の活用による看護過程の展開、展開上の看護現象の解釈・説明で分かりやすく補足していた。そのため、学生自身も理論の理解が深まったといえる。グループワークでは、4年次ともなれば、主体的な活動ができメンバー間での話し合いは協力的であり、4年次の進捗という点とアクティブラーニングの方法は主体的な学修による成長と学びを深めたと思う。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は履修人数によるグループワークの編成や時間設定が変わってくる可能性がある。グループワークの学習方法は継続するが、選択科目であるため、履修人数は少なくなるので、グループ人数は少なくし、コミットメントを強めることとしたい。また、今回は教員の関わりを少し増やし、実習の振り返りを行うことにもなるため、実習の振り返りと看護理論に関心をもってもらうためにはこのような機会に他の教員の授業参観もできたらいいのではないと思う。実習の振り返りは看護理論の活用を行い、自己の看護観の育成と理論活用による看護の説明を自身の言葉を用いて言語化することへつなげてもらいたい。内容的にはテキストにある海外の看護理論家21項目から10理論でグループワークを進めてきたが、10理論より少し広げてほしいのではないと思う。また、今後はテキストにこだわらず、学生個々の考えで、新たな看護理論家を用いるなど自主性を高める方法も活かしていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		保健医療福祉行政論	65名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

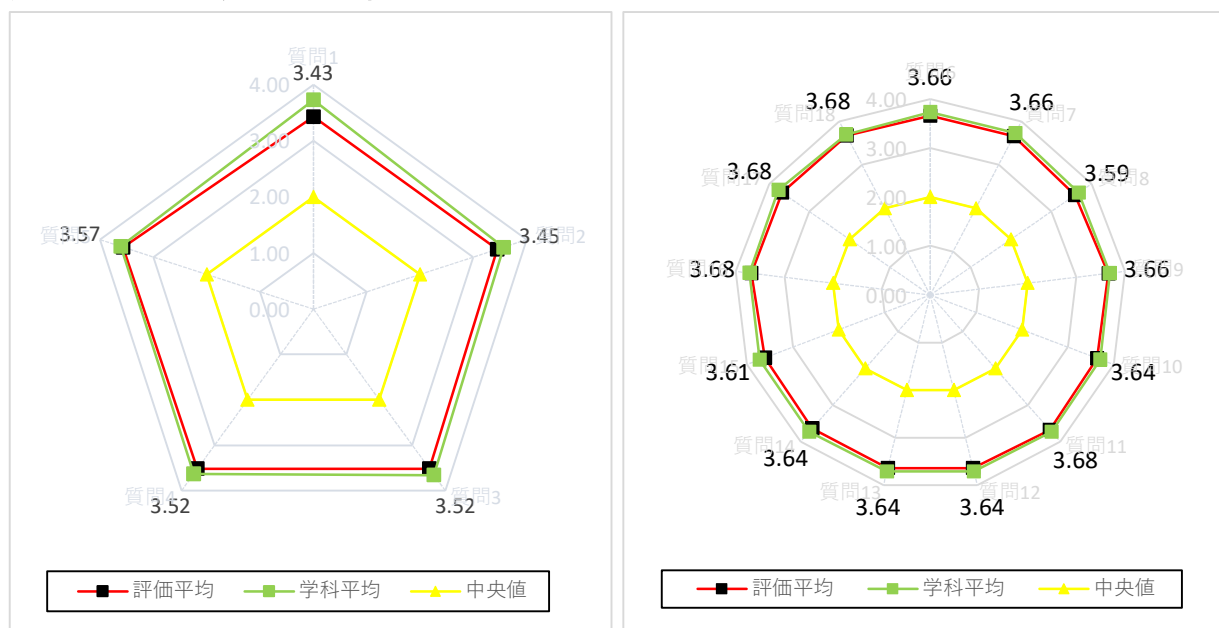
4名の教員で、それぞれ小野専門分野で講義を行った。ほぼ学科平均の評価であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

さらに教示内容をぶらっしアップしながら、学生への問いを工夫しながら国家試験対策や実践につながる講義に努めたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		疫学	56名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

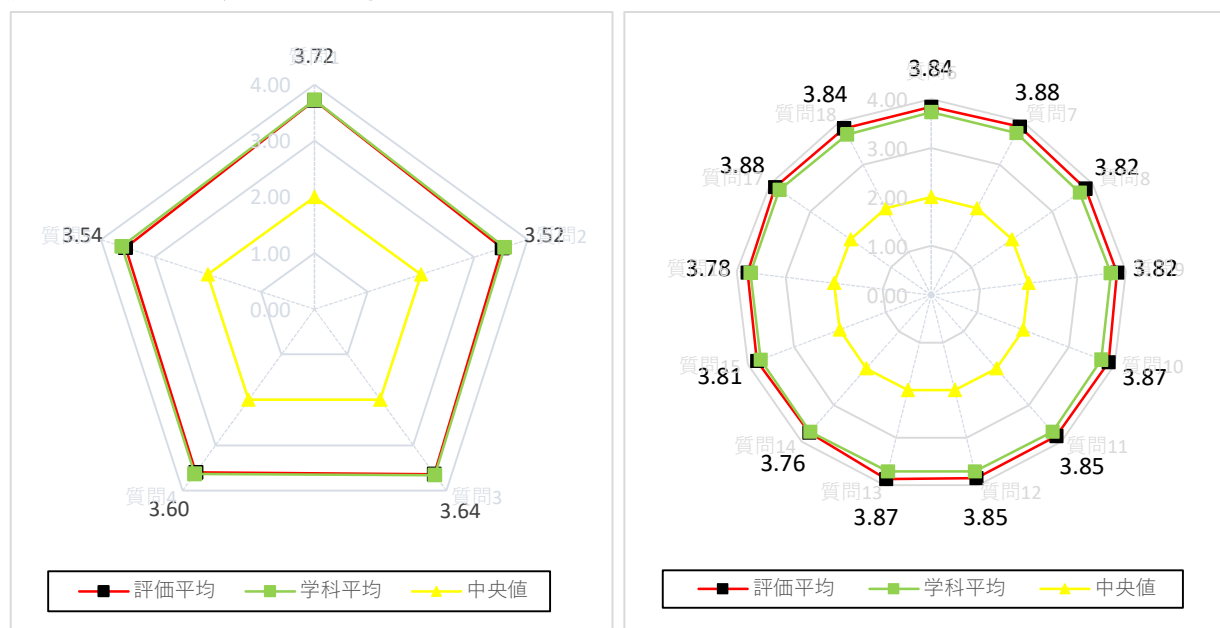
本科目は、保健師課程の必修科目となっていますが看護師課程のみの学生も履修しているため、講義内容が難解と感じないような展開となるように演習を多く取り入れました。講義担当者の途中変更もあり、受講生の皆さんの理解度が低下しないかととても心配でした。授業評価は平均3.68/4.00点であり、自由記載に「計算方法など何回も教えてくださり、理解しやすかった。」「国試でよく出るところにレベル別・頻出別に星マークつけてくださったことで勉強しやすかった。」「丁寧に教えてもらったので分かりやすかったです。」という意見があり安堵しています。疫学というと難解なイメージがある科目のため、今後も丁寧な説明を行うようにしていきたいと思います。

(3) 次年度に向けての取り組み

アンケートに回答して下さった学生の皆さんに御礼を申し上げます。現在の高評価を維持できるように丁寧な説明、受講者が躓きやすい項目を復習するなど、わかりやすい授業を心がけていきたいと思います。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		看護学概論	67名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

Q6～18はほぼ3.8以上あり、おおむね良い評価であった。Q6～18について：いずれも3.8/4.0以上であり、特に教員に対する評価は高く、分かりやすいプレゼンテーション、身近な例を用いた理解の促進などの取り組みが評価されたと考える。

また、KJ法を用いたグループワークを活用するなど、授業への参加意識を高めた結果となったと考える。

Q1～5について：Q1欠席がないか（3.72）、Q3真剣な取り組み（3.64）であり、多くの学生は休まず真面目の授業に取り組んだことの反映であると考え。

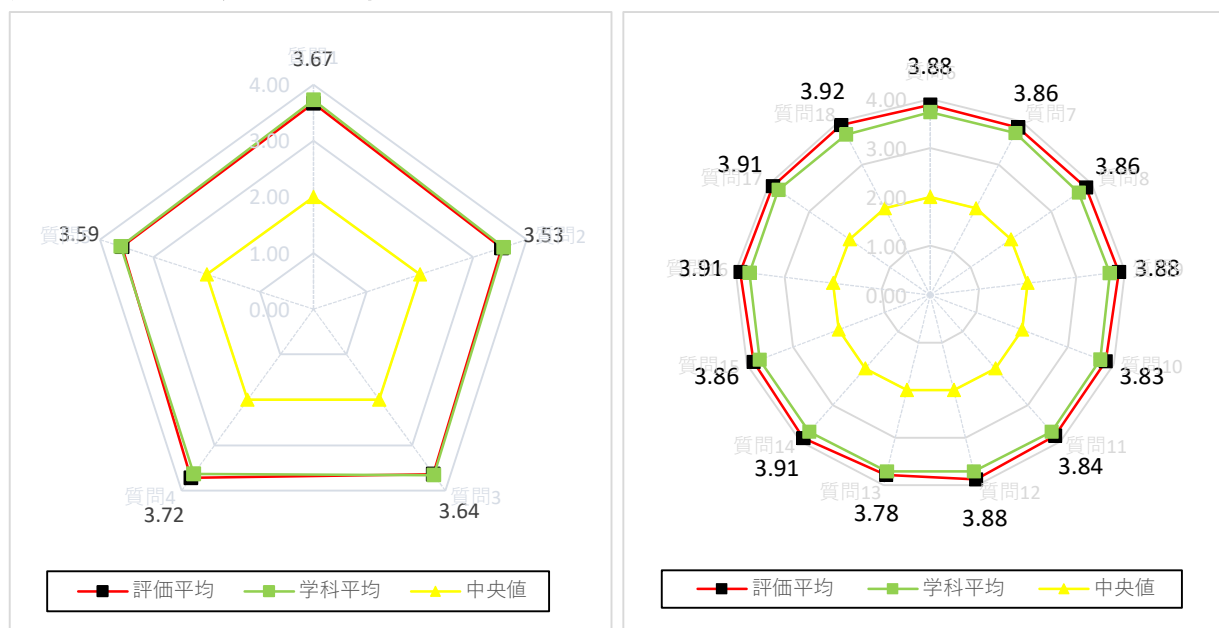
自由記載にも「半年間とてもためになる講義をありがとうございました。特に、毎回プレゼン資料をチームズ上にアップロードしていただけて、講義に取り組みやすい環境だったと思います。また、ほかの講義ではあまり見られない、出欠確認がポータルサイト上で可能になっていたため、しっかりと出席できているというモチベーションにつながるものがあったのもとても良かったです。」「講義内での動画視聴が、看護の現場のことや講義内容について理解しやすく感じました。」とのコメントがあり、評価は高かったと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

1. 授業評価で高値項目については、現状を継続する。
2. 講義終了時の質問時間の確保（別途、レスポンスカードでも対応する）。
3. 一斉講義以外の教育方法の検討（学生主体のワーク、PBL方式など。しかし概論という科目の特性を考える場合、一斉講義の重要性も否定できない）。
4. 発展学習について講義時に説明する努力をする。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		看護過程論	66名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

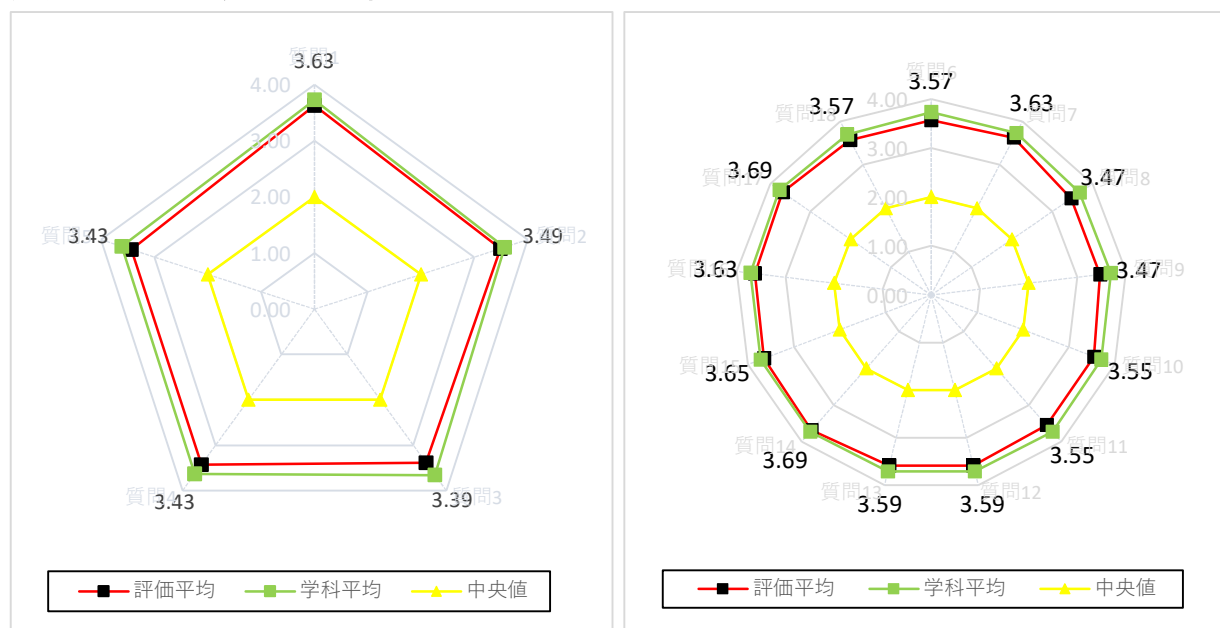
本科目の評価は総じて高く、特に教員に向けた評価は非常に高かった。中でも、次の評価項目は3.90を超える値であった。Q14（質問に誠実に答えたか）：3.91、Q15（公平な対応）：3.86、Q16（双方公正なやり取り）：3.91、Q17（教員は熱心化）：3.97。じゆうきさいでも「先生に質問しやすい環境で学びを深めることができました。」「看護過程について先生がわかりやすく指導してくださったのでとてもやりやすかった。」「この授業で、看護過程の展開について理解することができました。難しい時もありましたが、とりあえず乗り越えることができたので良かったです。実習も頑張りたいと思います。」とのコメントがみられた。看護過程という「思考のトレーニング」の授業として、学生のニーズには添えていると考える。課題としては「グループごとに先生がついて指導してくださったので、自分の分からないところを直接聞くことができたのは良かったと思う。ただ、先生が一人の学生に対して指導の時間がかかっているときに、聞きにくかったため担当グループ以外の学生も少し見て欲しいと思った。」との意見があったので、机間巡視の時間配分に留意

(3) 次年度に向けての取り組み

高水準の項目については維持し、ニーズの把握に努める。学生自身の取り組みは課題があるので、オリエンテーションの内容の精選、時間外指導について検討する。また、各グループへの指導時間の配分について留意する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		フィジカルアセスメント	64名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

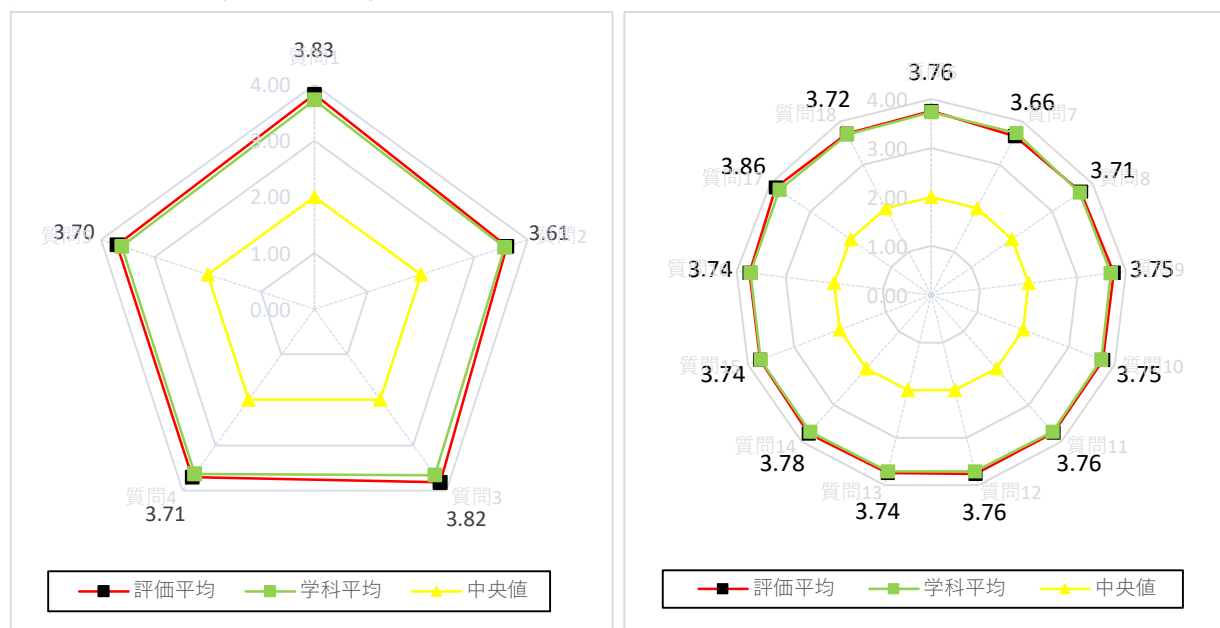
講義と演習を交互に行ない、臨床における実践が行えるよう授業を展開した。
前提となる形態機能学の知識が乏しい学生がいるため、順序立てた説明を行なうよう心掛けた。
授業で取り扱う内容が多いため授業展開が早いことは認識していたが、理解度の確認が不十分だったと思う。
授業後、学生よりリアクションペーパーを使用して反応を確認し、次回に補足などを行ない理解が深まるよう努めた。
学生の技術習得について、自己練習の機会を設けることが出来なかった。授業時間だけでは対応が難しい。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業展開については、内容を精査し取り扱う内容を絞る。
演習について、事例を基にするなど学生の理解が深まる工夫が必要である。
臨地において実践する機会が1年後になるため、復習する機会を設ける必要がある。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		療養支援看護学実習Ⅰ (急性)	93名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

質問1～5は、評価平均より0.1ポイント、質問6～18は、0.01～0.05ポイント低い結果となったが概ね評価平均と同様の結果となった。

当該科目は複数名の教員に係るため、各記録の書き方見本を示して指導していても、教員によって指導の仕方がことなるなどの課題があり、学生が混乱した様子がしばしば確認された。

大きな評価結果の差異はないが、質問7「教員は授業の到達目標を明確にして、授業を展開していましたか」、質問12「声の大きさ・明瞭さ・話す速さは適切でしたか」、質問14「声の大きさ・明瞭さ・話す速さは適切でしたか」、質問17「教員は熱心に授業に取り組んでいましたか」については、他の質問より評価が低く、実習指導に当たった教員によっても差異が生じた可能性が高いと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

前述した通り、まずは実習担当教員の指導内容について徹底し、指導内容の差異が学生の不利益にならないように意思統一を図る必要がある。

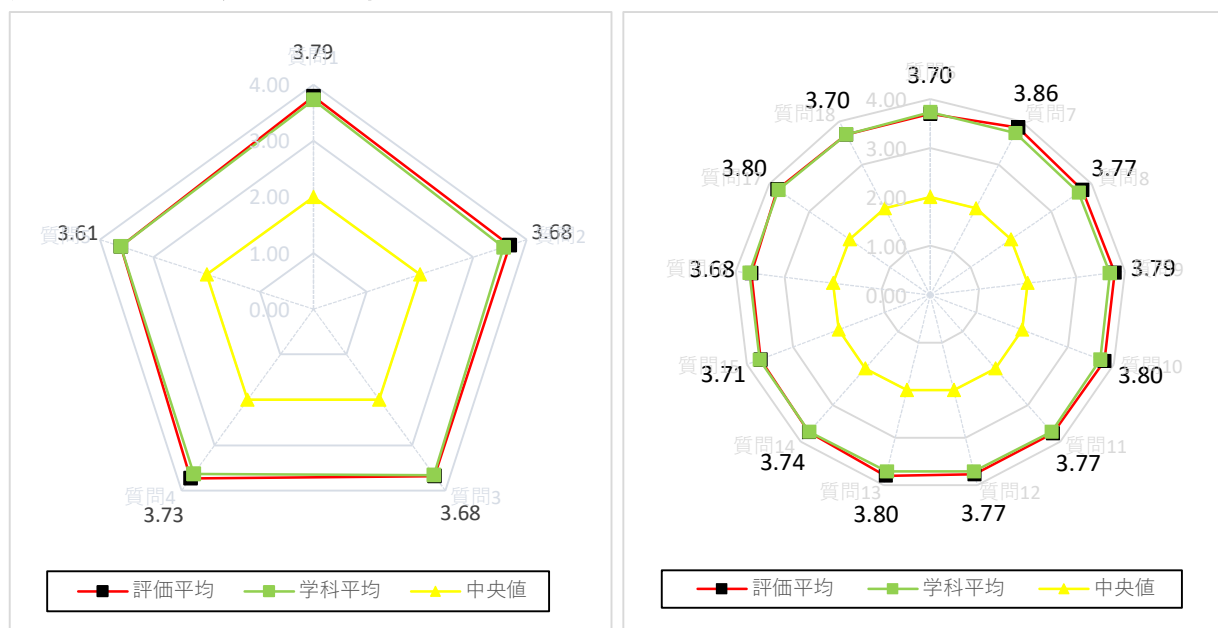
特に、記録の書き方や看護課程の展開に係る指導、用いる看護診断の定義に係る共通認識、学生が行うべき看護実践についても再度共通認識を図る。

また、実習に関連する学生のあらゆる不安材料を教員個々が払拭できるような関わりができるようにすることで、学生の学習効果をさらに高められるよう尽力する。

科目責任者が不在の際、他教員にオリエンテーションを依頼していたが、実施されていない事実もあった。そのようなミスを防ぐこと、ミスが生じた場合は軌道修正するような対策を講じる必要がある。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		生活支援技術論	67名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

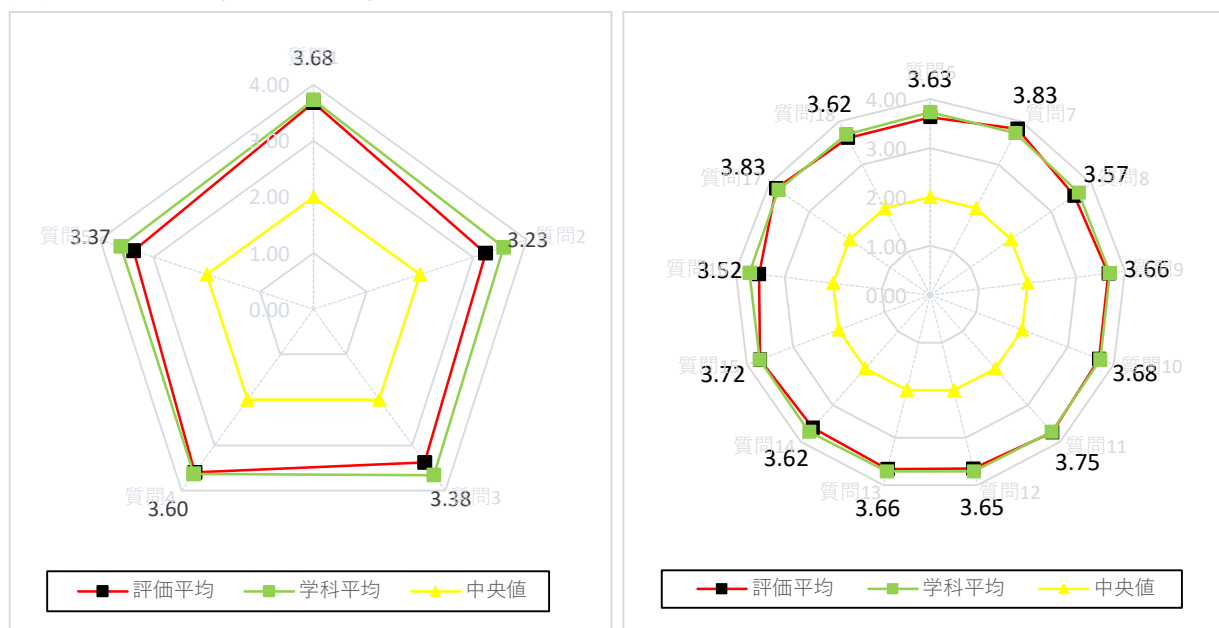
学生自身の評価、教員への評価ともに3.61以上のポイントであった。1評価が付いた項目においても、各項目1名のみであり、概ね良い評価であったと考える。自由記載には「演習をする前に事前課題などがあり、自分でも理解したうえで演習を行ってよかった」「講義を通して、演習は実践して身につくけど講義内容の授業は復習をしないとついていけないことが身にしみて痛感した」という意見があり、この科目を通して、予習・講義演習・復習のサイクルを修得する機会になったと考える。また、「演習の際には間違えているところは優しく教えてくださってとてもわかりやすい」とあり、複数の教員で看護技術演習を担当することで、各学生のニーズにあった細やかな指導につながった。

(3) 次年度に向けての取り組み

1年次前期科目であり、大学における学修方法を修得する時期にある科目である。本科目の講義・演習を通して、看護を学ぶ基礎を身に着ける機会になるよう、引き続き指導を行う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		生活支援技術論演習	67名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

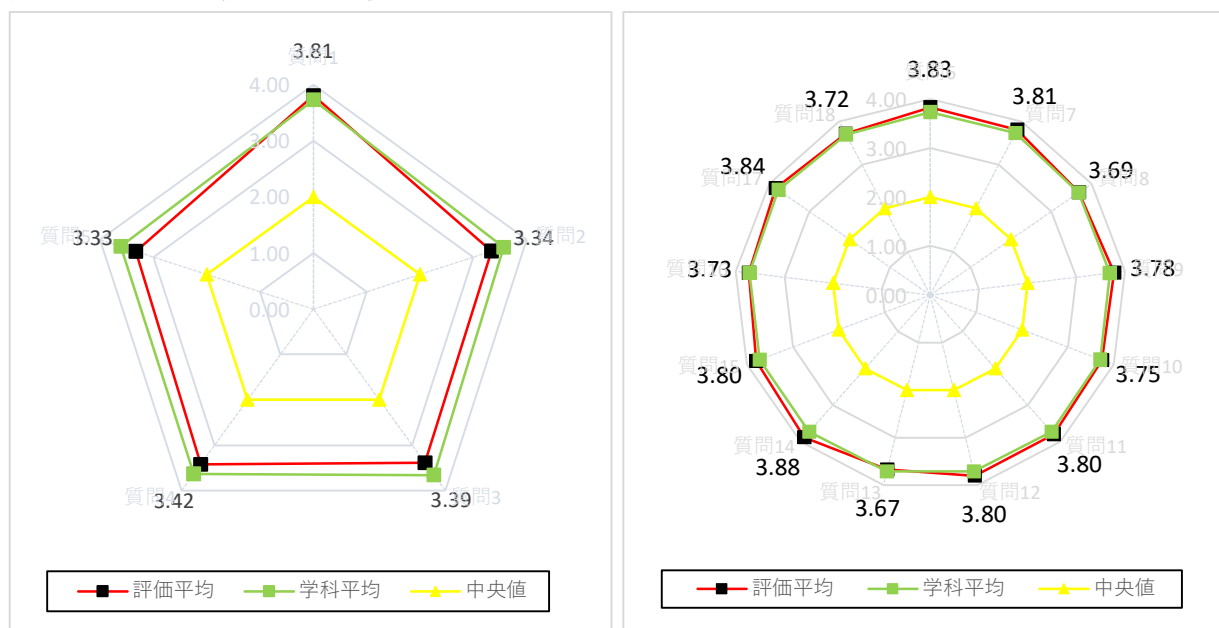
学生評価、教員評価共に3.7以上の高評価であった。前期の生活支援論での学びを生かし、清潔の援助や、バイタルサイン測定などより高度な技術を学修することで、「生活支援技術論の授業では、演習を通して看護学生としての自覚を学ぶことができました」など看護学生としての自覚や演習後の自己練習の大切さなども実感することにつながっていたと考える。問7は3.86と最も良い評価であり、学生に対しての達成目標を講義や演習で明確に伝えていたことで学生自身も理解して学修できていた。

(3) 次年度に向けての取り組み

問2や問3については1.2の評価を付けている学生もいた為、講義の内容を再考して学生自身が興味、関心を持つと共に、疑問を持って学修につなげられるように講義や演習を構築していくことが必要と考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		臨床関連技術論演習	66名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

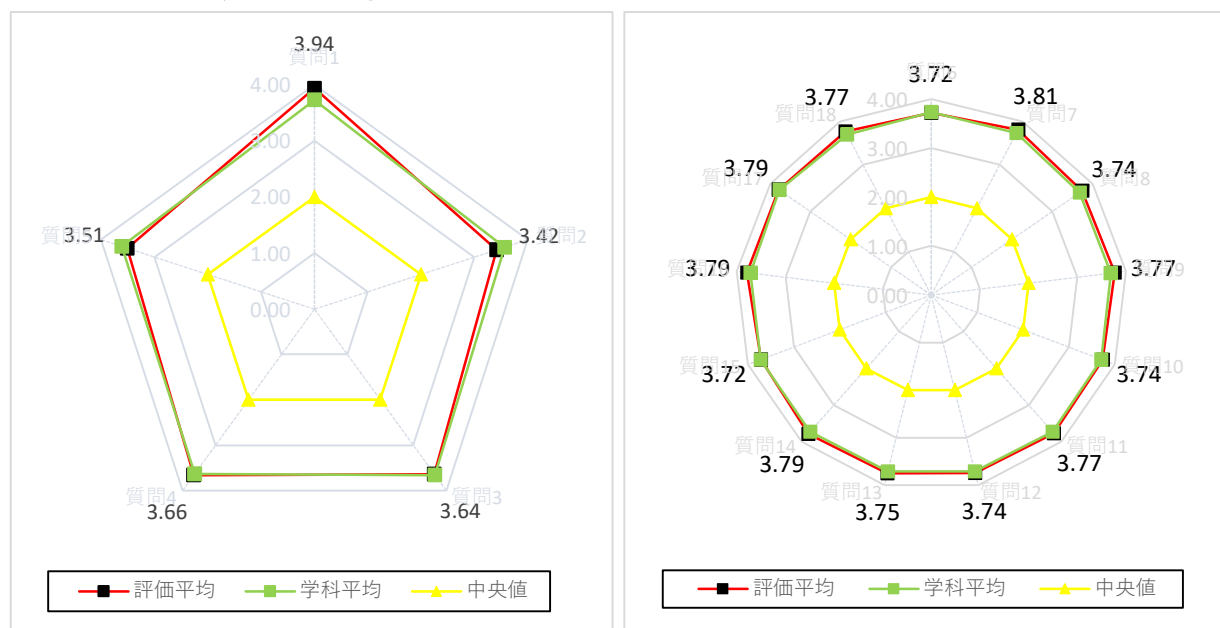
学生の自己評価平均3.45、教員評価3.78という結果であった。
 学生の自己評価が3.5以下となった理由として、問1が4名問2が7名や問3が5名1.2の評価を付けている事が影響している。しかし、教員評価は高く、中でも3.8以上の評価が8項目見られている。この科目は診療補助技術の内容が多く、1年次の看護技術と比較すると難易度も高い無菌操作や導尿、注射といった内容があり、学生は緊張度も高い演習も多かったと思われる。その中各教員が学生の疑問や質問に適切に対応した結果問14に関しては3.88と一番高い評価であり、学生コメントでも「講義から演習までどの先生もわかりやすい授業をしてくださり、配布していただいた資料もとてもわかりやすく見やすかったです。また、分からないことがあって質問した際も、ひとつひとつ丁寧に教えてくださったので、良かったです」等のコメントが聞かれていた。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生の評価の中で、問2の1.2評価が7名であった。学生の興味や関心を引き出せるように講義の組み立てや演習を行う事でその後の復習や国試への学修にもつながってくると考える。一方的な教授にならないように講義の構成を行ってきているが、今後も構成を考えていく必要があると考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		生活支援論実習	68名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

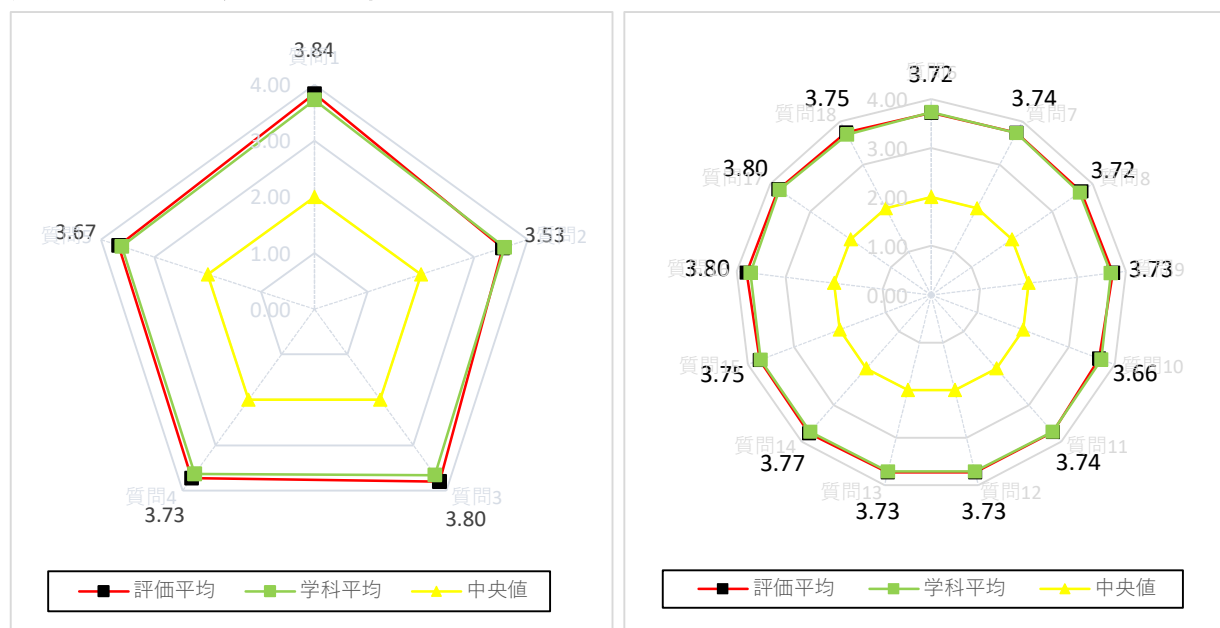
本科目は、入学後初めての臨地実習科目である。実習オリエンテーション4回、臨地実習4日、まとめの発表会1日で構成している。臨地実習欠席者はおらず、遅刻者は1名のみであったことから、質問1は3.94と高得点であった。質問2～4については、実習を通して「自身の課題に気づく機会になった」ことから3ポイント評価をした学生も2～3割いたと考える。自由記載にも「たくさんの経験ができたのと同時にたくさんの課題も見つけることができた」と記載があった。教員評価である質問6～18は、いずれも平均3.72以上と高得点であった。本科目は、学生にとって初めての臨地実習のため、オリエンテーションでの説明内容、資料も多い。自由記載に「実習記録の書き方をもう少し詳しく説明して欲しかった」という意見もあった。」という意見があったように、限られた時間での理解が難しかった学生もいると考える。しかし、本年度はオリエンテーションに実習シミュレーションを取り入れたことで、学生の実習における行動のイメージ化、トレーニングにつながったのではないかと推測する。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も、実習シミュレーションを継続することで、学生の行動のイメージ化・トレーニングを強化する。実習記録の記載方法について、資料を改良し補足説明をする。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		高齢者看護学実習	93名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

高齢者看護学実習は、高齢者の身体的・心理的・社会的側面を統合的に理解し、その人らしい生活を支える看護実践能力を養う科目である。本年度は、老人福祉施設・老人保健施設およびデイ・サービス（デイ・ケア）における実習を通して、高齢者の生活背景を踏まえたアセスメントを行い、個別性に応じた看護を展開する力の育成が図られた。また、学生は身体機能障害や認知機能障害を抱える対象者とのかわり通して、高齢者の尊厳を守りながら日常生活援助やコミュニケーションを実践的に学ぶ姿勢がみられた。また、カンファレンスや記録を通して、多角的に対象を捉える力や根拠に基づいた思考の深化が認められ、本実習科目の教育的効果は高いと評価できる。

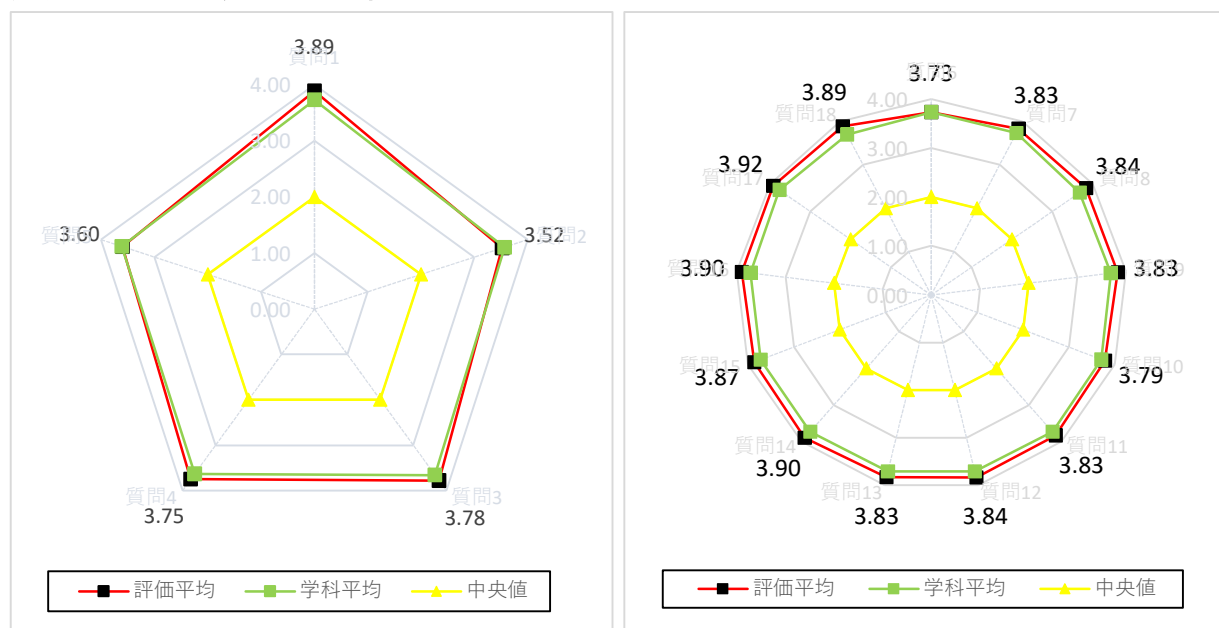
(3) 次年度に向けての取り組み

対象である高齢者の生活を捉える視点は有しているものの、既往疾患や加齢に伴う生理的变化を踏まえたアセスメントを統合することに困難を感じる学生が一定数認められた。また情報収集は断片的にとどまり、既習内容と関連づけて意味づける思考過程に課題がみられた。

次年度においては、学生が苦手とする身体面のアセスメントについて理解を深め、統合的に捉えられるよう、以下の点を重視した支援・指導を行う。具体的には、既往疾患や老年期の生理的变化に関する基礎知識を整理するミニレクチャーや事例を用いた「生活情報―身体所見―疾患・加齢変化―援助」を関連づけて考えられるような説明を取り入れる。指導時には学生とともに思考の根拠を言語化・図式化する。さらに、個別指導の場面では、収集した情報の不足点や関連づけの視点を具体的にフィードバックし、段階的に統合的アセスメントへと導く支援を行う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		看護過程論実習	66名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

本科目の評価としては、おおむね3.70以上を獲得しており、実習科目であるが学生の評価は高いと考える。学生のコメントにも「患者の看護診断をあげて、なぜ病気に至ったのか、具体的な症状疾患はないのかについていろんな視点から考えて行くことが難しかったです。実際に患者さんとコミュニケーションを取る中で必要な情報を得たり、患者のこれまでの生活背景を知ることができたので今後の実習に繋げていきたいです。」「実際の臨床に出て看護をするにあたって教科書通りではないもの、患者一人一人に合わせた看護を展開するために基礎を固め、コミュニケーションを取ることが大切であると学びました。」「今回初めて患者さんを受け持たせていただいて、カルテだけではなく実際の言葉から情報を得たり考えたりしました。担当の先生も親身になって一緒に考えてくださってとても良い学びになりました。」「初めて受け持ちの患者を受け持って受け持ちの患者を持つことの責任の重要性が身に染みて分かった。今回の実習で学んだことを今後の学習や実習に活かしていきたいと思う。」との記載があり、看護学実習として到達目標以外の倫理的な学びも得られていた。

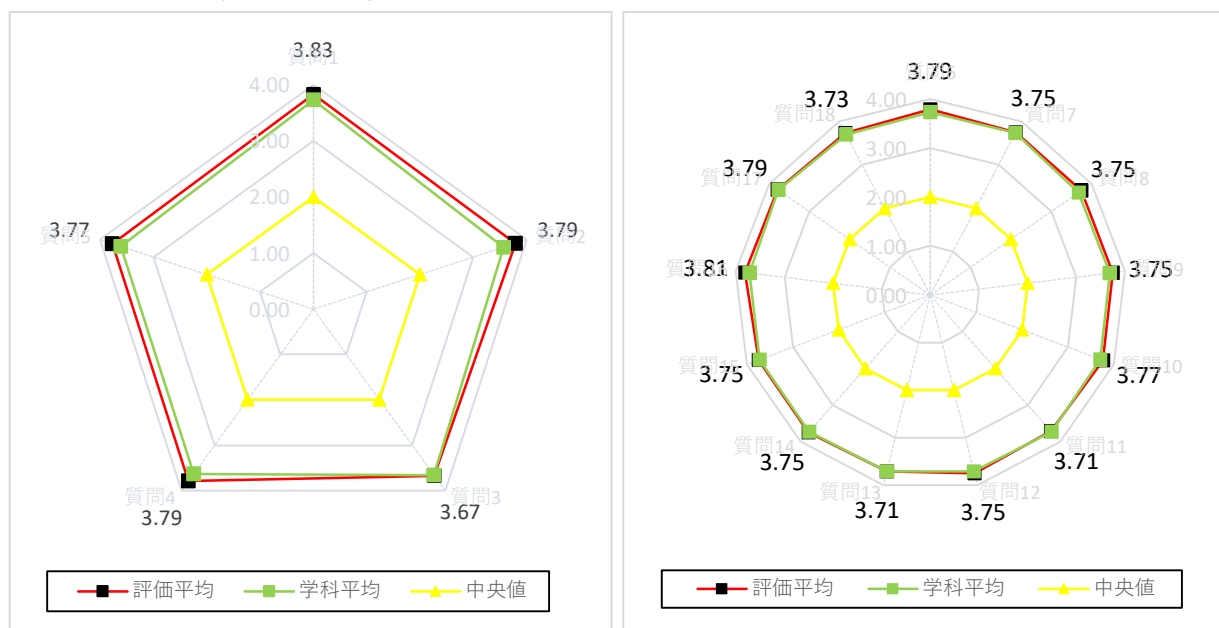
シ

(3) 次年度に向けての取り組み

高水準の項目について維持する。シラバスの活用をこれまで以上に行い、実習目的の意識づけ、振り返りについて時間をかけるようにする。また指導教員への周知を行う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		次世代育成看護学方法論 I（母性）	92名

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

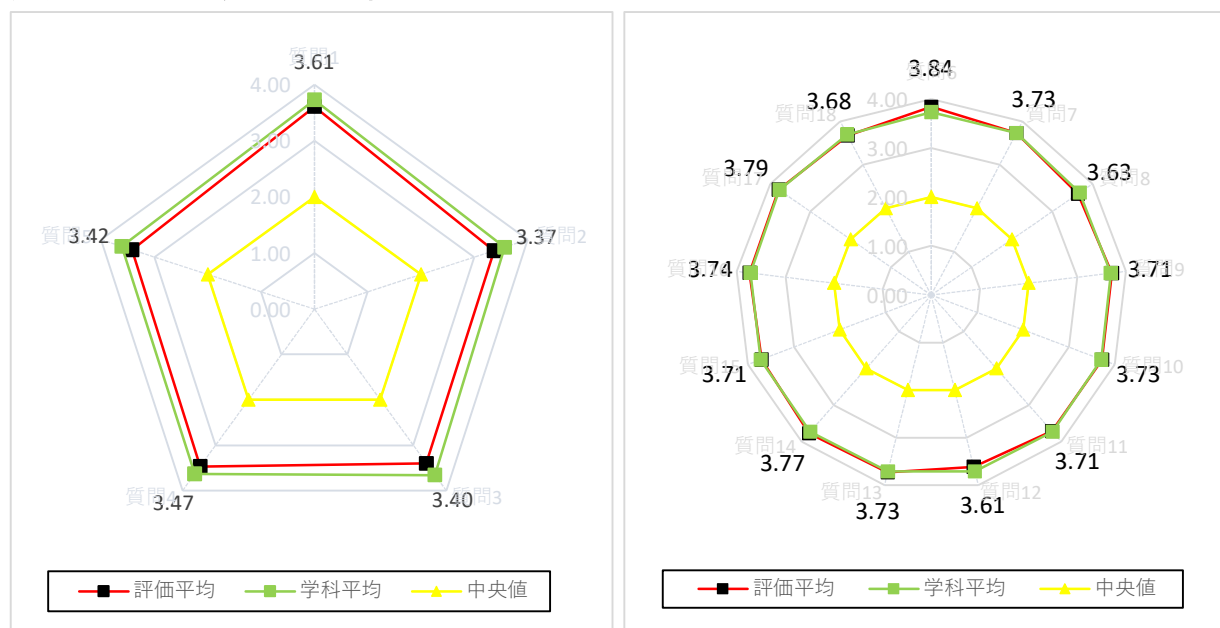
コメントで試験のことが書かれていたが、試験内容や試験の方法、範囲についてもあえて公表していない。また、覚えるだけではなく、なぜこうなのか、実践的に考える学修を行うのが方法論であるため、講義＝試験結果には結びつけにくかったと考えられるが、アセスメントなどのレポート点も加味していたが、学生の結果に繋がらず申し訳ないと感じている。しかし、今年度の国家試験結果を鑑みても、現状の理解度評価として、試験内容は妥当であったと推測された。この演習では、ヤネガワ方式により、4年次学生がボランティアで3年生の学修を支えることを行っているが、

（３）次年度に向けての取り組み

今年度は急な変更は出来ないが、次年度以降の講義内容では、用語の理解・定義などの理解すべき学修を先に展開し、方法論・演習をまとめて講義後半で行い、知識を統合していく方法も考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		療養支援看護学概論	66名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

全体のバランスは、学科平均と同様のバランスの評価であったが、評価得点は、やや低めであった。専門的な視点を学ぶ機会になる科目であるが、自分自身の状況と向き合うことも科目の理解につながる機会としていることは、前年度よりも高評価につながったと考える。

また、自由記載には、前回の授業内容の振り返りが良かったといく意見があったことから、学生との対話型を取り入れた授業が、学生への理解や取り組みに効果的であったと考える。

事前事後課題の取り組みから、授業内容の理解につなげるようにしたことから、学生主体の学習ではなく、指示のもと予習復習を行たということになっていると考えられた。

授業のわかりやすさや教員の熱心さは、学科平均よりも高めであったことから、学生に伝わった授業であったと考える。

また事前・事後課題内容は、授業中に共有をしたこともあり、視聴覚機器、質問への応答などの評価がよかったと推察できる。

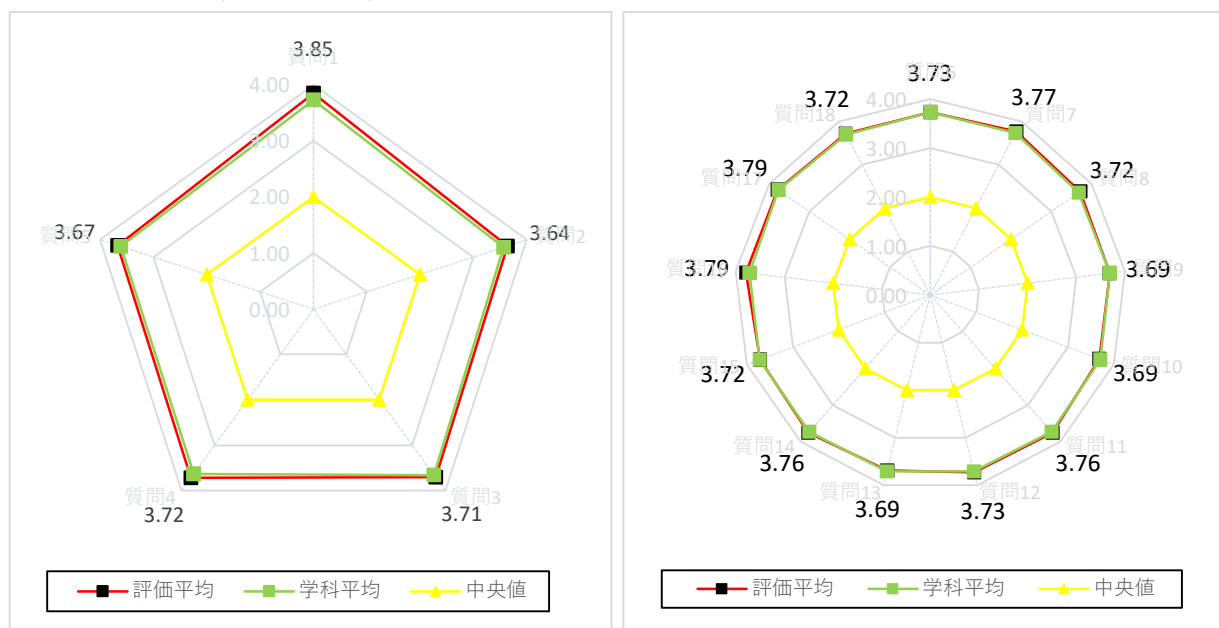
(3) 次年度に向けての取り組み

事前・事後課題の取り組みは継続していきたいと考える、特に双方向のやり取りについては、学生の自由な座席には偏りが出たため、座席の工夫も検討したい。

自由記載に、話が速いという指摘もあったため、話す内容や速さには、注意をしたいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		次世代育成看護学実習Ⅰ (母性)	93名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

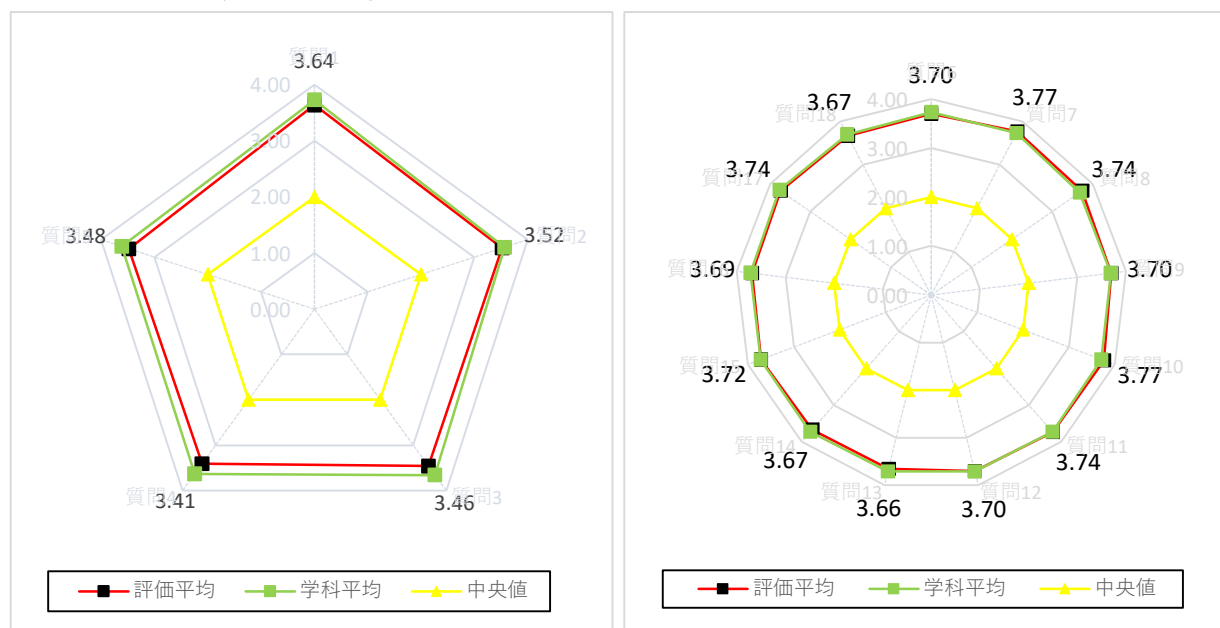
実習に関しては、殆どの学生にとって、母性は一番難しいとされていると考えてオタが、思いのほか達成感を得られており、ほっとしている。この実習を通じてなぜ？が解るようになったとのコメントもあり、今後考える実習をくみたてていきたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

記録に関しては、今年度は前年度を踏襲したが、学生の負担を軽減しつつ、記録物を軽減できるよう、工夫を行っていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		療養支援看護学方法論Ⅰ (急性)	64名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

本年度も、授業は科目責任者が全て担当し、演習を他教員による応援体制の下実施した。授業欠席者は概ね固定されていた。出席状況が悪い学生については、教務・チューター教員と調整しながら出席を促した。

また、他授業のレポート作成をしている学生や、授業態度が悪い学生も一定程度見受けられたため、適宜注意するなどして対応した。

質問7～質問11は、学科平均より0.1～0.6ポイント低く、その理由として課題提出の時間帯についての希望や、授業と演習の繋がりが理解できないなどの意見があった。

その他の自由回答では、授業に対する興味・関心が深まったとの意見が得られた。

一方で、事前学習を指示していても、実施率が低いなどの課題もあった。

特に既習科目の理解ができているとは言い難い側面が多く感じられた。

(3) 次年度に向けての取り組み

まずは、質問7～11についての改善を図り、学生の理解がより深まるように対応したいと考える。

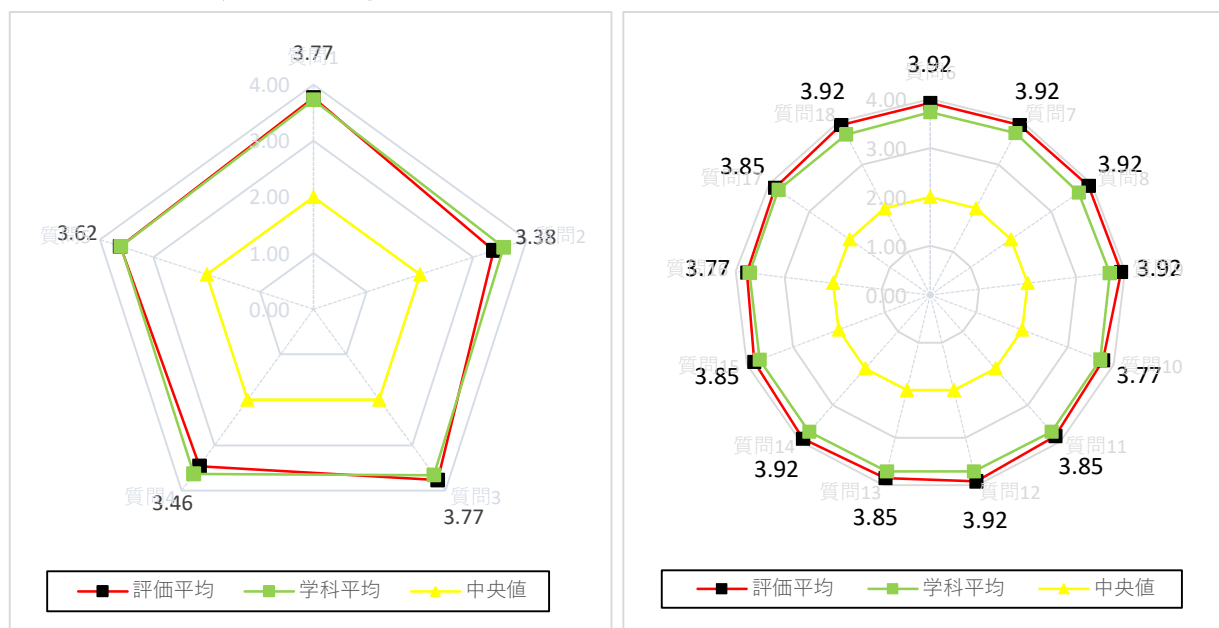
さらに、既習科目の復習に係る自己学習（予習・復習）を行うことを徹底させることで、本来の演習内容の充実を図りたいと考える。

課題提出の時間については、授業終了とともに提出し、30分程度あれば十分に回答できる内容（当該単元の国家試験問題から抜粋）にしていたこと、学生の希望のほとんどが自己都合（アルバイトがあるので回答できないという要望）であったため、相対的かつ学生の活動と休息の時間を鑑み、従来通り当日の21時から変更はしないつもりである。

また、万が一授業に変更が生じた場合は、都度学生に説明していたが、中には変更事項を十分に理解できていない学生もいたことから、情報提供と周知徹底を強化したいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		看護診断論	13名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

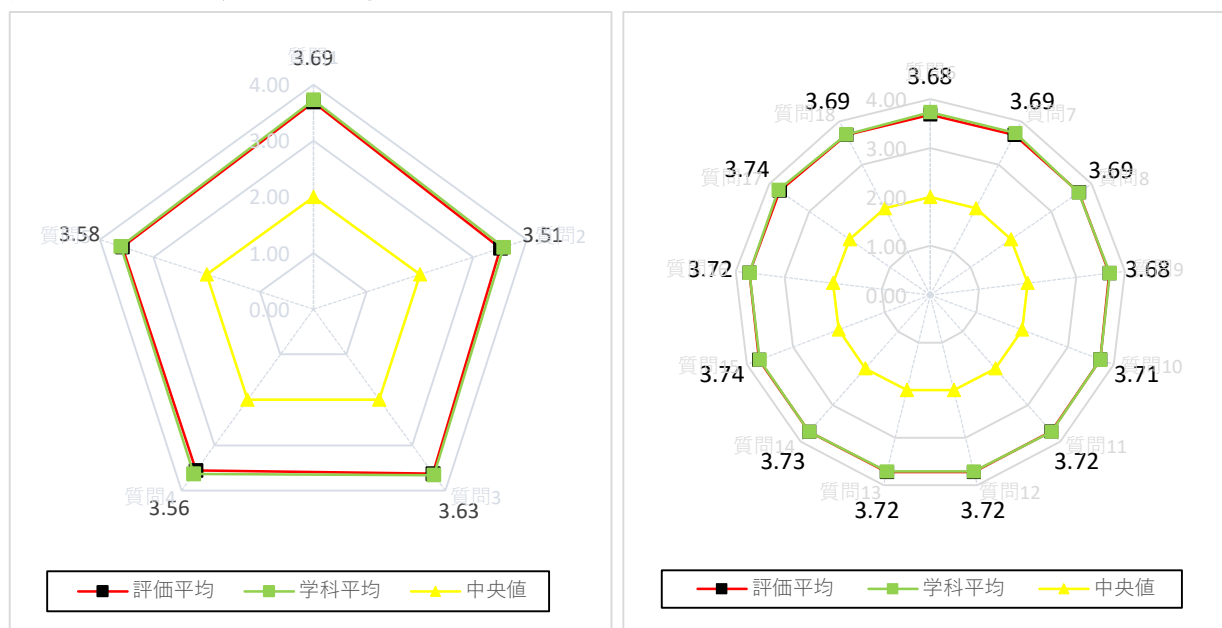
学生自身の授業態度に対する評価と比し、学生による教員評価は比較的高評価であった。評価平均は、学科平均を0.1～0.2ポイント上回っており、評価平均は3.9を超えていた。選択科目であったことから、学習意欲の高い学生が選択した結果である可能性が高いことが窺えた。一方で、本来ならば全員が選択すべき科目であるが、授業の開催がその曜日に当該科目だけであるため、選択を控える学生が多かった。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も今年度の授業展開を意識して展開する。特に開講日については、教務委員会に既に上申し、変更されることが決まっている。看護過程の展開における重要な科目でもあるため、学生の認識を深められるような授業の工夫を図りたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		次世代育成看護学方法論Ⅱ（小児）	92名

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

特にいい項目・悪い項目はなく、学生の評価は平均並みであった。

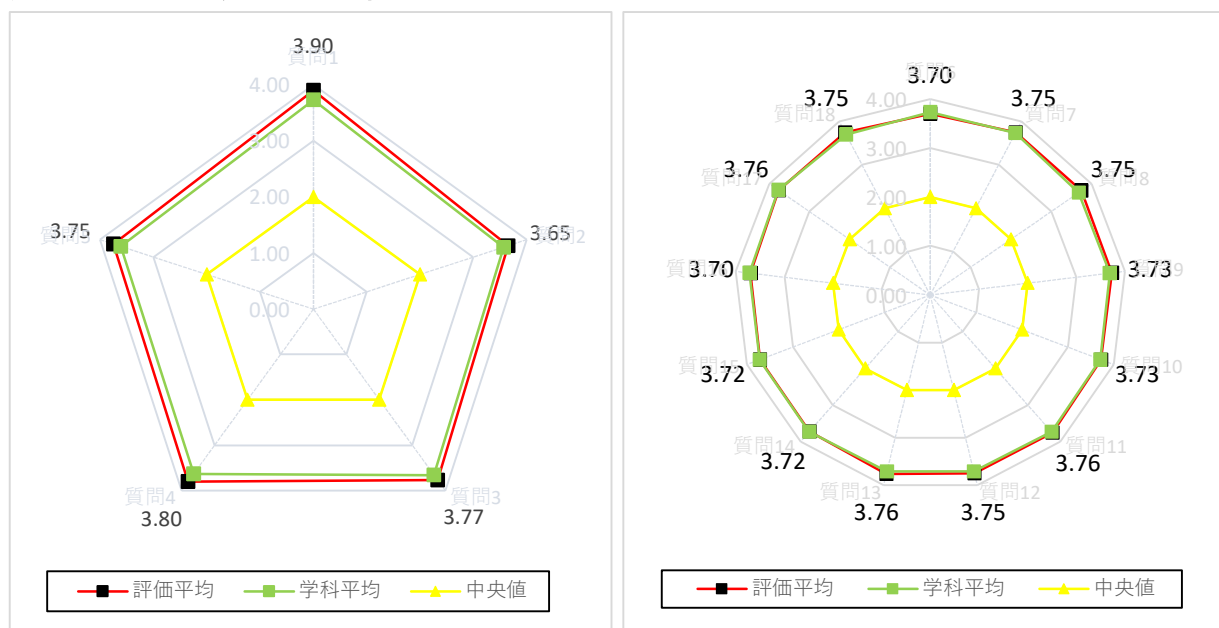
（３）次年度に向けての取り組み

次年度は、学生が興味を持てるように教材を視覚的に工夫し、また、座学だけではなく、体験型の授業を取り入れて行っていく。

また、適宜、発問を入れ、個人あるいはグループで発表する機会を多くしていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		次世代育成看護学実習Ⅱ (小児)	92名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

学生の評価は平均点とほぼ同じであった。学生は実習を行うにあたり、学生なりに工夫をしながら主体的に学んでいた。

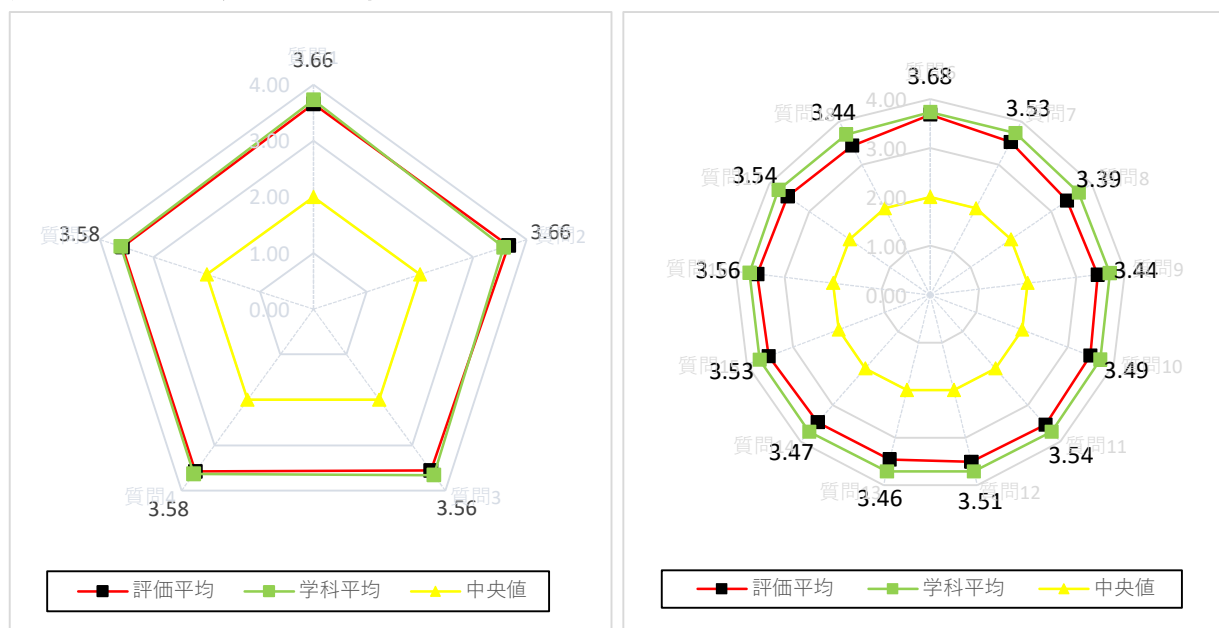
(3) 次年度に向けての取り組み

様々な場所で実習を行うため、実習場所の違いで学生に不利益が出ないように、カンファレンスで学びの共有を図っていききたい。

学生が主体的でやる気をもって実習に臨めるような前向きで適切な声かけを意識して行っていききたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		地域在宅看護学方法論	92名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

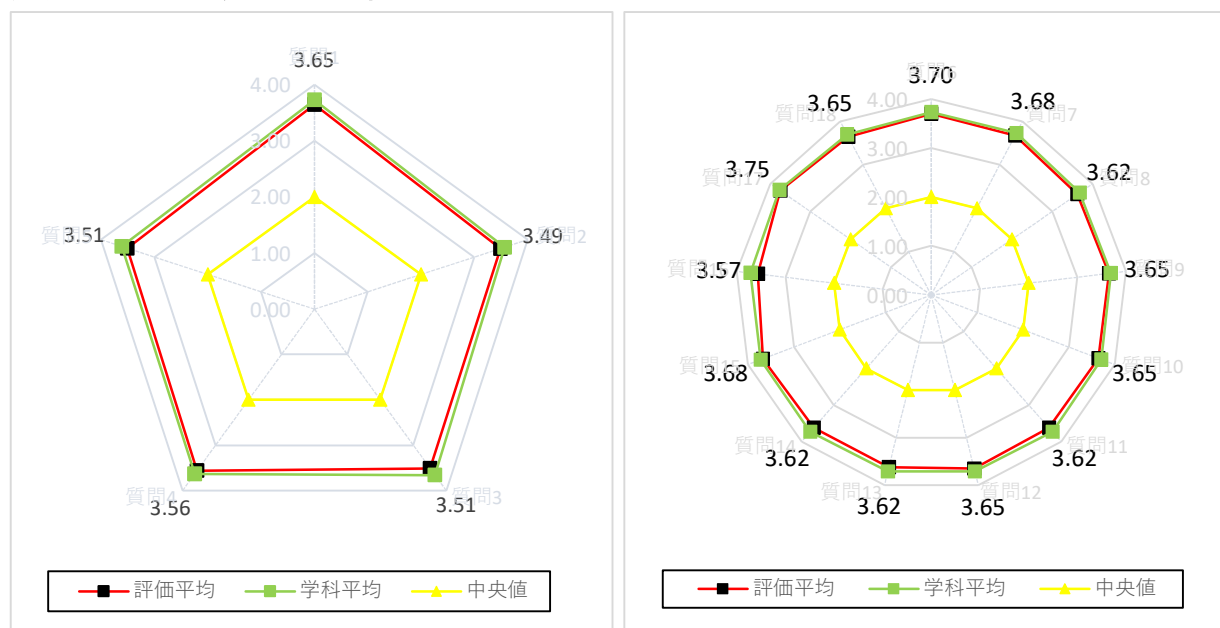
2コマ担当したが、前任者の立てた授業計画に従ったため、内容の精査が不十分であった。そのため内容が膨大となり、学生の理解を確認しながら進めることが出来ていなかった点が反省点である。疾病論、多領域の方法論と重複する部分もある為、授業内容を改善したい。

(3) 次年度に向けての取り組み

実習などの指導で得た経験を踏まえ、教授する内容を精査したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		高齢者看護学概論	66名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

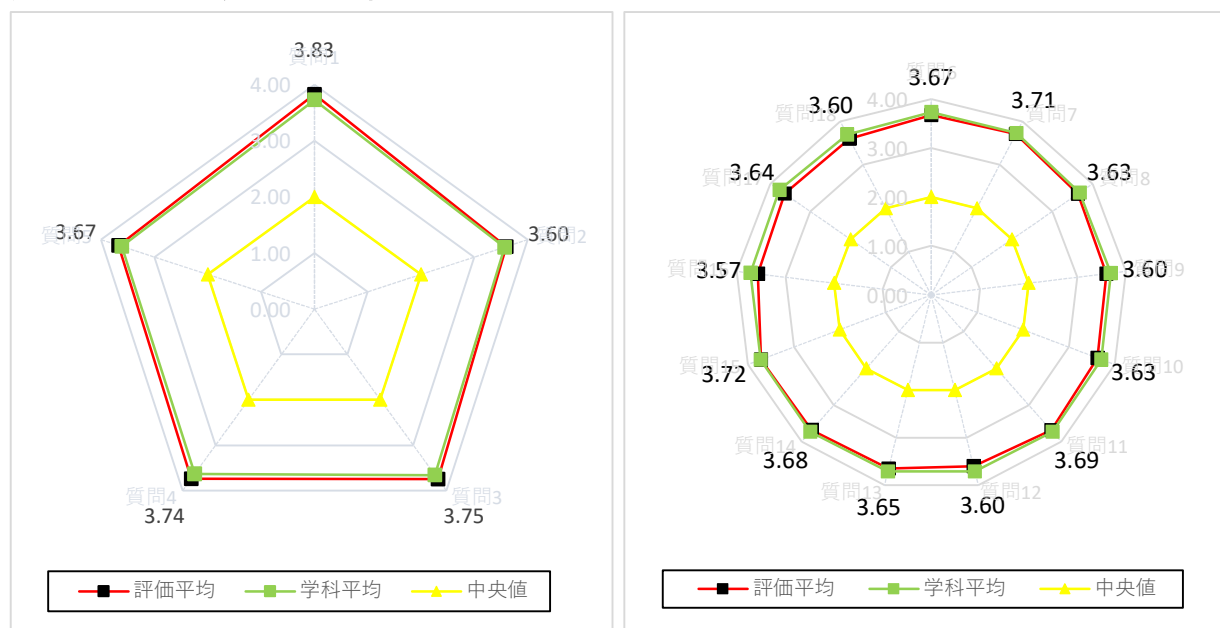
高齢者看護学概論野評価は 3.62 ± 0.59 と比較的高い評価だった。講義では高齢者は学生が高齢者との交流が少ないので、より理解を深めるため高齢者の模擬体験を用いた演習や地域高齢者との交流・会話を継続し、演習を通して理解しやすくしてきた。また、倫理的感性を高めるために高齢者の尊厳にかかわる内容は重視している。2年次の看護倫理学に一部内容を移動したが倫理原則などは強調しているため、理解をしやすく重ねて学修できていると思う。また、実習にも活かされている。また、介護保険等の制度の理解は家族との関係を含めた支援が考えられるよう事例を用いてグループで検討し発表し、レポート提出につなげ、関連づけながらポイントを要約している。また、各領域に共通する家族看護学の講義で学んでいくが高齢者看護学にも関連しているので、家族の機能や家族の思いの理解と介入について理解しやすいよう、自らの体験も交えながら講義している。家族の抱えるさまざまな複雑な関係性、思考や感性が豊かに働くよう、様々な事例の紹介と興味が持てるようにし関心を高めており、後期の方法論及び臨地実習につながるようにしている。

(3) 次年度に向けての取り組み

評価は3.7程度と比較的高い評価であると思う。概論であるが、高齢者・特性の理解、保健の動向の理解、制度の理解という国家試験にも出やすい内容が多いため、授業内容には必ず国家試験問題を提示し、回答させたり、小テストもいれているため事後学修させているため、必要不可欠の認識となり、興味・関心は高めることにつながっていると思う。年齢的には学生とのギャップがあるため、祖父母や親との家族に関心も持たせるよう問いかけているので、徐々に関心を示してくれているので、今後も事例を提示し、自己の課題として学ばせたい。地域の高齢者との交流、模擬体験は大変印象に残っているようなので、引き続き継続するが、学生からのより積極的な問いかけになるよう事前準備等計画を強化したい。学生の高齢者観の形成に影響していくので、高齢者に対する自己の課題にも気づくことになるため、実習での成長につなげ、見守っていききたいし、個人差や個性でもある事と高齢者観は変化し成長することを伝えていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		地域在宅看護学実習	92名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

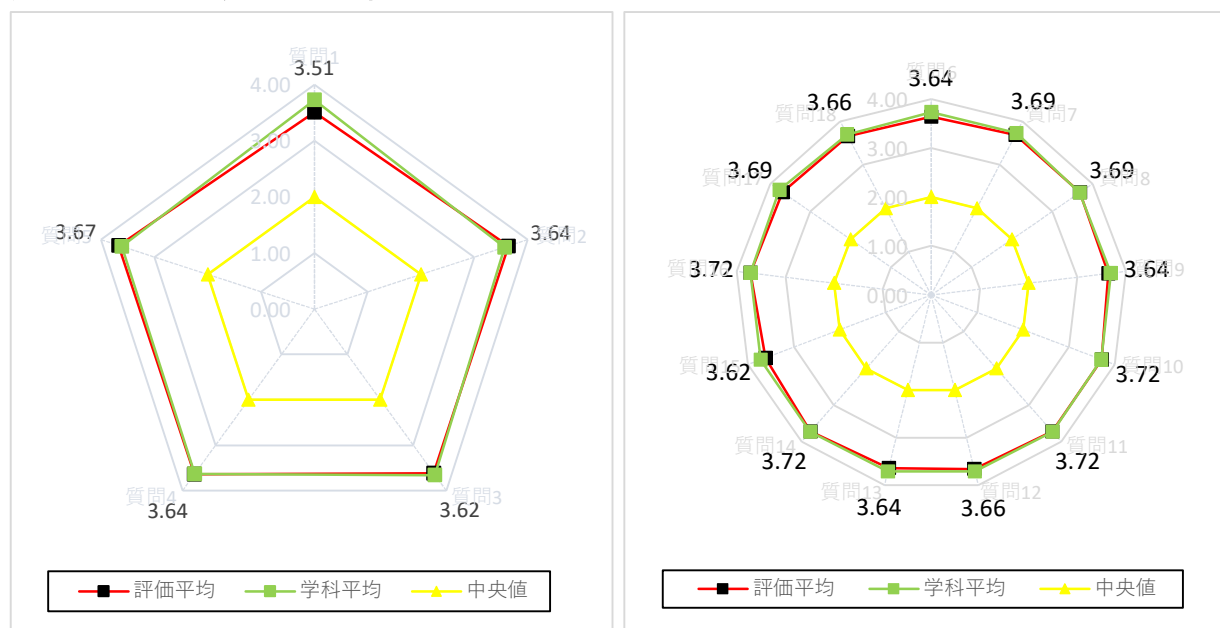
協力頂いた教員、非常勤助手の尽力により、概ね目標は達成できていた。
 しかし、前任者からの引き継ぎが不十分であったため実習施設との連携は困難な点があった。
 在宅領域の特徴として実習施設の協力に依存する部分が大きく、臨地指導者に負担が大きかった。
 その反面、臨地指導者の個性に振り回される面もあり、調整が困難な状況があった。
 ほとんどの学生は誠実に実習に臨んでいたが、学修態度が整わない学生も少なくなく連携して指導に当たる必要があった。
 興味関心がない領域の実習だと学修態度を変える学生もあり、オリエンテーションなどで指導が必要であった。
 事前学修を含め、準備状況が整わない学生もあり、臨床側から指摘を受ける場面もあった。
 病院施設での実習とは異なり、実践の場面に教員が付き添うことはない。そのことに不安を感じる学生も居たようだが、実習指導者との連携を行ない適宜指導を行なっている。目標達成への影響はなかったと考える。
 オリエンテーションを逐次変更して対応したが、科目責任者だけで対応するには限界もあった。

(3) 次年度に向けての取り組み

実習施設との連携について、施設の事情もあるが求める実習内容を徹底するよう調整を行なう。
 実習の準備状況は、オリエンテーションを含め十分に行なうように事前指導を行なう。
 実習の進行については、実習指導者と連携して柔軟に行なう。
 看護過程の展開については、指導の機会を確実に設け、実習の進行がスムーズに行くよう調整する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		高齢者看護学方法論	64名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

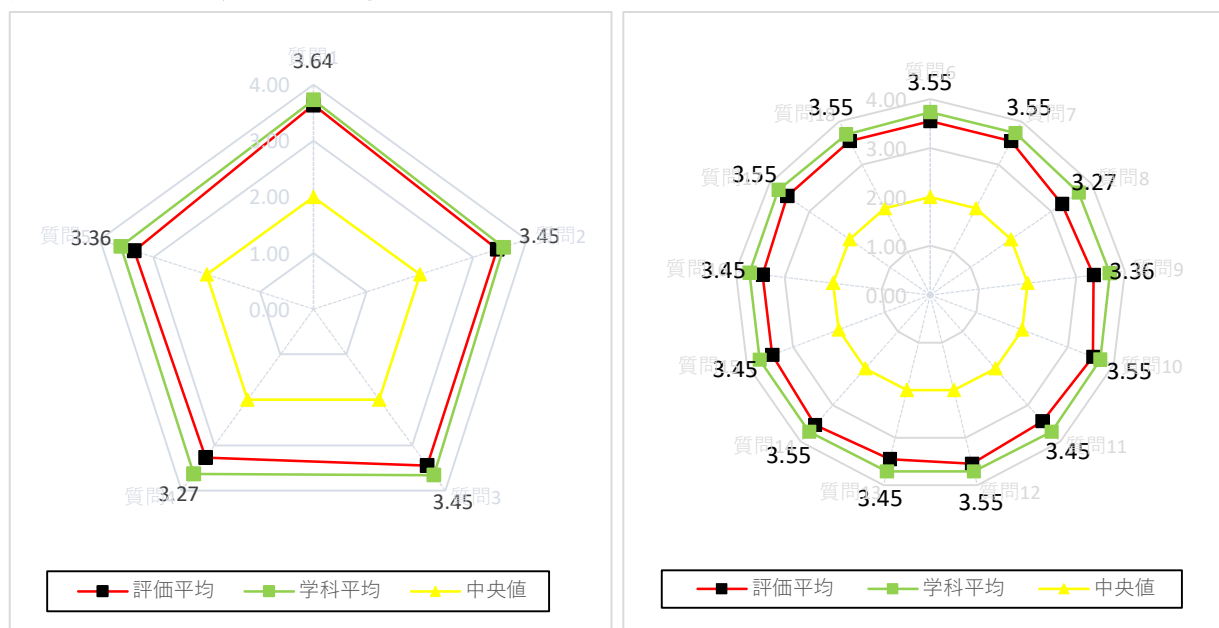
授業評価アンケートの回答率は95.3%であった。概ねすべての項目で学科平均値と同様もしくは上回っており、概ね学生のニーズに対応した授業であったと言える。一方で、学生自身の授業参加態度の評価である質問1は学科平均値を下回っていた。講義形式が多く、2コマ続きで開講しているため集中して取り組むことが難しかったことが要因と推察する。

(3) 次年度に向けての取り組み

引き続きICTを活用したインタラクティブな科目展開を行えるように工夫していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		次世代育成看護学概論Ⅱ (小児)	65名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

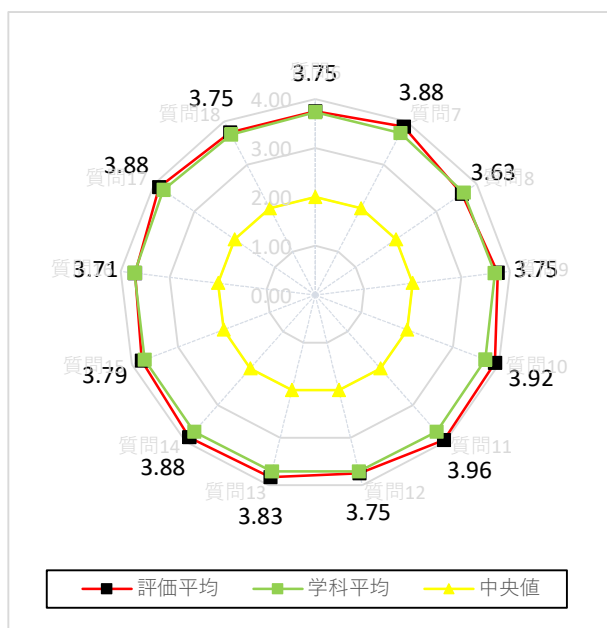
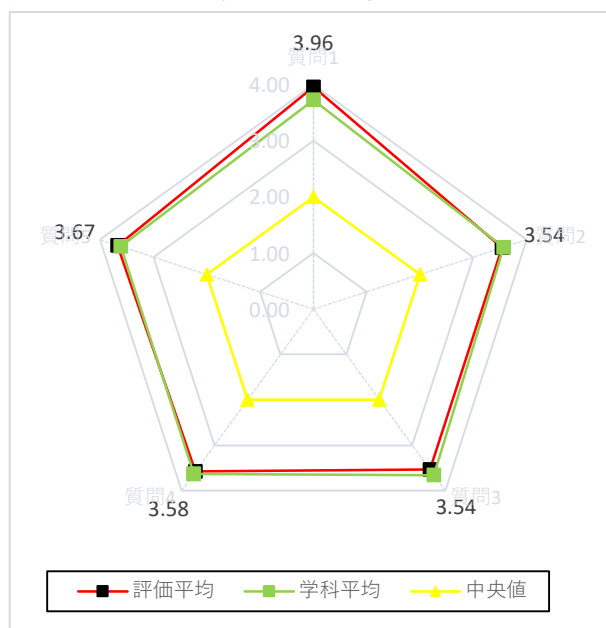
2名の教員で担当したが、ほぼすべての項目で平均値よりも低い評価であった。
授業の構成・教授方法の見直しが必要である。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業の構成を再検討し、一方向の授業ではなく、学生に発問しながら相互方向の授業展開を実施したい。
難しい内容は学生が理解できるように工夫し、学生の理解度を確認しながら展開していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		地域在宅看護学概論	66名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

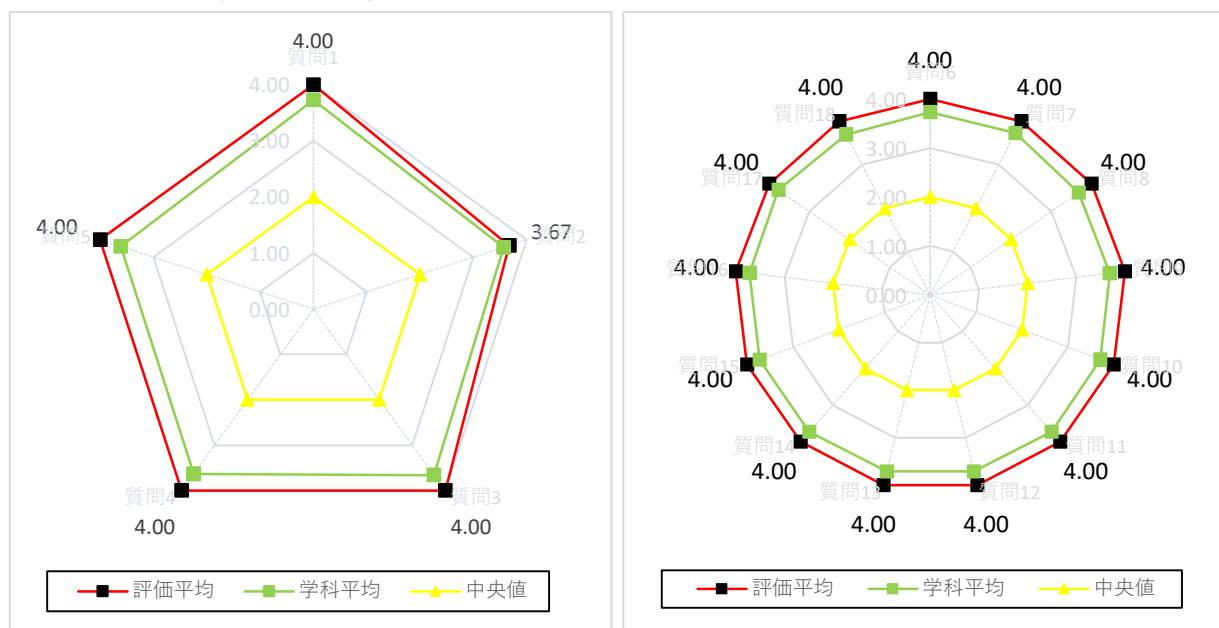
地域・在宅看護学の科目に取り組むのは初めてであったが、非常勤の先生とも連携し、何とか学科平均の評価を得ることができた。

(3) 次年度に向けての取り組み

養成所規則に従い、科目専門の教員が実施することが、学生にとって望ましいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		卒業研究	5名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

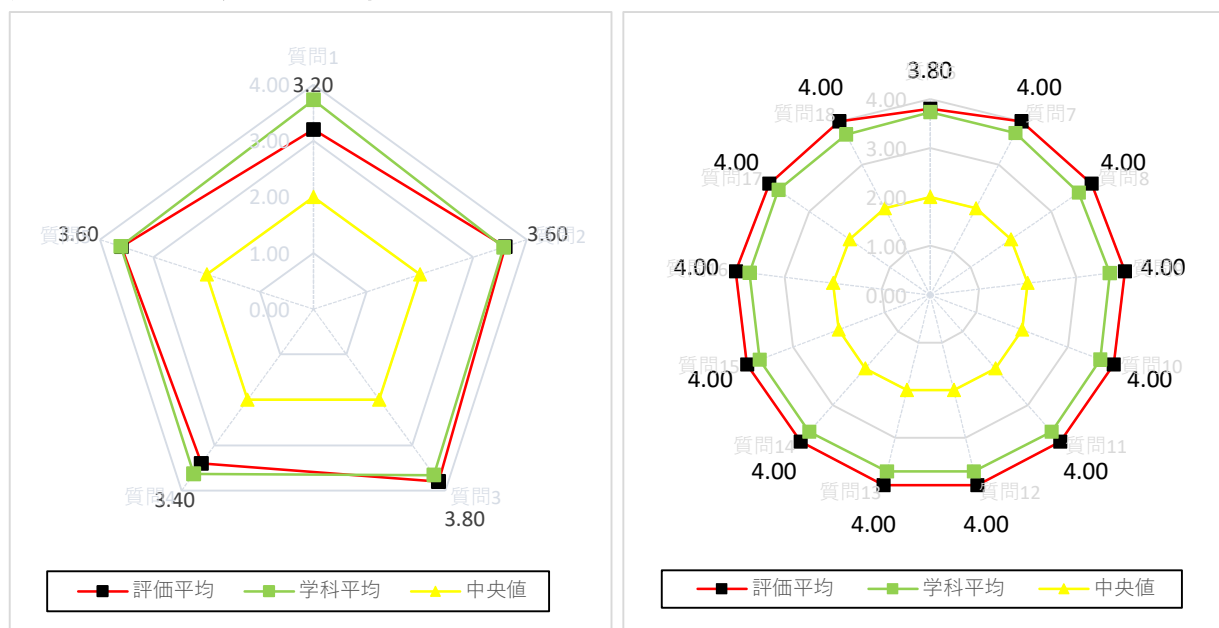
授業評価入力者が5名中3名と回答率が60%であった。学生評価質問2以外は、教員評価もすべて4ポイントと高得点であった。4年次生は、臨地実習・就職活動と並行していることから、学生とこまめに連絡をとり、それぞれの学生にあった進捗で指導するよう努めた。また、提出、発表まで繰り返し推敲できるよう、余裕をもったスケジューリングとゼミ内のグループワークを活発に行った。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も、同様の方法でゼミを展開する。授業評価の回答時間を確実に設け、回答率100%を目指す。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		卒業研究	5名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

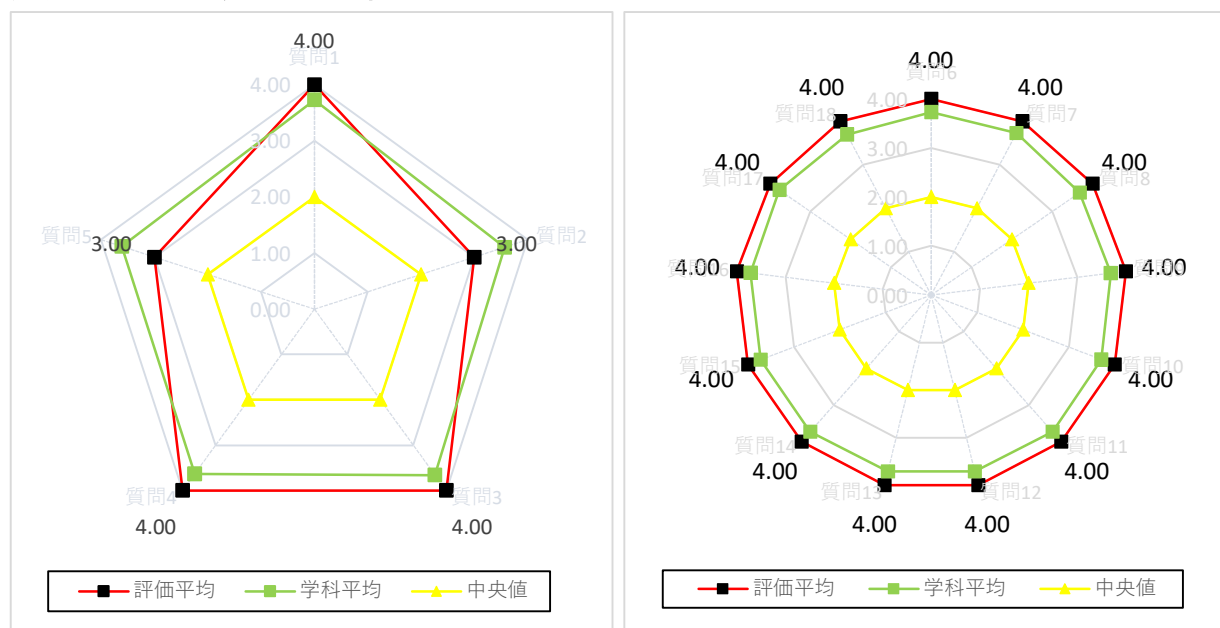
授業評価アンケートの回答率は100%であった。大半の質問項目において、学科平均を上回っていた。質問1および質問4の特典が低かった要因として、履修者全員を一斉に集めて行うスタイルを取っており、就職や実習の関係で全員が揃わなかったため、学生は欠席したという認識があったことが考えられる。しかし、別日に個別対応していることから履修者全員の出席日数に問題はない。

(3) 次年度に向けての取り組み

卒業研究という特性上、今後も全員を一斉に集めて開講をする予定である。実習や就職試験による欠席は、別日に個別対応することで代替できていることを説明する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		卒業研究	2名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

担当が2名であり、今回1名の履修生だけの評価になっているが、2人一緒に指導を行っており、ほぼ同様な学習の進捗状況で、学修進度は順調にできていた。評価点は 3.89 ± 0.32 と非常に高かった。学生は自主性もあり、指導したところまできちんと準備して、非常に自主的な進み具合で課題に取り組んでいた。約束した日程で予定通りに学修を進め、検索後の論文講読もメンバーで行いながら、学生同士の相互の意見交換により理解も深められていた。卒論発表会と論文提出も助言を活かし、自らの修正・工夫により集大成の論文と発表につながった。論文の読解力や講読の力・批判的に読む力も徐々にあがってきたようだ。今回の研究ゼミナールでは論文を読む楽しさも味合うこと、批判的に読むことも必要なこと、深く読むことの重要性の理解も出てきたので、今後の就職後の活動、研究等につながり活かせると思う。

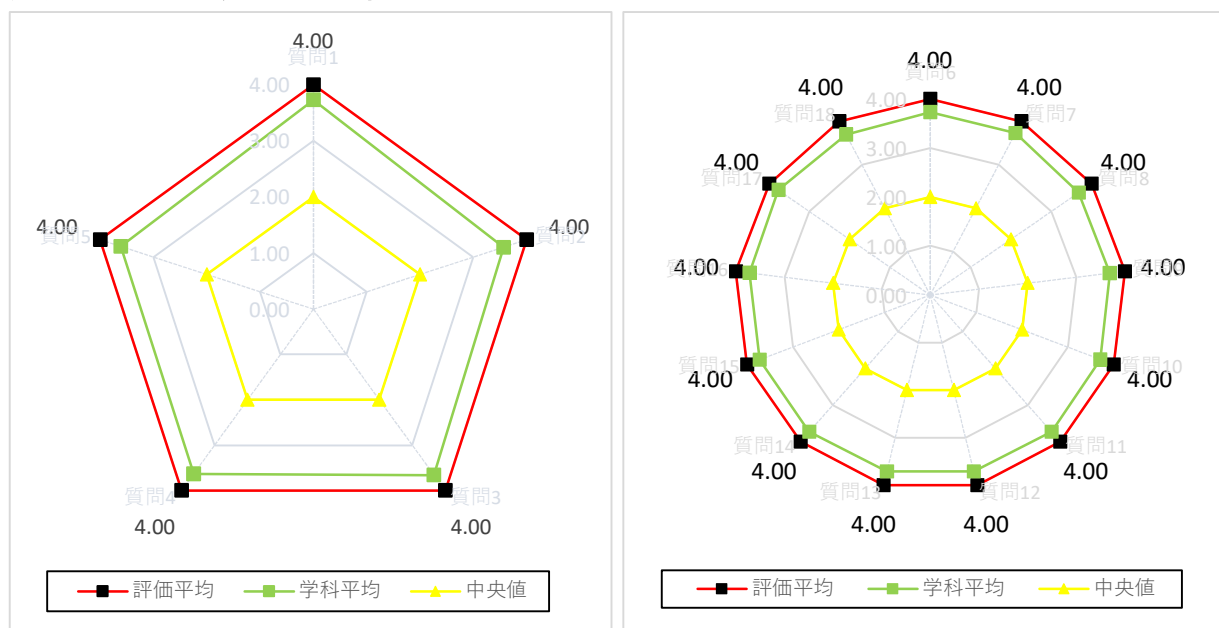
(3) 次年度に向けての取り組み

担当学生が少ないが、4年次の実習や保健師教育課程の実習、就職活動も加わるため、計画的に進める必要がある。学生の主体性で進めたいと思うが、より効果的に計画的にするために年度初めに時期と達成目標を出し、学生自身にも行う内容と行動が理解し進めていくことを見える化する意味で計画書を作成し進めていきたい。学生の個別の能力の差が非常に出る授業であるため、能力に応じて、示唆の与え方や助言内容は工夫したい。テーマ決定や文献検索には不慣れであるため、そのプロセスを大切に、確認作業を行い、関わりつつ方向性を共に進めていきたいと思う。

文献がヒットすれば、文献講読を丁寧にクリティークするようにし、文章にまとめやすくしたいと思う。その過程で学生の成長を伸ばし、文献講読の楽しさ、研究することの楽しさを味わってもらいたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		卒業研究	5名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

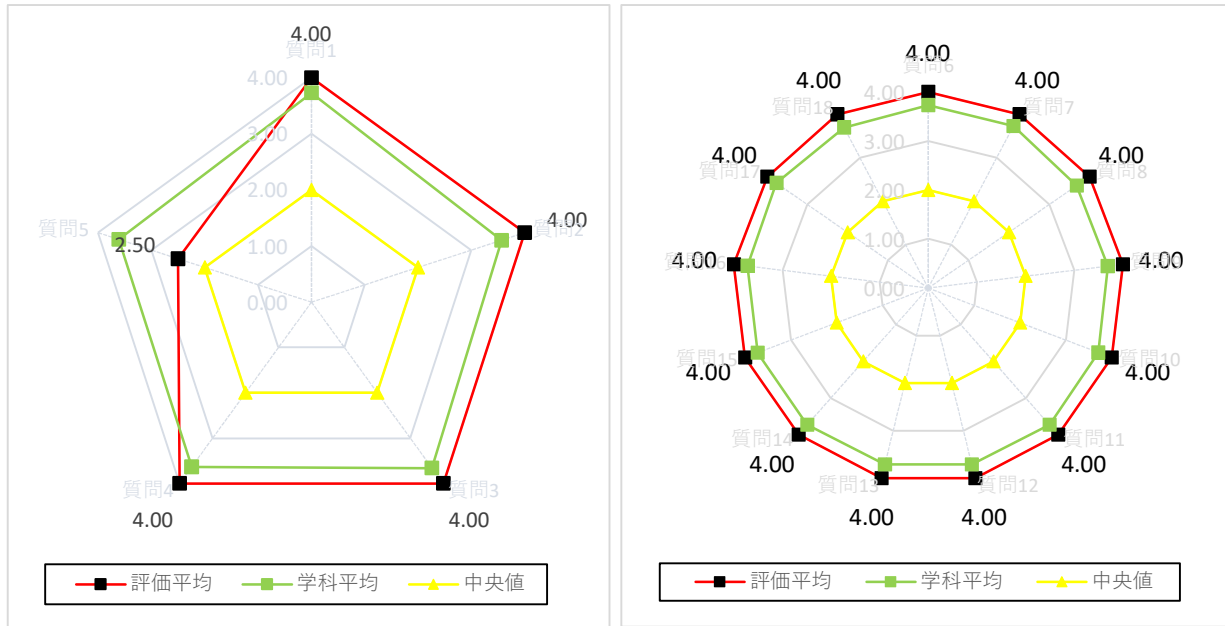
本科目では、研究課題の設定から文献検討、研究計画の作成、研究論文および抄録の完成に至るまで、研究の基本的プロセスを段階的に学修しました。各自が研究テーマを主体的に探索・決定し、文献を基盤として論理的に思考しながら研究を進める姿勢が認められました。研究プロセス全体を通して、自律的かつ創造的に学習に取り組み、最後まで研究を完成させた努力は高く評価されます。今後も学生の自主性を支援しながら、研究指導をしていきたいと思ひます。

(3) 次年度に向けての取り組み

アンケートに回答して下さった学生の皆さんに御礼を申し上げます。今年度はアンケート回答者が少なく、次年度は受講生へ講義時に呼びかけるなど回答率を上げるように呼び掛けていきます。開講時期が学生の多忙な時期と重なるため学生のスケジュールも加味しながら研究指導をしていきたいと思ひます。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		卒業研究	5名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

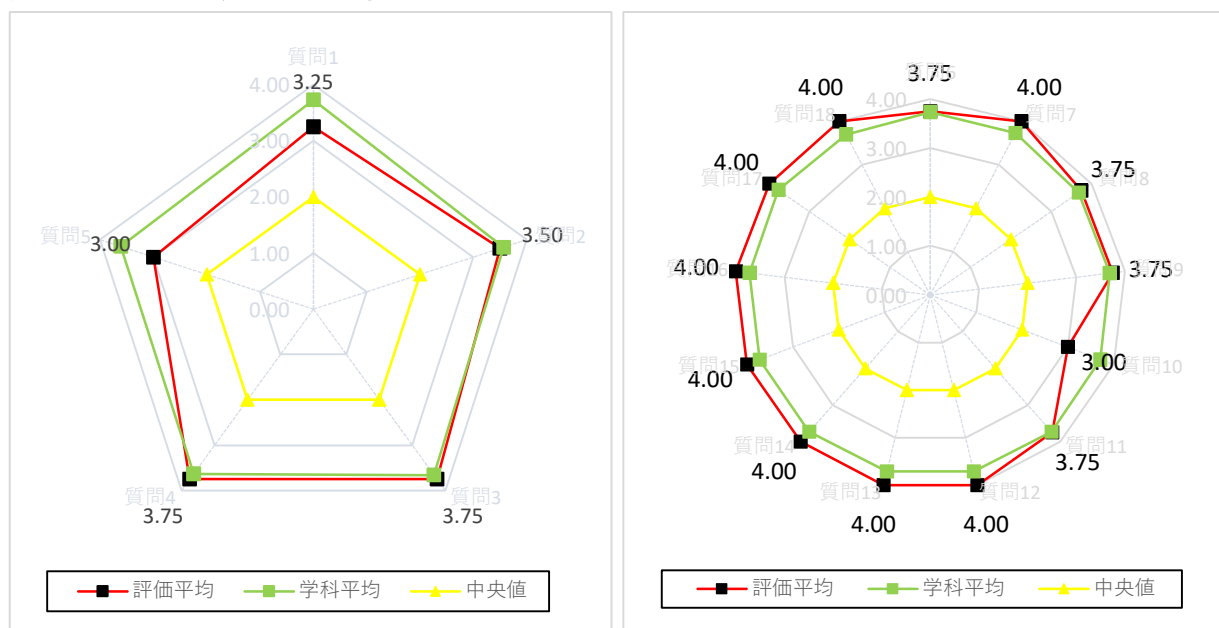
全体のスケジュールに従った進行であったが、学生の主体性に依存する部分が大きかった。他科目との兼ね合いもあり指導時間の確保に苦慮したが、概ね目標は達成できていた。生成系AIの利用や剽窃など、不誠実と取れる態度を取る学生は年々増えている印象であり、対応に苦慮している。発表会意外にも、第2、3評価者を設定するなど、評価の質の担保も必要だと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

テーマ選定、進行は学生の主体性を尊重するが、自律性に乏しい学生も一定数居るため、コントロールが必要である。看護学統合実習、就職活動など学生側の要因に加え、他科目との兼ね合いでゼミの開催が難しい時期があった。スケジュールの確保に努めるとともに、計画的な進行を指導する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		卒業研究	5名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

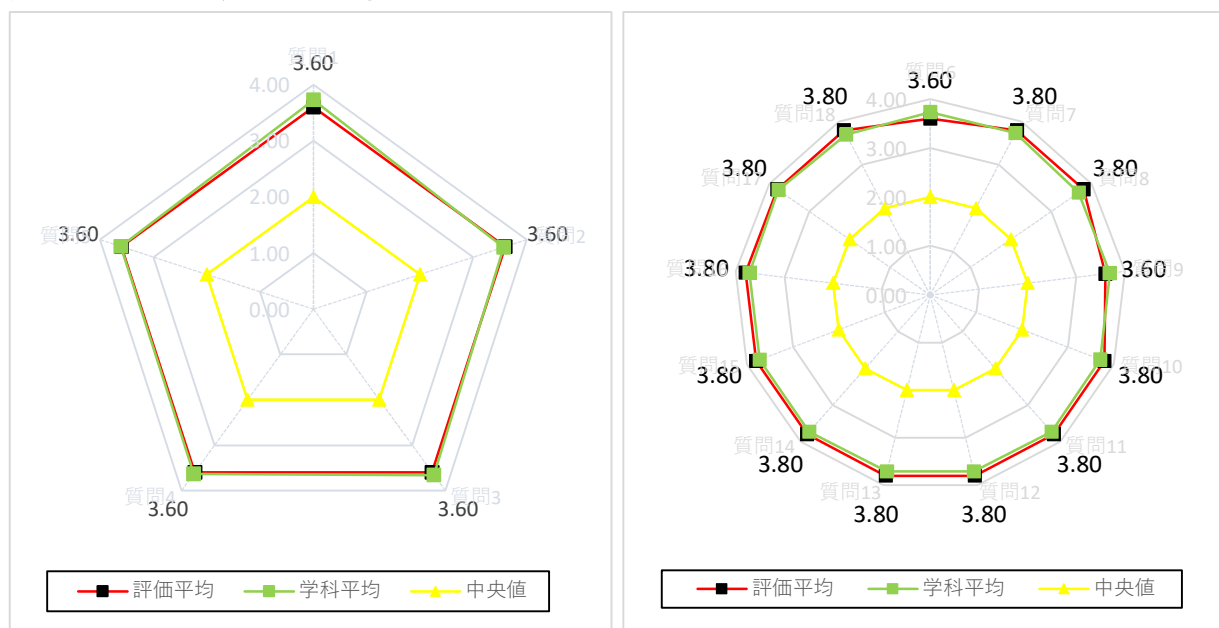
4年次の国家試験・実習の中での通年講義であり、文献検討が研究であるため、読解力によっては毎年一人程度の学生苦戦することが多い科目であると考え。また、今年度の学生は就職活動も順調ではなかった学生もいたため、欠席については仕方がないと考えている。視聴覚素材を使用することはゼミでは少なく主に文章を深く理解できることを目標とし多賀、結果としては学生の満足度も高い仕上がりとなった。

(3) 次年度に向けての取り組み

今年度は出来る限り早め早めの目標設定とし、心理的安全性が守れるように学修プランを調整する予定である。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		卒業研究	5名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

卒業研究は、学生が研究的視点を養い、看護実践を科学的に捉える力を育成するための重要な科目である。今年度は、研究テーマの決定から文献クリティークまでをグループで取り組むことで、学生同士の相互作用を活かした理解の深化が図られた。その後、研究計画書の立案以降は個別指導へ移行し、各学生の関心や進度に応じたきめ細やかな支援を行った。

また、就職活動や臨地実習と並行する状況を踏まえ、学生一人ひとりの状況に配慮した柔軟なスケジュール調整を行った。その結果、全体として円滑に進み、一定の教育的成果が得られた。

一方で、文献の読解力や考察をさらに深化させるためには、より段階的な課題設定や指導方法の工夫が必要であると考えている。

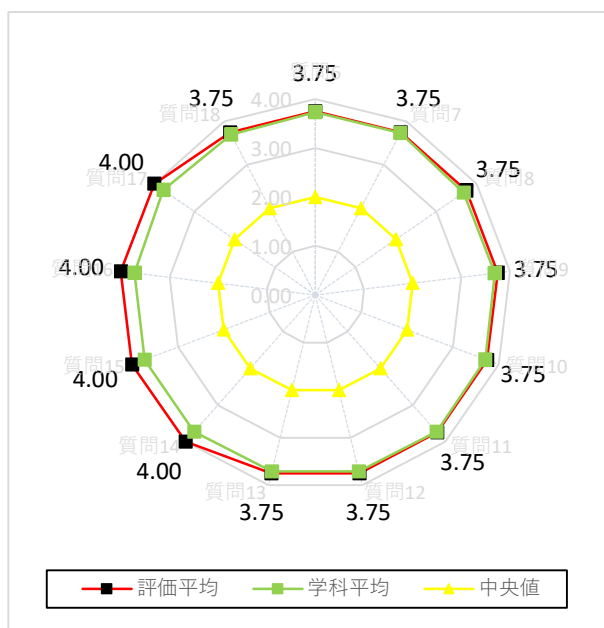
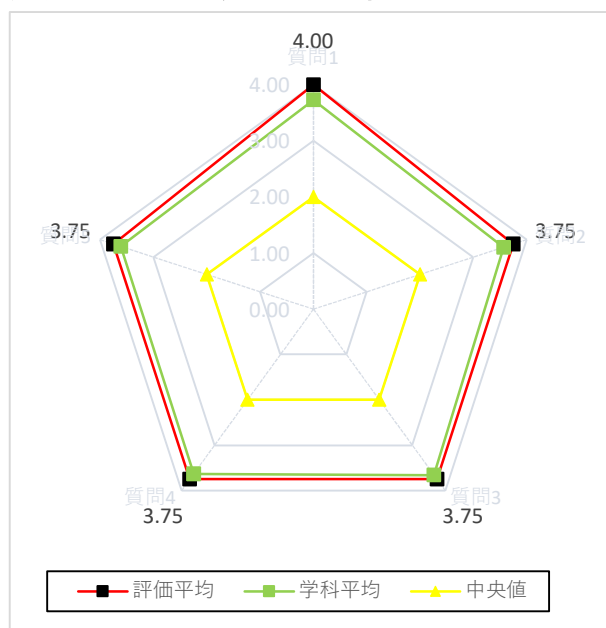
(3) 次年度に向けての取り組み

次年度においては、卒業研究の教育効果をさらに高めるため、研究過程に応じた段階的課題の明確化および指導体制の充実を図る。具体的には、研究テーマの焦点化、文献検索・クリティーク、研究計画書の作成、考察の各段階において到達目標を明示するとともに、中間評価の機会を定期的に設ける。

また、文献の読解力および批判的思考力の向上を目的として、ミニレクチャーを適宜取り入れ、基礎的能力の底上げを図る。また個別指導・グループ指導それぞれの特性を活かし、相互学習と個別支援を組み合わせることで、学習効果の向上を目指す。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		卒業研究	5名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

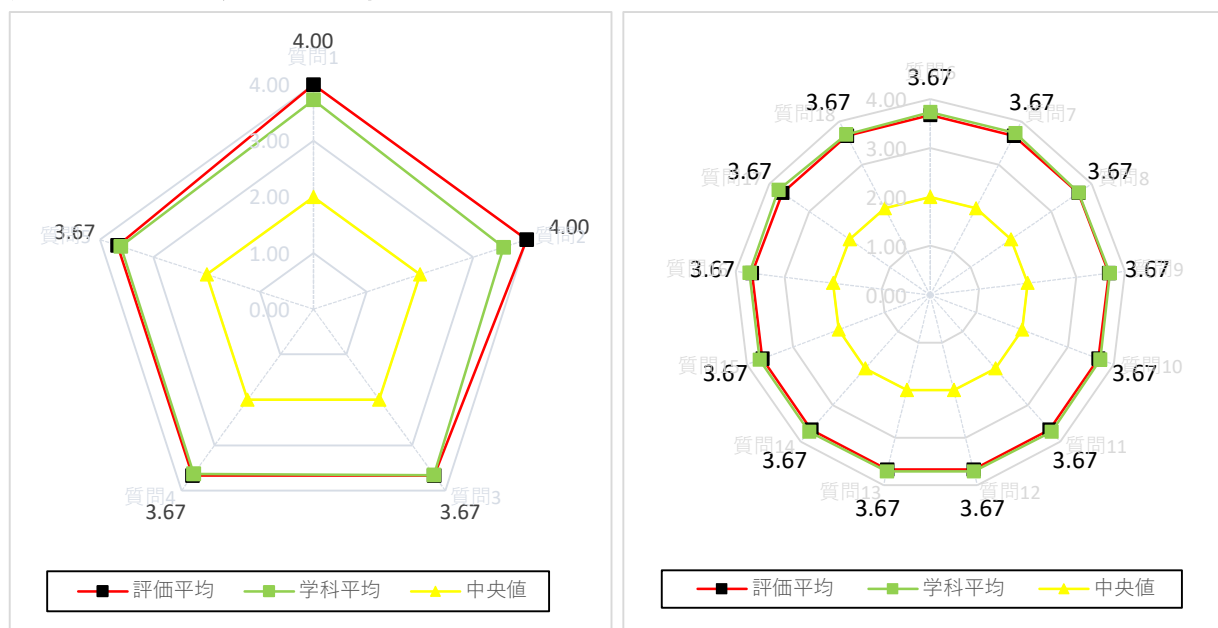
全員、真面目に取り組み、提出発表とも実施でき、内容も優秀な出来栄であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

個別の対話と指導を通して、学生自らが気づき、成長できるよう支えていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		卒業研究	5名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

自己評価、教員評価共に高評価であった。

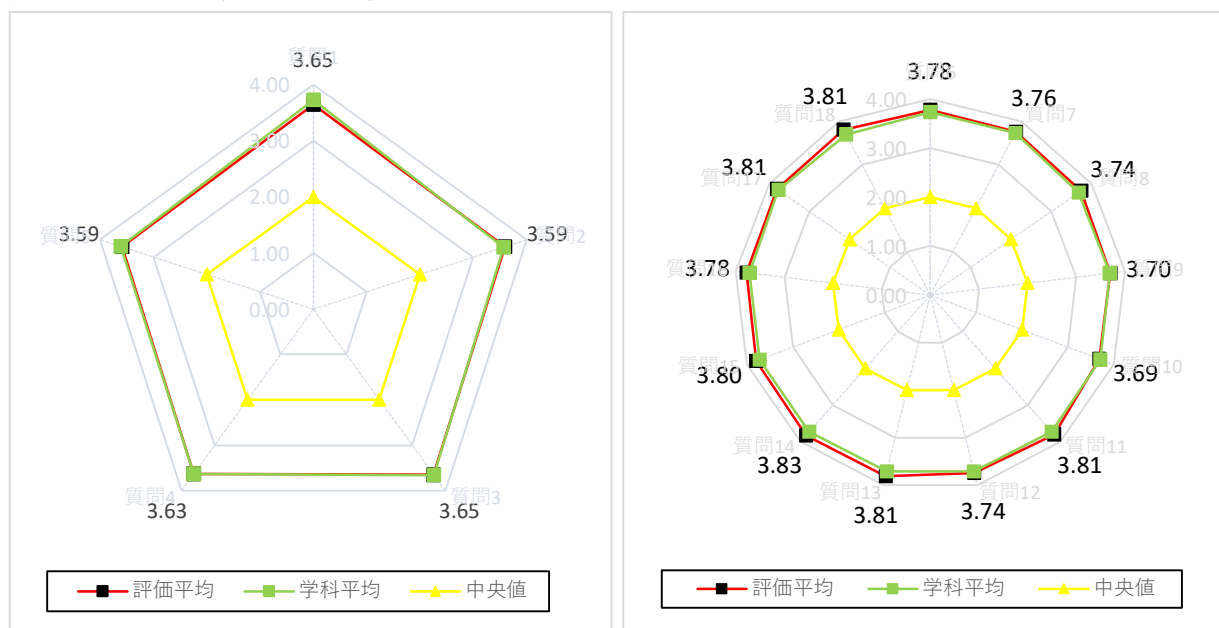
学生自身が真剣に卒業研究に取り組めたという評価が出ている事が現れた結果となっている。学生が文研研究を行うにあたり、文献検索等解らない事も多く見られていたため、一緒に文献を検索する事や、研究の進め方、まとめ方など共に意見をすることが多くあり、質問16の評価も高いものになっていると考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

今回の評価としては高評価であったことから、学生と共に時間にゆとりを持った教授を行うと共に、相互の意見交換を含めて学生自身の考えを確認しながら論文にまとめられるように勤めていきたいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		公衆衛生看護学概論	67名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

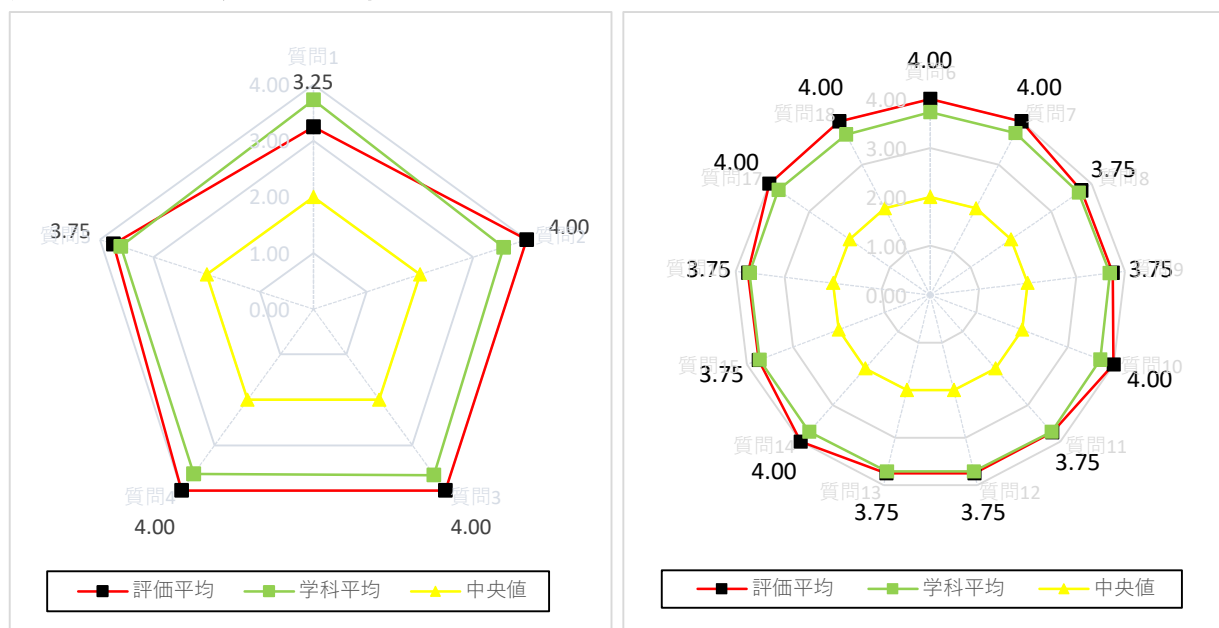
登録者のうち、1名が欠席6回以上で失格となった。それ以外の学生は、再試験まで実施して合格することができた。評価は学科平均を得られた。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生が主体的に取り組めるよう、話し合いの場の設定を行っていきたい

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		卒業研究	5名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

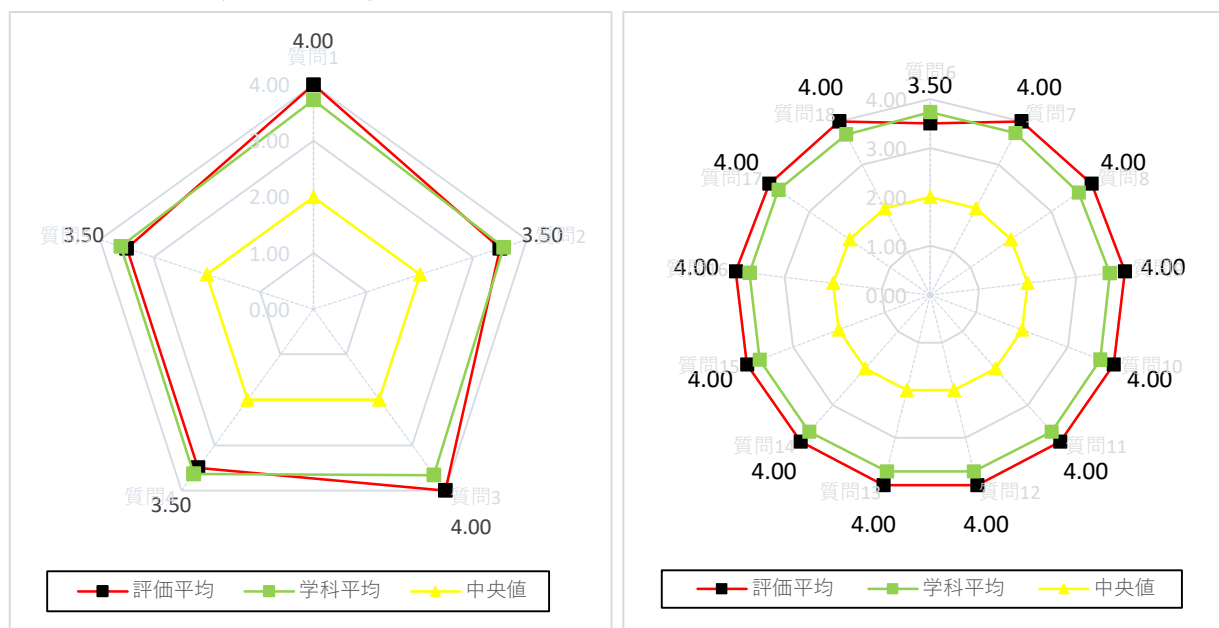
学生の評価は高かった。
 学生の興味関心を大切にし、学生の知識・理解度を確認しながら、分かりやすさを心がけて接した。
 また学生からの疑問・質問等に誠実に対応することができた。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も、学生の好奇心を大切にし、学生が疑問・質問等を出しやすい雰囲気を作りを継続する。
 また、学生と共に論文を作成していくという姿勢で臨んでいきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		卒業研究	5名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

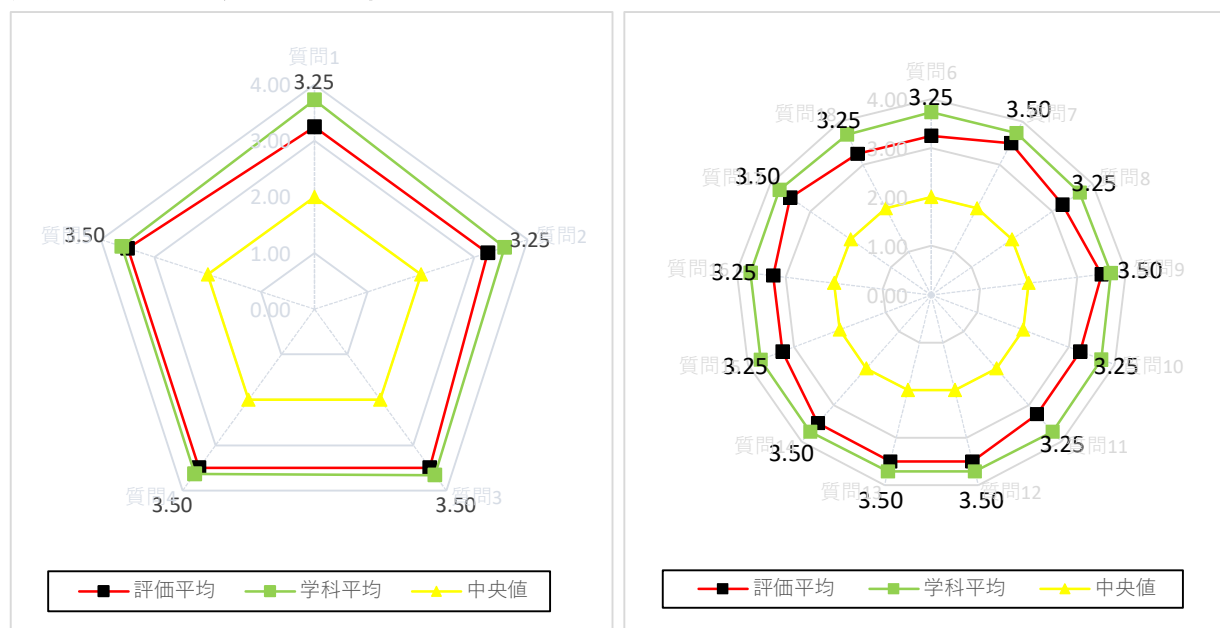
・シラバスについて、紙面を活用して説明をしていなかったため評価が落ちていたが、その他についてはこう評価を受けていた。

(3) 次年度に向けての取り組み

調査回答率が低く、研究発表会時に再度参集して評価の入力をするように徹底していきたい。
また、今年度はシラバス説明を徹底することで、学修の狙いを周知していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		卒業研究	4名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

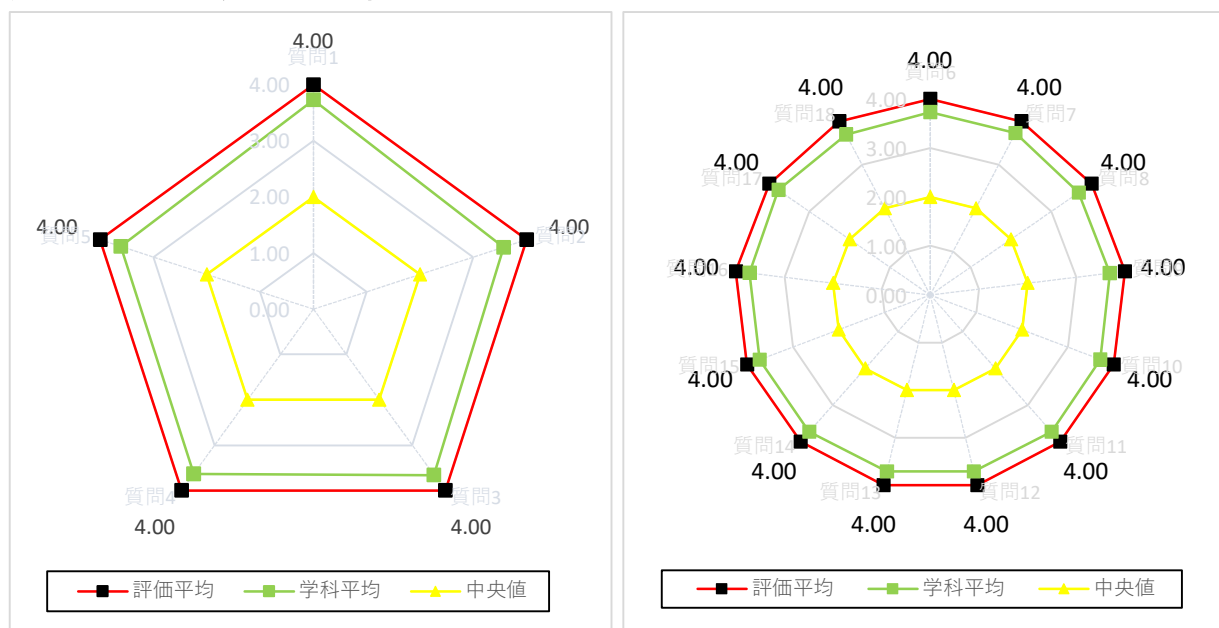
評価平均は3.38であった。各質問で「2」と回答した学生がいた質問は質問8・質問10・質問11・質問15・質問16であった。本授業はゼミ形式で開催し、4年次の看護学統合実習がはじまるまでの期間は4名が集まってゼミナールを開催できていたが、時期によっては2～3名のゼミとなり進捗や指導内容に差が出ていた可能性がある。また、学生の卒業研究に取り組む姿勢にも差が見られ、前回ゼミで指導したところが修正されていない場合も散見された。視聴覚機器や板書を行う機会は少なく、発表会前の練習でポータブルプロジェクターを使用したのみであった。もっと白板やプロジェクターを用いてゼミに関する資料を提示する必要があったかもしれない。出席については無断欠席や停学期間があった学生もあり、1名のみ問1で「1」と回答していた。

(3) 次年度に向けての取り組み

来年度も継続して、なるべく全員でゼミナールを開催できるよう日程調整を行う。実習等で欠席する場合でも、teams等で全体の進捗状況を共有しながら指導を進めていく。また、必要時は白板やプロジェクターを用いて資料の提示を視覚的に実施していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		ヘルスプロモーション実習	66名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

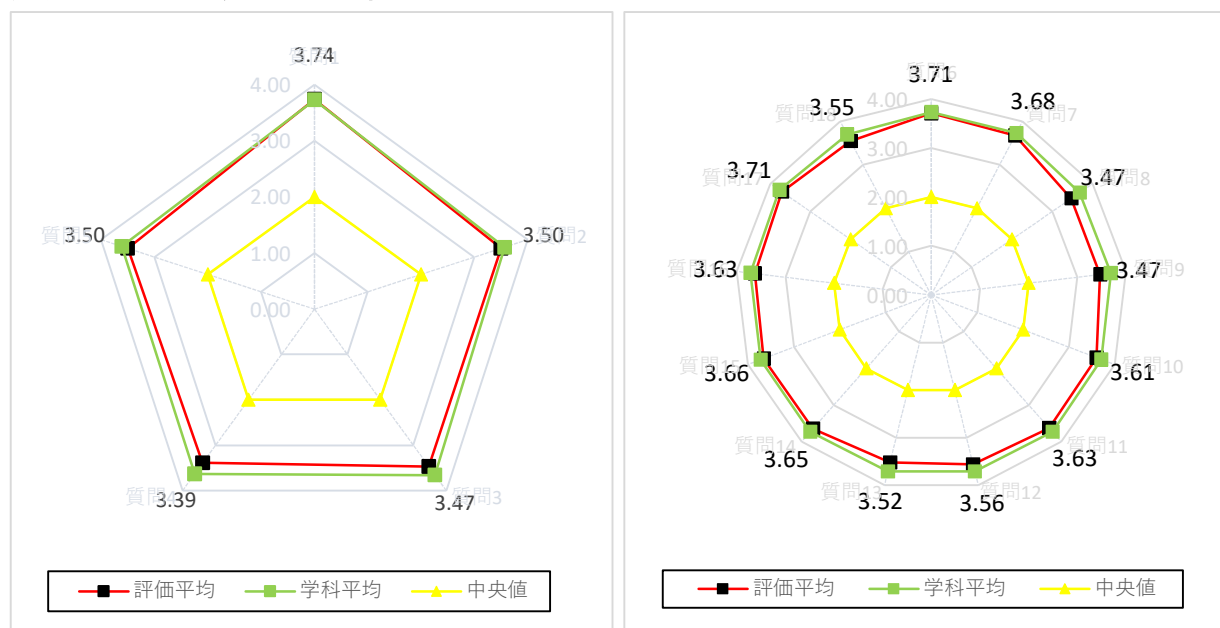
スバ手の学生が休むことなく積極的主体的に参加できていた。自己評価も高く、また内容に対する評価も高かった。

(3) 次年度に向けての取り組み

内容を継続し、学生が主体的に学べる体制を継続していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		家族看護学	64名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

現在、医療の高度化・複雑化や在宅療養の増加に伴い、家族への期待や役割の負担が増大する一方で、家族の負担も大きくなってきている。看護職者には、家族を単なる資源としてではなく、看護の対象として捉え援助することが求められており、家族支援の方法を学ぶ本科目の意義は極めて大きいと考える。学生の授業に対する興味・関心は概ね良好であり、グループワーク等にも積極的に参加する姿勢が認められた。一方で、個別課題やレポートへの取り組みにおいては、提出期限直前に着手する傾向や、「何を書けばよいか分からない」といった戸惑いが見られ、知識の定着が不十分で思考を深めることに課題を有する学生も認められた。

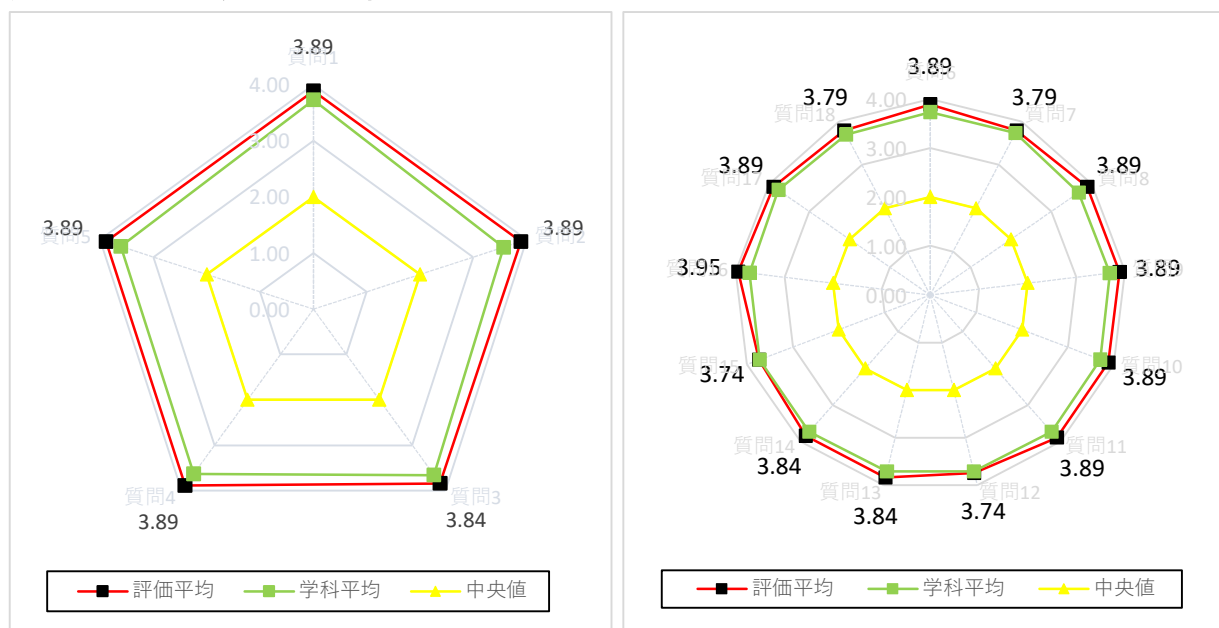
また、抽象的概念の理解に困難を示す学生も一定数存在することから、今後は講義内において具体例を積極的に提示し、理解の促進と苦手意識の軽減に努めていきたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度に向けては、学生の理解度に応じた段階的な学習支援を強化し、知識の定着と臨床的思考力の向上を図る。特に、抽象的概念の理解を促進するために、具体的事例や臨床場面を積極的に取り入れ、概念と実践を結びつけた講義展開を行う。また、個別課題やレポートについては、早期から取り組めるようスケジュールを明確化するとともに、評価基準や記述のポイントを具体的に示すことで、学生が主体的に学習を進められるよう支援する。必要に応じて中間提出やフィードバックの機会を設け、思考を深めるプロセスを可視化する。さらに、グループワークにおいては、学びの言語化や整理を促すことができるよう振り返りシートの改良を試み、個々の理解の深化につなげる。これらの取り組みを通して、家族を看護の対象として捉え、多角的にアセスメントし支援できる力の育成を目指す。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		健康教育学	43名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

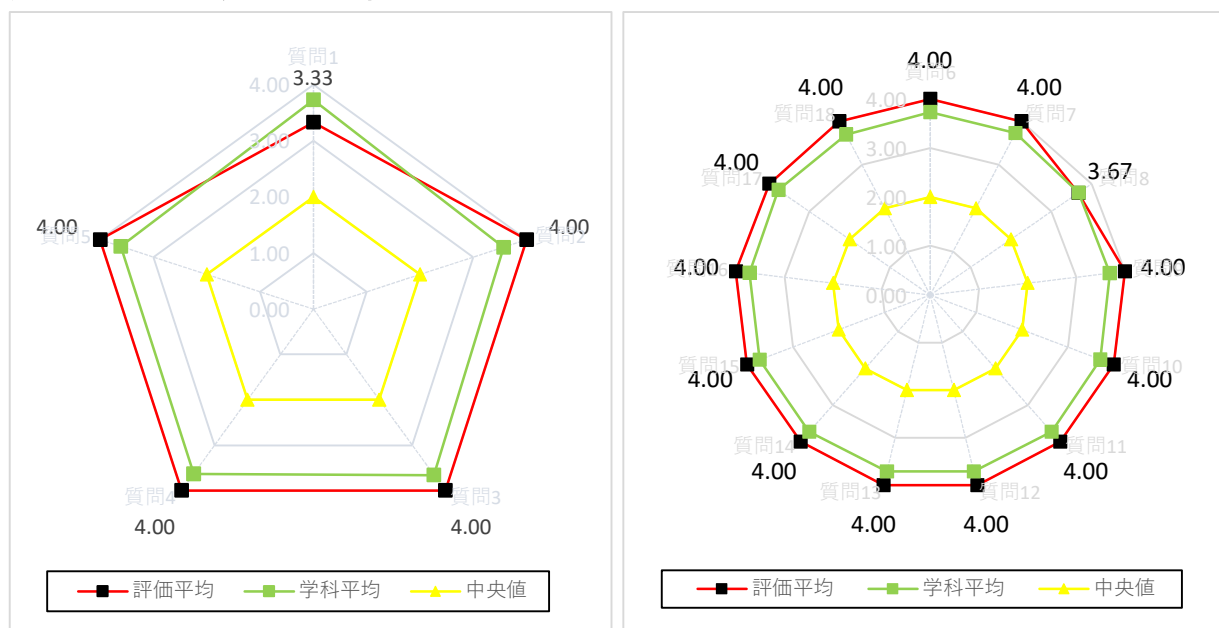
3名の教員で、それぞれの専門分野で講義を行った。看護師課程・保健師課程それぞれの目的に合った健康教育を意識した講義内容とし、学生と積極的に関わることができた。学科平均を超える評価であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

さらに教示内容をブラッシュアップするとともに、学生への問いを工夫しながら実践につながる講義に努めたい。また、国家試験につながる内容を意識しわかりやすく教示していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		高度医療と看護	9名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

トピックスとして一貫性のある領域ではないため、内容が多岐にわたったことが興味関心を引かなかった要因だと考える。

内容によってはトリビアルな内容も取り扱ったため、理解が追いつかなかった点もあったと思う。

4年生後期の選択科目であるため、受講生も少数であり双方向のやり取りを入れることが可能だったと思う。

内容については精査する必要があるが、講師の専門性に依ると関心が薄れる可能性があるので慎重に検討する。

国家試験対策などもあり、欠席が目立った。学生として自己責任の範囲ではあるが、注意が必要であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

選択科目でもあるため、授業内容は平易な内容に留める。

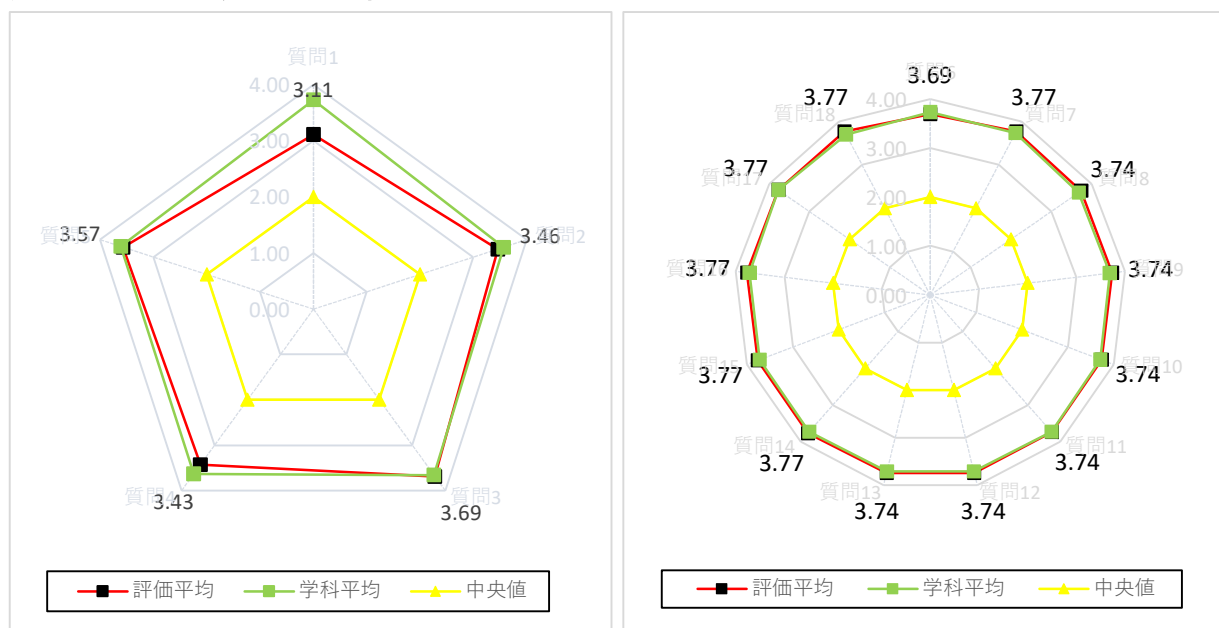
課題内容が曖昧だったこともある為、内容理解に繋がる課題にする。

他の科目との兼ね合いもあり、スケジュール調整が困難であった。

集中講義形式は負担が多いため、開講スケジュールは考慮する必要がある。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		補完・代替医療	39名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

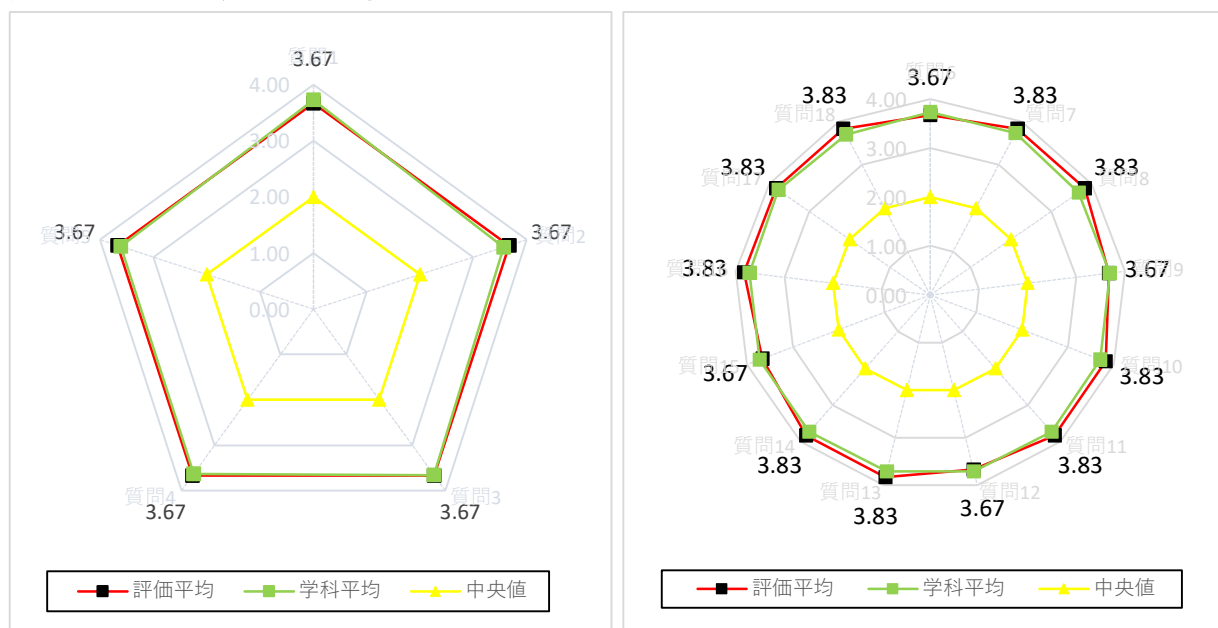
5コマ毎の選択科目であるため、出席に偏りがあったと考える。講義内容そのものについては満足度が高かったことはよかったと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

4年次後期の学修であるため、今後の臨床場面で使用しやすい実践を含めた講義内容を検討していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		公衆衛生看護活動論 I	21名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

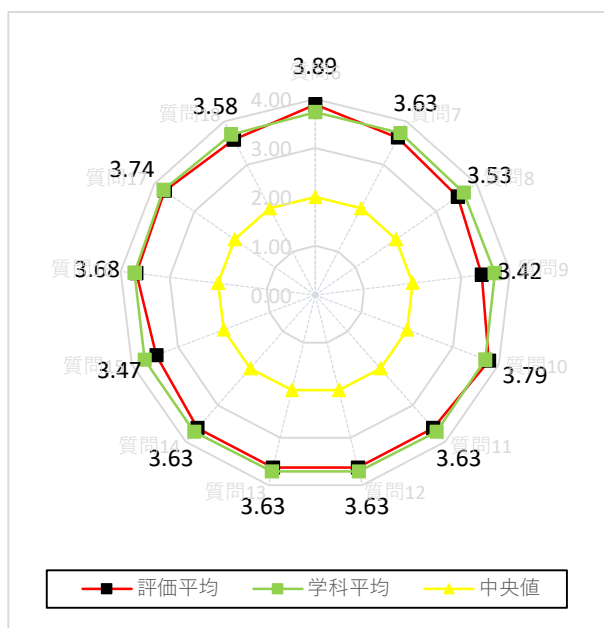
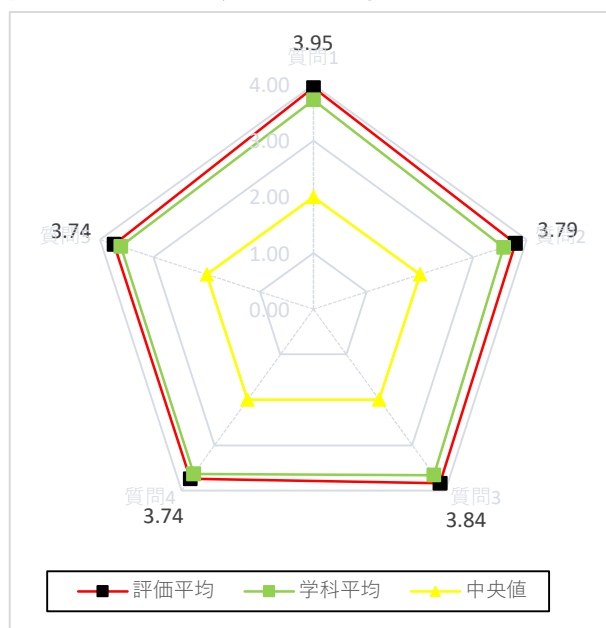
全質問に対して、学科平均同等の高い評価を受けている。
評価についての差は少なく、全体的に学生の満足度は得られていると考えた。

(3) 次年度に向けての取り組み

アンケートに対して講義中に時間を取っているにもかかわらず、全員が回答することはできていないため、入力について確認を再度行っていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		公衆衛生看護活動論Ⅱ	22名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

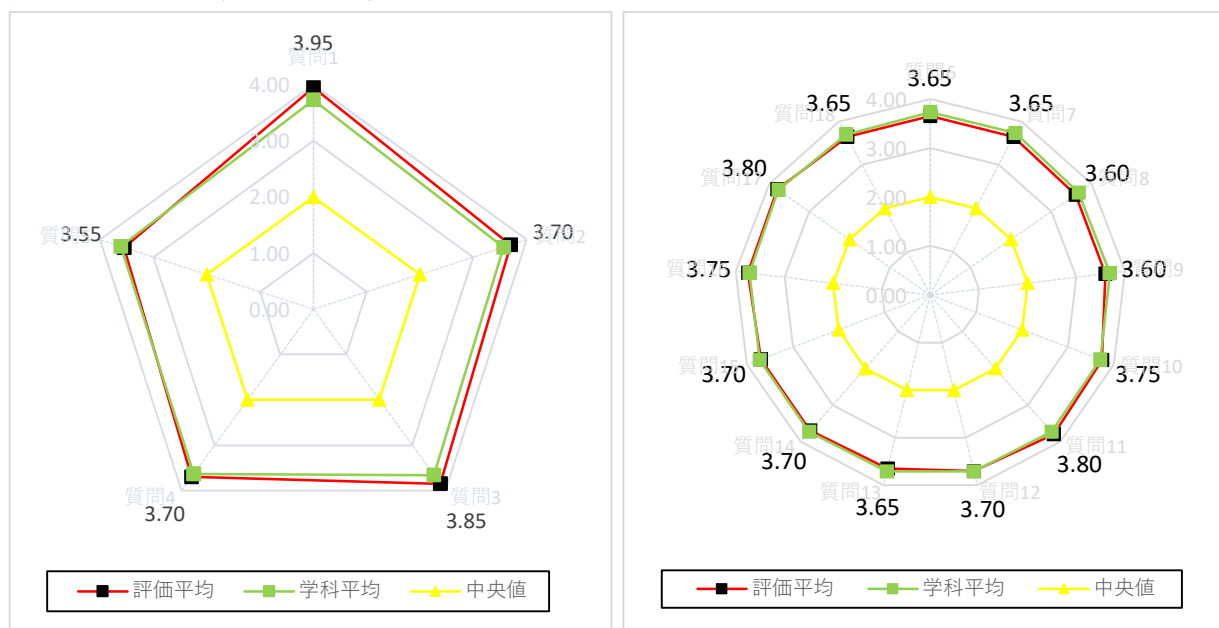
・ 時間内にアンケートと入力時間を持ったにもかかわらず、全員かか入力できていないため、再度確認をしていきたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

・ 評価の中で、授業の分かりやすさについて若干評価が低いため、再度工夫が必要であり、理解について確認を行っていく工夫が必要であると考えられる。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		公衆衛生看護方法論Ⅰ (技術演習)	23名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

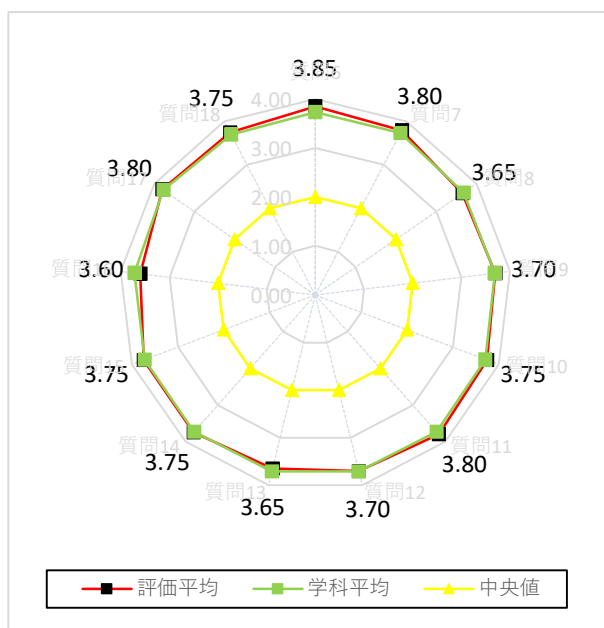
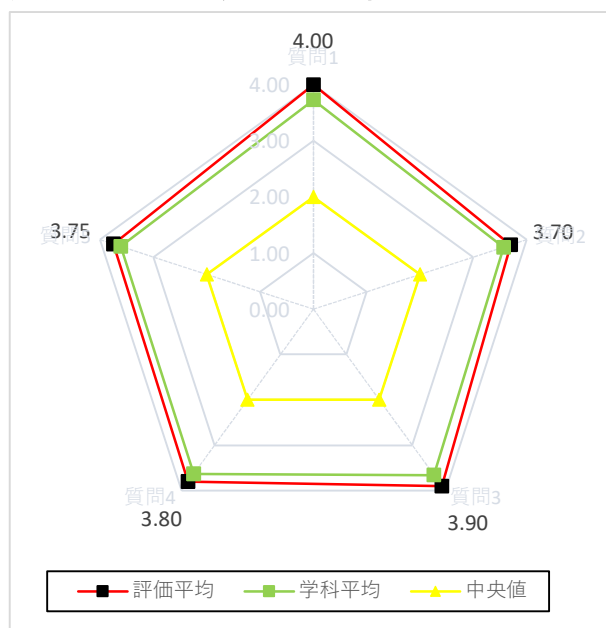
調査に全員が回答し、講評かを受けることができています。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業に対する興味・関心をさらに高めることができるよう、また実習現場で関連づけることができる演習になるよう事例を用いた講義の工夫をしていきたい。
全員が調査に参加できるよう、時間の確保をしていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		公衆衛生看護方法論Ⅱ (地域診断)	23名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

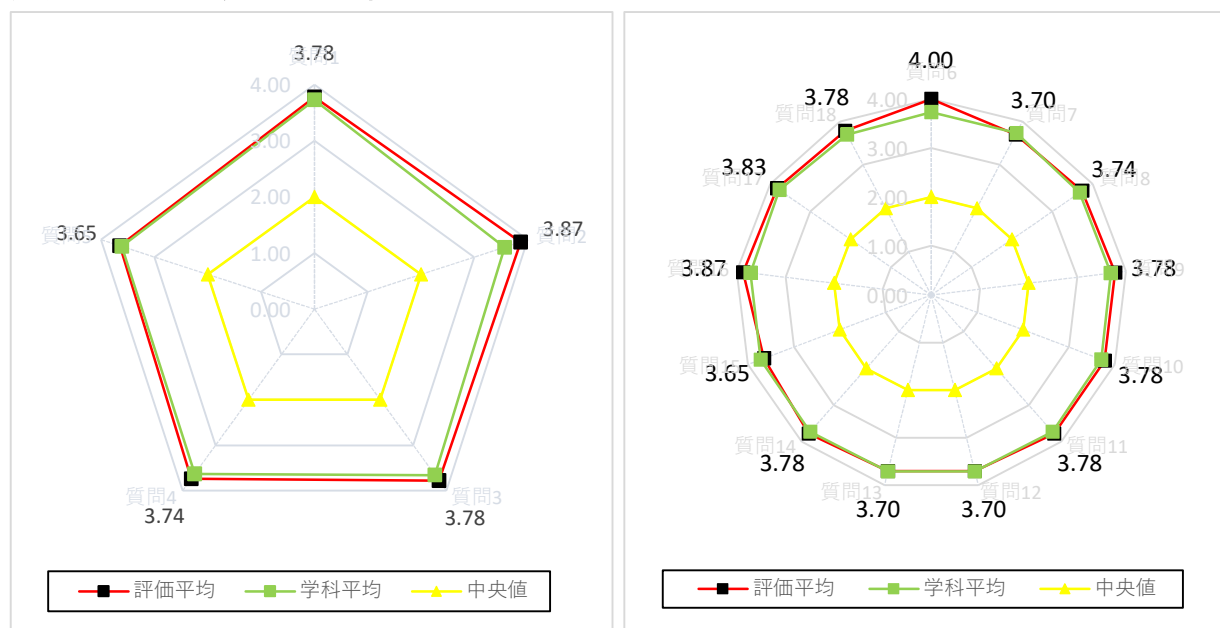
学生が真面目に頑張って全てを仕上げ、評価は学科平均であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生が課題を持って取り組む演習であり、今後も支援し、学生の達成感を高めたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		保健医療福祉行政展開論	23名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

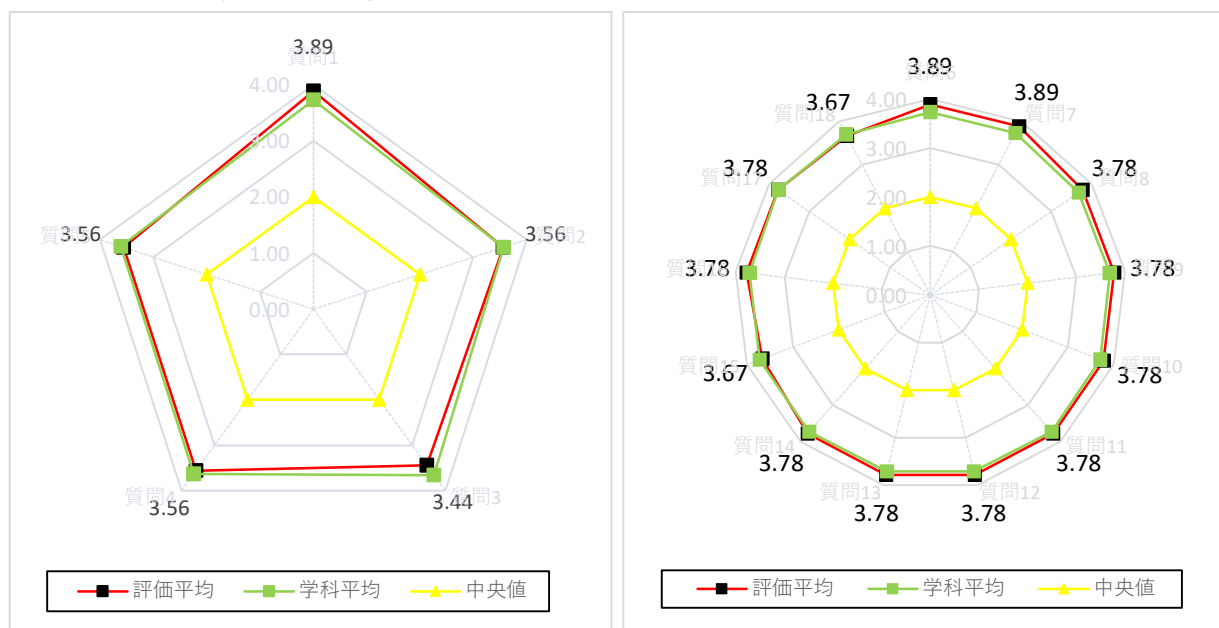
今年度から新カリキュラムとして開始した科目である。学生が担当部分について講義を担当し、有意義な内容であった。学生評価としては学科平均であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

今年度は学生の講義の時間と教員の解説時間のバランスをとりながら、学びの深まる構成を検討する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		学校保健概論	63名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

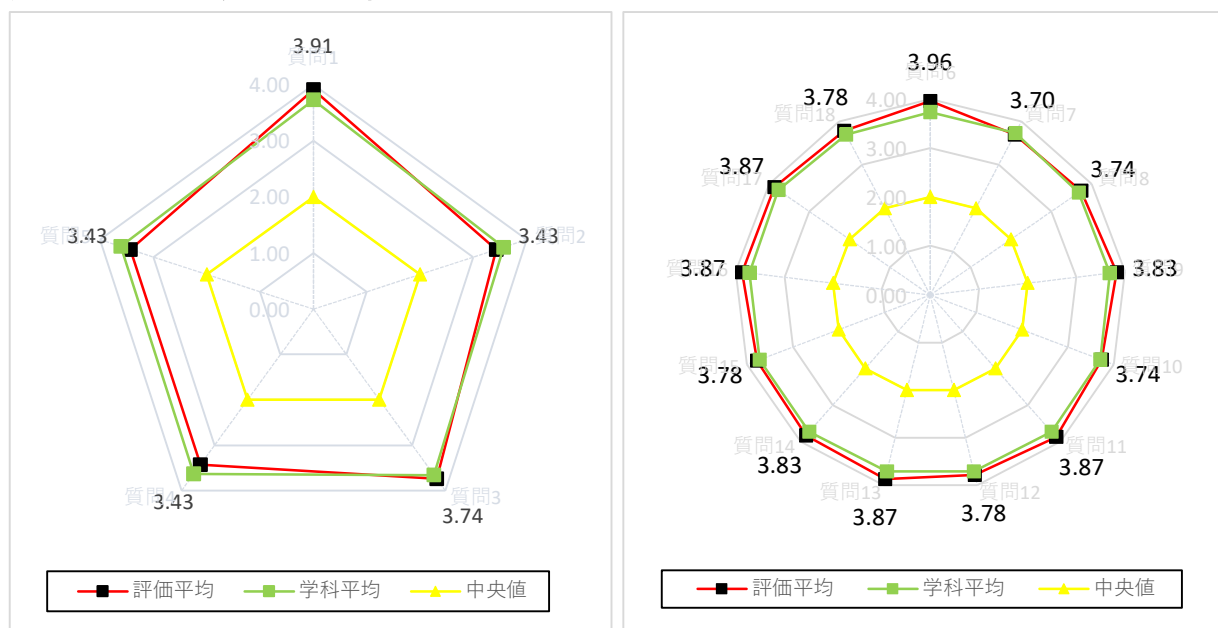
本科目は、教職課程と保健師課程の必修科目となっていますが、看護師課程のみの学生も履修しているため、講義内容が養護教諭に偏ることなく展開できるように演習を多く取り入れました。授業評価アンケートの回答率も高く、授業の総合評価は平均3.70/4.00点でした。自由記述の記載はありませんでしたが毎回講義の意見・質問等には、「座学演習やグループワークがあって楽しかった」、「座学だけではなく保健だよりの作成など演習があってよかった」という記載から、グループワークや演習を授業方法に活かすようにしたことが高評価につながったと考えます。

(3) 次年度に向けての取り組み

アンケートに回答して下さった学生の皆さんに御礼を申し上げます。今年度はアンケート回答者が多く、結果から、現在の高評価を維持できるように継続しくように努力して参ります。今後も演習形式を取り入れながら、受講学生が興味関心を引きやすい課題を用意しグループワーク等を活用した講義展開をしていきたいと考えています。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		公衆衛生看護管理論	23名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

オムニバス講義であるため、講義ごとに講義の目標を提示している教員と提示できていない教員がいたことが問7でわかったため、担当教員で徹底していきたい。

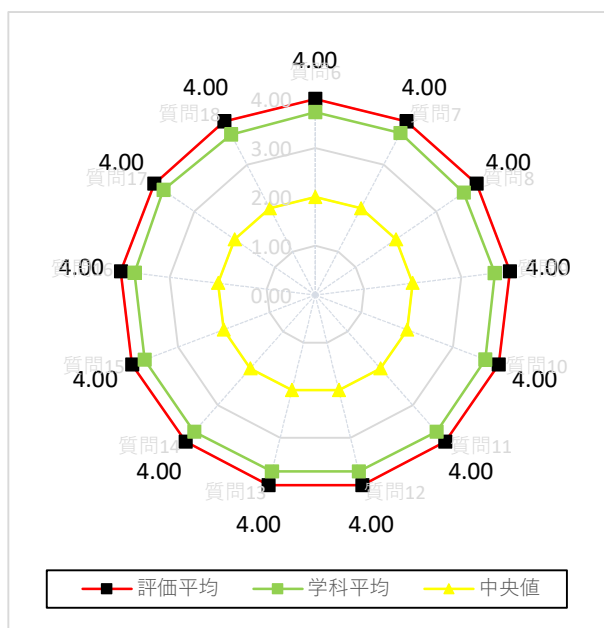
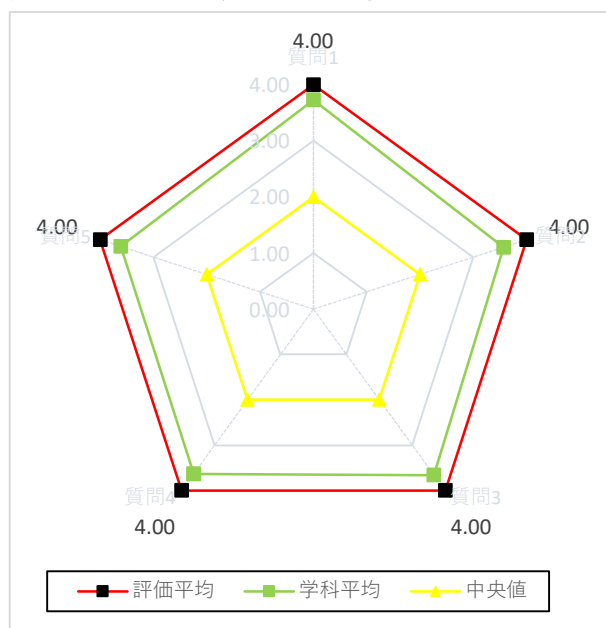
(3) 次年度に向けての取り組み

学生自身がシラバスを活用して、事前事後の学修を徹底していなかったため、その点について周知していきたいと思う。

学制自身の総合評価が学科平均よりやや低めであるため、次年度は、学生自身が達成感を感じられる講義の工夫をしていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		公衆衛生看護学実習Ⅱ (市町)	23名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

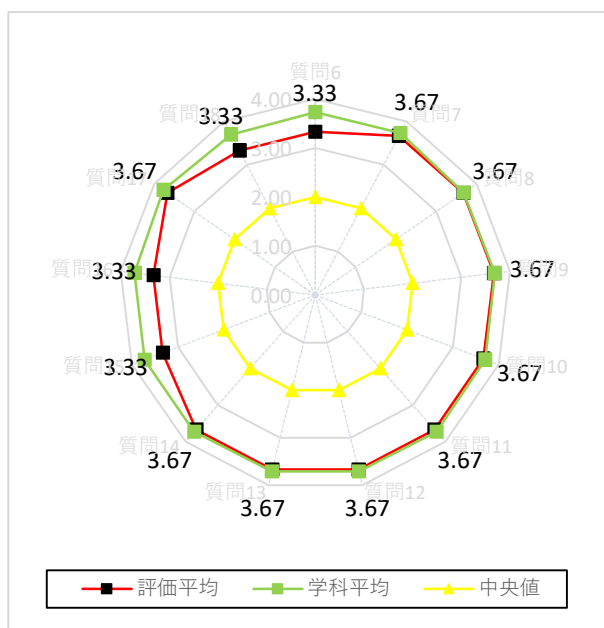
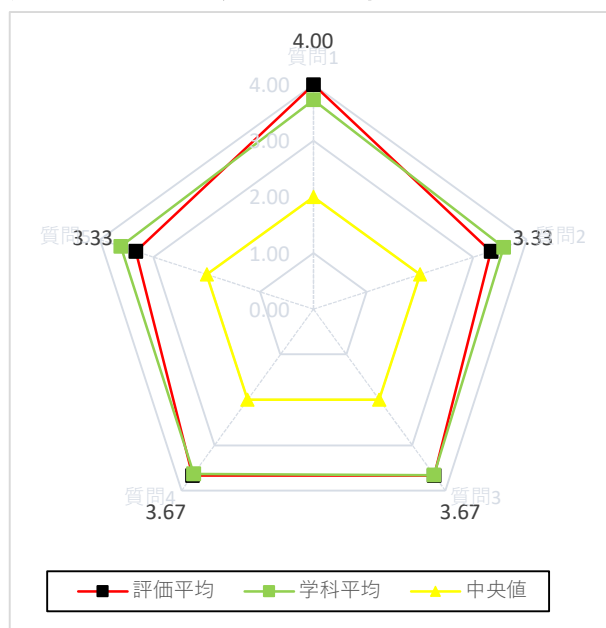
すべての必要において、高評価を受けている。
学生も達成感ある実習であったと思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

実習施設と事前打合せ等行い、前年度同様、実習目標に合致した実習が行えるよう工夫していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		公衆衛生看護学実習Ⅰ (保健所)	23名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

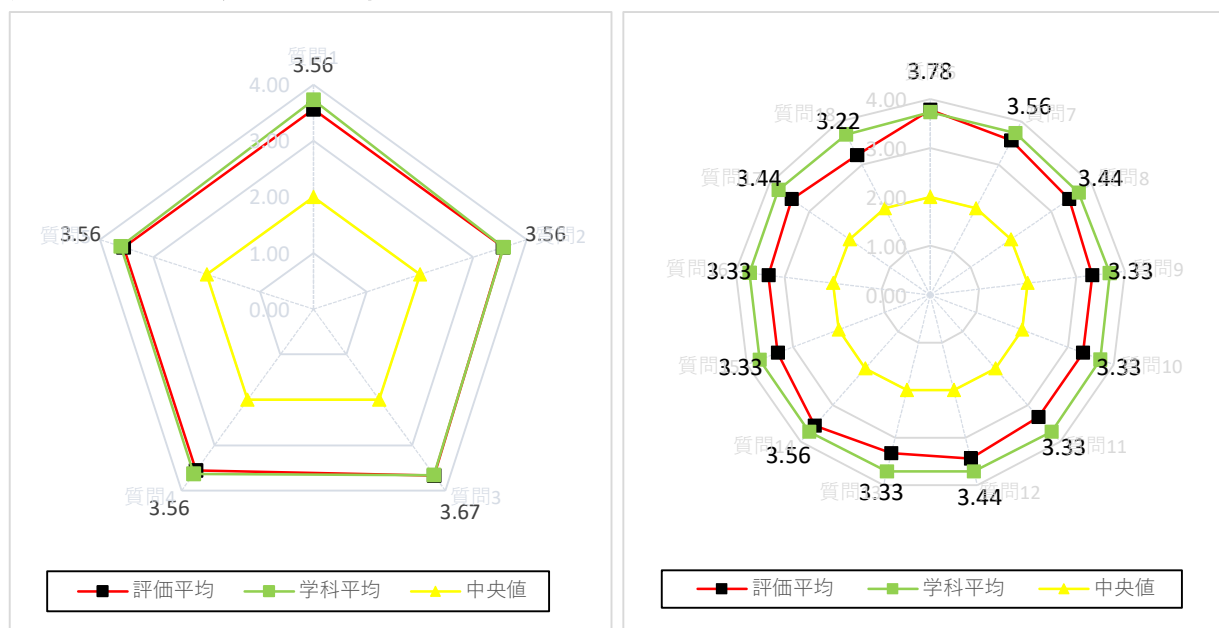
欠席する学生はなかったが、自己評価が低く、内容への評価も低かった。

(3) 次年度に向けての取り組み

自己効力感を高め、実習への満足度を高めるため、事前の説明や振り返りを充実させたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		養護学概論	9名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

本科目は、教職員免許法施行規則に基づく養護教諭免許取得に必要な「養護に関する科目」に位置づけられています。子どもの心身の健康課題に対して、養護教諭の職務や保健室の役割を踏まえた学校保健活動を実践するために必要な知識・技術を理解し、子どもの実態に応じて適切に対応できる能力を養うことを目標として授業を展開しました。

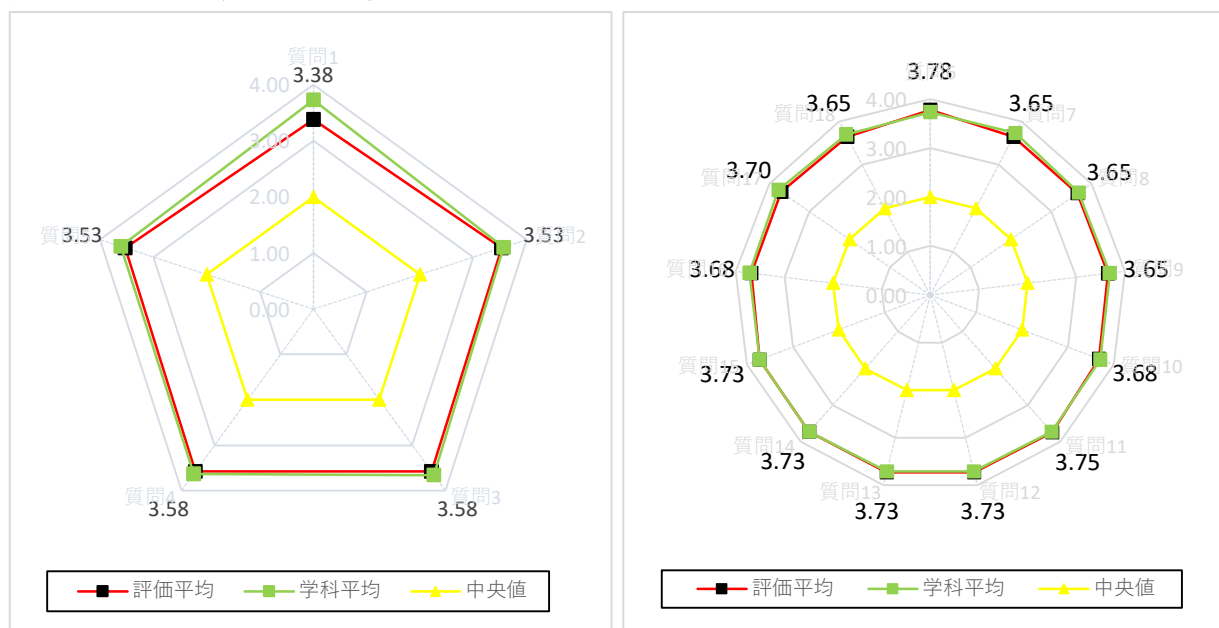
保健指導や保健教育を中心とした講義や課題に取り組む中で、学生は学校現場を想定しながら主体的に学修を進めており、養護教諭としての役割や実務への理解が深まっている様子がうかがえました。一方、授業評価からは課題の多さに関する意見も見られましたが、知識の定着や実践的理解を促すために必要な学習過程として受け止め、真摯に取り組む姿勢が認められました。今後の課題としては、授業内容や課題量について学生の学修状況を踏まえながら精選を図るとともに、より具体的な事例検討や演習を取り入れることで、理解の深化と実践力の定着を一層促進していくように努力したいと思います。

(3) 次年度に向けての取り組み

アンケートにご回答くださった学生の皆さんに御礼申し上げます。今年度はアンケートの回答者数が多く、授業への関心の高さがうかがえました。今後も現在の評価を維持・向上できるよう、継続的な授業改善に努めてまいります。また、演習形式を積極的に取り入れ、受講学生の興味・関心を喚起しやすい課題を工夫するとともに、グループワークを活用した主体的な学修の機会を充実させていきたいと考えています。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		健康相談論	41名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

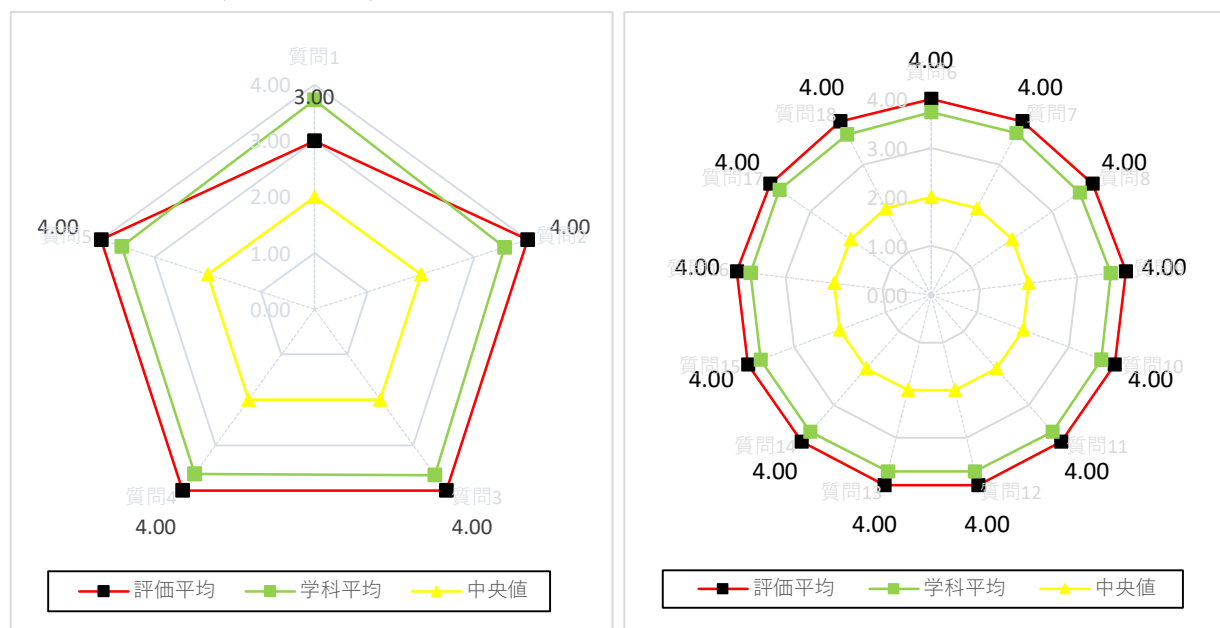
本科目は、教職課程の必修科目となっていますが、今年度は看護師課程の学生も多く履修しているため、講義内容が養護教諭に偏ることなく展開できるように演習を多く取り入れました。授業評価アンケートの回答率も高く、自由記述には、「事例をもとに実践しながら授業に取り組めたのでわかりやすかったです。」「DVDや事例を通して対象との関わり方を学ぶことができた。」「グループワークを通してお互いに意見を深めることができたと思う。」「グループワークを多く取り入れることで興味を持ち、学びを深めることができたのでよかったです。」とグループワークにより学びが深まった意見をいただきました。

(3) 次年度に向けての取り組み

アンケートに回答して下さった学生の皆さんに御礼を申し上げます。今年度はアンケート回答者が多く、現在の高評価を維持できるように努力して参ります。今後も演習形式を取り入れながら、受講学生が興味関心を引きやすい課題を用意しグループワークを活用していきたいと考えています。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		教職実践演習（養護教諭）	6名

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

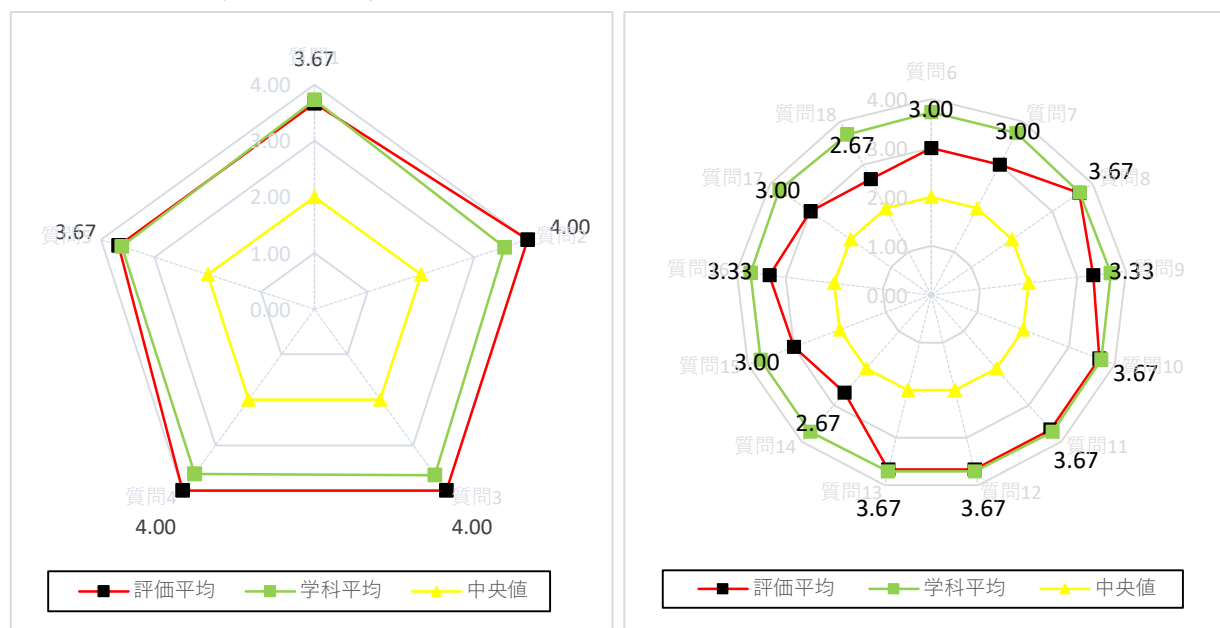
本科目は、教職課程の必修科目であり、養護実習終了後の4年生後期から行われます。目的は教職課程の学びを通じて、学生が身に付けた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて、課程認定大学が自らの養成する教員像や到達目標等に照らして最終的に確認するものとされます。しかしながら、講義の時期は養護実習の事後指導、国家試験対策、看護研究が重なり受講学生は身体的にも精神的にも過密なスケジュールの中で実施しなければならない点が難しく、可能な限り実習で行った課題を元に展開するように気を付けました。

（３）次年度に向けての取り組み

アンケートに回答して下さった学生の皆さんに御礼を申し上げます。今年度はアンケート回答者が少なく、次年度は受講生へ講義時に呼びかけるなど回答率を上げるように呼び掛けていきます。開講時期が学生の多忙な時期と重なるため学生のスケジュールも加味しながら講義計画を立てていきたいと思っています。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		養護実習事前事後指導	6名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

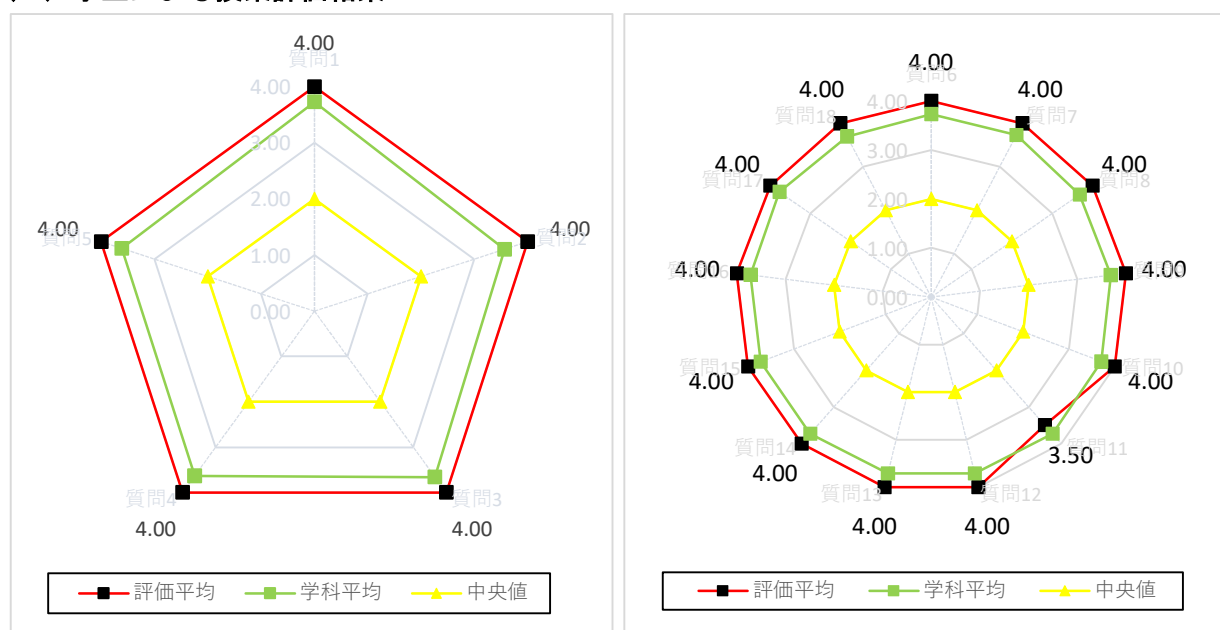
本科目は教職課程の必修科目であり、3週間の養護実習期間の前後に集中講義で開講しています。実習校の実習内容に合わせて行い展開します。今年度は保健科教育と保健指導が中心に行いました。履修学生は指導案の作成から模擬授業の準備、実習校での研究授業の練習を何度も何度も繰り返し、積極的に取り組んでいました。この成果は実習校での研究授業の成功につながりました。

(3) 次年度に向けての取り組み

アンケートに回答して下さった学生の皆さんに御礼を申し上げます。実習校と早めに打ち合わせを行い、実習内容の把握と学生が実習前に準備をしておきたい内容を合わせ、学生が不安なく実習に取り組めるようにしていきたいと思います。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		養護実習	6名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

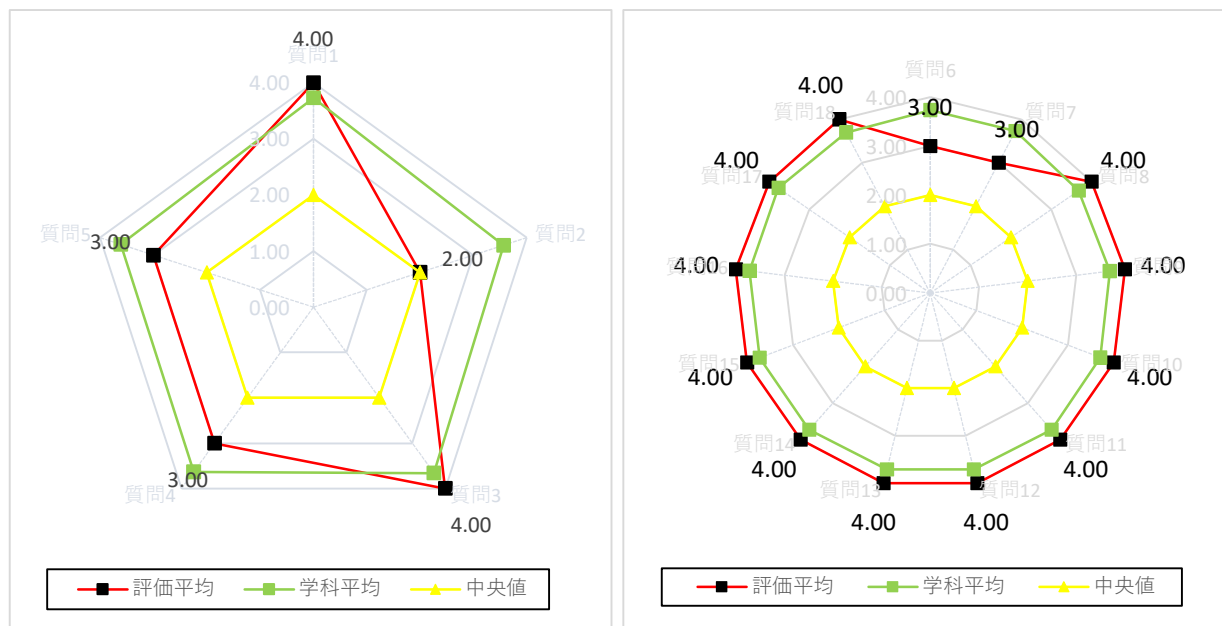
養護実習は3週間実習校の保健室に入り、指導養護教諭とone on oneで指導を受けます。そのため実習内容は学生により異なります。担当教員は、実習目的と内容を事前に打ち合わせ、実習中は指導養護教諭の指導に合わせた準備ができるように学生を支援しました。学生の努力と指導養護教諭の多大なご尽力のお陰にて、満足度が高い実習になったと思われます。

(3) 次年度に向けての取り組み

アンケートに回答して下さった学生の皆さんに御礼を申し上げます。実習校と早めに打ち合わせを行い、事前に実習内容とシラバス（授業計画）について説明を丁寧に行い、実習校の指導養護教諭と密に連携を取りながら、学生が安心して満足度の高い実習ができるように配慮していきたく思います。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		産業保健概論	1名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

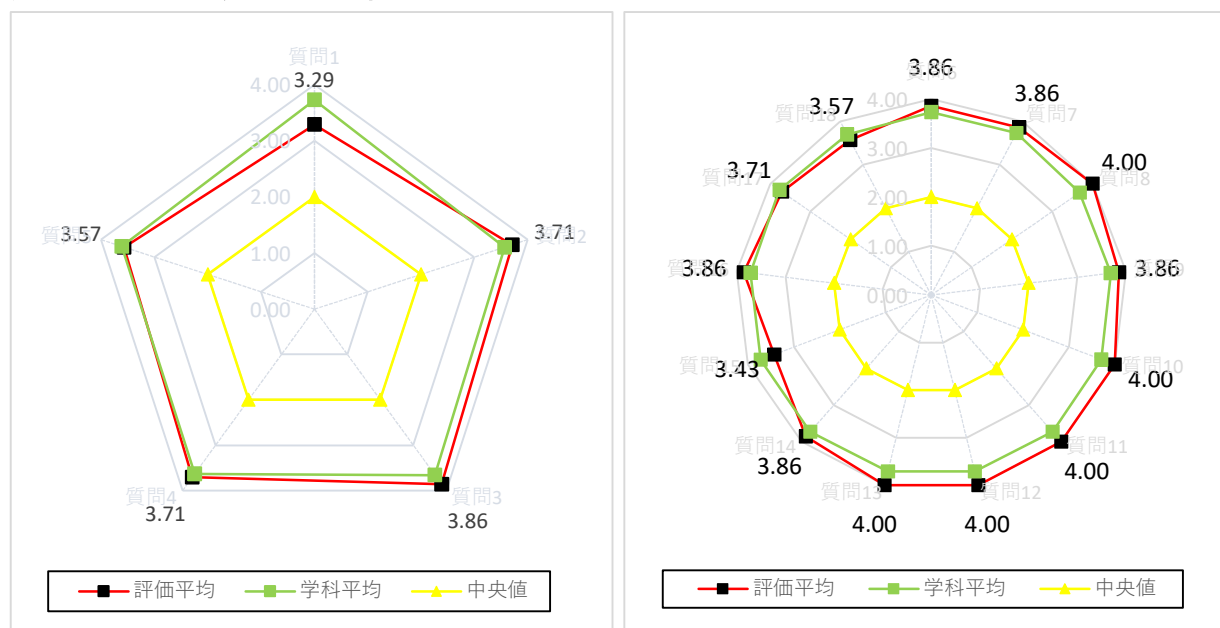
講義中に評価入力時間を確保することができていなかったため、評価率が極端に低かった。シラバスを使って説明は行っているが、評価時に学生の記憶に残っていない。

(3) 次年度に向けての取り組み

全講義日程を通して、シラバスを活用しながら講義を行うことを心掛け、最終的に講義目標を達成できる工夫をしていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		在宅看護学実習	9名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

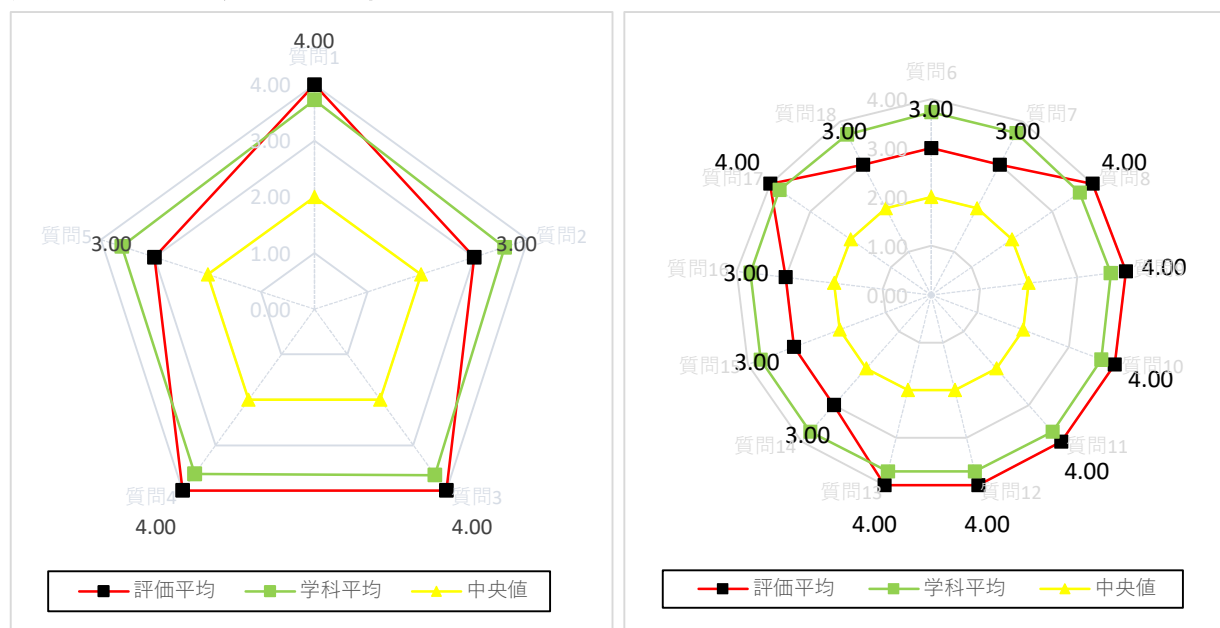
前任者からの引き継ぎが不十分であったため、実習施設との連携が困難であった。
 実習自体は概ね目標達成できたが、目標設定の意図が掴めない部分があり、指導に苦慮した。
 過年度生の実習であり、学力面に不安のある学生が多かったことも実習展開が難しかった要因となった。
 学生の目標達成状況に応じて課題の設定を変更する必要性があり、不公平に感じた学生がいたと思われる。
 他学生の状況に敏感な学生も居るため、ある程度のフォローは必要だった。

(3) 次年度に向けての取り組み

旧カリ科目であるため、次年度以降は開講されない。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
看護学部	看護		公衆衛生看護学実習Ⅱ (学校保健)	1名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

実習方法として、施設内指導者が担当する部分も多く、評価にばらつきがみられた。

(3) 次年度に向けての取り組み

実習オリエンテーションにおいてシラバスを使って説明することを徹底して、学修目標の共有を学生と行っていききたい。
施設指導者との課題共有等徹底していききたい。